

スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

委任力受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ中途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ場合ニ應シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出ダシタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務力辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但己ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了ス受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルト相問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百五十八條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七條第一二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一

ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其實質ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラザリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ存ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 第六百四十六條乃至第六百四十九條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其終了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至第六百五十條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條 組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得ス又解任セラレルコトヲ得

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十三條 各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第六百七十四條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メザリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ

應シテ之ヲ定ム

利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十五條 組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラザリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條 組合員カ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

第六百七十七條 組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脱退ヲ爲スコトヲ得但已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ各組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ脱退ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

- 一 死亡
- 二 破産
- 三 禁治産
- 四 除名

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限り他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條 脱退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脱退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

脱退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

殘餘財産ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ分割ス

第十三節 終身定期金

第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己、相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十條 終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス
第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得
前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス
第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節 和解

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉ス又ハ消滅シタルモノトス

第三章 事務管理

第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス

管理者カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十八條 管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第七百條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス

第七百一條 第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百二條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出タシタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス
管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知りタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時効ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行爲

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘザリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 前二條ノ規定ニ使リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス

監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ損害アル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ應ジテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行爲者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行爲者ト看做ス

第七百二十條 他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得スシテ

加害行爲ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行爲ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス

被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第七百二十四條 不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

人事篇

(明治二十三年十月法律第九十八號)

第一章 私權ノ享有及ビ行使

第一條 凡ソ人ハ私權ヲ享有シ法律ニ定メタル無能力者ニ非サル限りハ自ラ其私權ヲ行使スルコトヲ得

第二條 胎内ノ子ト雖モ其利益ヲ保護スルニ付テハ既ニ生マレタル者ト看做ス

第三條 私權ノ行使ニ關スル成年ハ滿二十年トス但法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第四條 外國人ハ法律又ハ條約ニ禁止アルモノヲ除ク外私權ヲ享有ス

第五條 法人ハ公私中間ハス法律ノ認許スルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス又法律ノ規定ニ從フニ非サレハ私權ヲ享有スルコトヲ得ス

第六條 法律ハ外國法人ノ成立ヲ認許セス但條約又ハ特許アルトキハ此限ニ在ラス

成立ノ認許ヲ得タル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ享有ス但條約中又ハ特許中ニ其權利ヲ制限シタルトキハ此限ニ在ラス

第二章 國民分限

第一節 國民分限ノ取得

第七條 日本人ノ子ハ外國ニ於テ生マレタルトキト雖モ日本人トス

父母分限ヲ異ニスルトキハ父ノ分限ヲ以テ子ノ分限ヲ定ム

父ノ知レサルトキハ子ハ母ノ分限ニ從フ

父母共ニ知レサルトキハ日本ニ於テ生マレタル子ハ日本人トス若シ其出生地ノ知レサルトキハ現ニ日本國內ニ在ル者ハ日本人トス

第八條 左ノ場合中ノ一ニ在ル子ハ日本人ノ分限ヲ選擇スルコトヲ得

第一 父カ外國人タルモ母ノ日本人タルトキ

第二 外國人ノ子タルモ日本ニ生マレタルトキ

第三 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ子ニシテ其分限喪失ノ後ニ生マレタル者ナルトキ

第四 歸化人ノ子ニシテ成年者ナルトキ

第九條 日本人ノ分限ヲ選擇セント欲スル子ハ本國法律ニ從ヒテ成年ニ至リシ時ヨリ一箇年内ニ其意思ヲ申述シ且其申述ヨリ一箇年内ニ住所ヲ日本ニ定ム可シ

成年ノ後ニ至リテ外國人ノ認知シタル私出子ハ認知ヨリ又歸化人ノ子ハ歸化ヨリ一箇年内ニ右ノ申述ヲ爲スコトヲ得

第十條 日本人ト婚姻スル外國ノ女ハ日本人ノ分限ヲ取得シ婚姻解消ノ後ト雖モ其分限ヲ保有ス第十一條 外國人ハ歸化ニ因リテ日本人ノ分限ヲ取得スルコトヲ得其條件及ヒ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

歸化人ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ日本ニ住居ヲ定メタルトキハ日本人ノ分限ヲ取得ス

第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復

第十二條 日本人ハ左ノ場合ニ於テ其分限ヲ失フ

第一 任意ニ外國人ノ分限ヲ取得シタルトキ

第二 日本政府ノ允許ナクシテ外國政府ノ官職ヲ受ケ又ハ外國ノ軍隊ニ入りタルトキ

第十三條 前條ノ場合ニ於テ日本人ノ分限ヲ失ヒタル者其分限ヲ回復セント欲スルトキハ日本政府ノ允許ヲ得タル上歸國シテ其意思ヲ申述シ且一箇年内ニ住所ヲ日本ニ定ムルトキハ其分限ヲ回復ス

第十四條 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ引續キ日本ニ住居スルニ非サレハ日本人ノ分限ヲ失フ但婦ハ第十五條第二項ノ規定ニ從ヒ又未成年ノ子ハ第九條第一項ノ規定ニ從ヒ其分限ヲ回復スルコトヲ得

第十五條 外國人ト婚姻スル日本ノ女ハ日本人ノ分限ヲ失フ

然レトモ婚姻解消ノ後日本ニ住居シ又ハ復歸シ且日本ニ住所ヲ定ムルコトヲ申述スルトキハ其分限ヲ回復ス

第三節 國民分限變更ノ方式及ヒ效力

第十六條 國民分限ノ變更ニ關スル申述ハ日本ニ在リテハ住居地ノ身分取扱吏ニ外國ニ在リテハ日本公使館又ハ日本領事館ニ之ヲ爲ス可シ

此申述ハ部理代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條 國民分限ノ變更ハ將來ニ非サレハ其效力ヲ生セス

第十八條 國民分限ハ出生ノ時ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ懷胎ヨリ出生マテノ間父又ハ母ノ分限ニ變更アリタルトキハ子ハ日本ニ住居スル場合ニ限り日本人ノ分限ヲ保有ス

第三章 親屬及ヒ姻屬

第十九條 親屬トハ血統ノ相聯絡スル者ノ關係ヲ謂フ

六親等ノ外ハ親屬ノ關係アルモ民法上ノ效力ヲ生セス

第二十條 親屬ノ遠近ハ世數ヲ以テ之ヲ定メ一世ヲ以テ一親等トス
親等ノ連續スルヲ親系ト爲ス彼ヨリ此ニ直下スル者ノ親系ヲ直系ト謂ヒ其直下セスシテ同始祖
ニ出ツル者ノ親系ヲ傍系ト謂フ

直系ニ於テ自己ノ出ツル所ノ親族ヲ尊屬親ト謂ヒ自己ヨリ出ツル所ノ親族ヲ卑屬親ト謂フ

第二十一條 直系ニ於テハ親族ノ世數ヲ算シテ親等ヲ定ム
傍系ニ於テハ親族ノ一人ヨリ同始祖ニ遡リ又其始祖ヨリ他ノ一人ニ下タル其間ノ世數ヲ算シテ
親等ヲ定ム

第二十二條 養子縁組ハ養子ト養父母及ヒ其親族トノ間ニ親屬ニ同シキ關係ヲ生ス但養子トハ男
女ヲ總稱ス

第二十三條 嫡母繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ關係ハ親子ニ準ス

第二十四條 姻屬トハ婚姻ニ因リテ夫婦ノ一方ト其配偶者ノ親族トノ間ニ生スル關係ヲ謂フ
然レトモ婦ノ夫家ニ於ケル又入夫ノ婦家ニ於ケル尊屬親トノ關係ハ親屬ニ準ス

第二十五條 夫婦ノ一方ノ親族ハ其親系及ヒ親等ニ於テ配偶者ノ姻族トス

姻屬ノ關係ハ婚姻無效ノ判決又ハ離婚ニ因リテ止ム又生存配偶者其家ヲ去ルニ因リテ止ム

第二十六條 直系ノ親族ハ相互ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス
嫡母繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ間及婦又ハ入夫ト夫家又ハ婦家ノ尊屬親トノ間モ亦同シ

第二十七條 兄弟姉妹ノ間ニハ疾病其他本人ノ責ニ歸セサル事故ニ因リテ自ラ生活スル能ハサル
場合ニ限り相互ニ養料ヲ給スル義務アリ

第二十八條 養料ノ義務ヲ負擔ス可キ者ノ順位ハ左ノ如シ

第一 第二十六條ニ掲ケタル者

第二 兄弟姉妹

直系ノ親族ノ間ハ其親等ノ最モ近キ者養料ノ義務ヲ負擔ス

第二十九條 養料ハ之ヲ受ク可キ者ノ必需ト之ヲ給ス可キ者ノ資産トニ應シテ其額ヲ定ム

第四章 婚姻

第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件

第三十條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 配偶者アル者ハ重子テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 夫ノ失踪ニ原因スル離婚ノ場合ヲ除ク外女ハ前婚解消ノ後六箇月内ニ再婚ヲ爲スコ
トヲ得ス

此制禁ハ其分婉シタル日ヨリ止ム

第三十三條 姦通ノ原因ニ由リテ離婚ノ裁判ヲ言渡サレタル曲者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得
ス

第三十四條 直系ニ於テハ尊屬親ト卑屬親トノ間婚姻ヲ禁ス

第三十五條 傍系ニ於テハ兄弟姉妹及ヒ伯叔父姑舅姪ノ間婚姻ヲ禁ス

第三十六條 直系ノ姻族ノ間ハ其關係ノ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十七條 養子ト養父母又ハ其尊屬親トノ間及ヒ養父母又ハ其尊屬親ト養子ノ配偶者又ハ其卑
屬親トノ間ハ離縁ノ後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十八條 子ハ父母ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル
繼父又ハ繼母アル場合ニ於テ其配偶者タル母又ハ父ノ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキ
ハ繼父又ハ繼母ノ許諾ヲ受ク可シ其許諾ニ付テハ第九章第三節ノ規定ヲ適用ス
第三十九條 父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ク可
シ

祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル
第四十條 父母祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ滿二十年ニ至ラサル者ニ
限リ後見人ノ許諾ヲ受ク可シ

第四十一條 父母ノ知レサル子ハ二十年未滿ニ限リ後見人ノ許諾ヲ受ク可シ
第四十二條 育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ婚姻ハ二十年未滿ニ限リ院長ノ許諾ヲ受ク可シ

第二節 婚姻ノ儀式

第四十三條 婚姻ノ儀式ハ當事者ノ一方ノ住所又ハ居所ノ地ニ於テ之ヲ行フ可シ
雙方ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ前ニ其地ノ身分取扱吏ニ婚姻ヲ爲サントスル申出ヲ爲スコトヲ要ス但
此申出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 雙方ハ前條ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出タス可シ
第一 出生證書
第二 前婚ノ解消ヲ證スル證書

第三 婚姻ニ必要ナル許諾書又ハ其許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類
第四十五條 雙方又ハ一方カ出生證書ヲ呈示スル能ハサルトキハ出生地、住所又ハ居所ノ區裁判

所ノ授付シタル保證書ヲ以テ出生證書ニ代用スルコトヲ得
保證書ハ男女ヲ問ハス又親族ト否トヲ問ハス證人二人カ左ノ諸件ニ付キ區裁判所ニ爲シタル申
述ヲ記載ス

第一 本人ノ氏名、職業、住所及ヒ居所並ニ其父母分明ナルトキハ其氏名、職業、住所及ヒ居所
第二 本人ノ出生ノ地及ヒ年月日

第三 本人ノ出生證書ヲ呈示スル能ハサル原因及ヒ證人ノ其事實ヲ聞知シタル緣由
第四十六條 身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ障礙ト爲ル可キ法律上ノ原因アルコトヲ知リタルト
キハ其儀式ヲ行フコトヲ差止ム可シ

此場合ニ於テハ身分取扱吏ハ理由ヲ記シタル差止書ヲ授付ス可シ
當事者此差止ヲ不當ナリト思料スルトキハ區裁判所ニ抗告シテ其取消ヲ求ムルコトヲ得
裁判所ハ休暇事件ト同シク之ヲ取扱フ可シ

第四十七條 婚姻ハ證人二人ノ立會ヲ得テ慣習ニ從ヒ其儀式ヲ行フニ因リテ成ル
當事者ノ承諾ハ此儀式ヲ行フニ因リテ成立ス
第四十八條 婚姻ノ儀式ハ其申出ノ日ヨリ三日後三十日內ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第四十九條 婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ雙方ヨリ十日內ニ身分取扱吏ニ其届出ヲ爲ス可シ但此
届出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三節 日本外外國ニ於テ爲シ及ヒ外國人日本ニ於テ爲ス婚姻
第五十條 外國ニ於テ日本人ノ間又ハ日本人ト外國人トノ間ニ婚姻ヲ爲ストキハ其國ノ規則ニ
從ヒテ儀式ヲ行フコトヲ得但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

第五十一條 外國ニ於テ日本人ノ間ニ日本ノ規則ニ從ヒテ婚姻ヲ爲ストキハ其國ニ在ル日本公使館又ハ日本領事館ニ婚姻ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス

婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ第四十九條ノ規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第五十二條 日本ニ於テ外國人カ婚姻ヲ爲サントスルトキハ其能力ハ本國ノ法律ニ從フ但第三十條乃至第三十七條ノ條件ニ違背セサルコトヲ要ス

外國人ハ婚姻ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ婚姻ヲ爲スニ障碍ナキコトヲ證スル本國相當官署ノ認定書ヲ差出タス可シ

第四節 婚姻成立ノ證據

第五十三條 婚姻成立ノ證據ハ婚姻證書ヲ以テ之ヲ舉ク可シ但第二百九十一條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

第五十四條 婚姻證書ヲ増減シ毀棄シ隱匿シ又ハ片紙ニ記載シタル場合ニ於テ刑事事又ハ民事ノ訴訟ニ因リテ婚姻ノ成立ヲ認メタル判決ハ之ヲ婚姻證書ニ代用スルコトヲ得

第五節 婚姻ノ不成立及ヒ無効

第五十五條 人違、喪心又ハ強暴ニ因リテ雙方又ハ一方ノ承諾ノ全ク欠缺シタル婚姻ハ不成立トス

第三十四條乃至第三十七條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル婚姻モ亦不成立トス

婚姻ノ不成立ハ何人ニ限ラス何時ニテモ之ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條 第三十條第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ニ違ヒテ婚姻ヲ爲シタルトキハ雙方、尊屬親又ハ現實ノ利益ヲ有スル者ヨリ何時ニテモ其無効ヲ請求スルコトヲ得

右同一ノ場合ニ於テ檢事ハ夫婦ノ生存中ニ限リ職權ヲ以テ婚姻ノ無効ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 不適當ニ付キ無効ヲ請求スル權利ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 適齡ナラサリシ者カ適齡ニ至レル後明示ニテ婚姻ヲ認諾シ又ハ三箇月ヲ過キタルトキ

第二 無効ノ請求後ト雖モ婦カ適齡ナラスシテ懷胎シタルトキ

第三 夫カ適齡ナラスシテ婦ノ懷胎シタルトキ但婦ノ姦通ヲ證スルトキハ格別ナリトス

第五十八條 重婚ニ原因スル婚姻無効ノ請求アリタル場合ニ於テ後婚ノ雙方カ前婚ノ不成立、無効又ハ離婚ヲ主張スルトキハ先ヅ其裁判ヲ爲スコトヲ要ス

前婚ノ配偶者カ失踪シタルトキハ其失踪中ハ重婚ノ無効訴訟ヲ行フコトヲ得ス

第五十九條 左ノ場合ニ於テハ婚姻ハ無効トス

第一 身分取扱吏ニ婚姻ノ申出ヲ爲サス又ハ其差止ヲ受ケタルニ拘ハラズ儀式ヲ行ヒタルトキ

第二 身分取扱吏ノ管轄違ナルトキ

第三 第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第四 證人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒタルトキ

此無効ハ第五十六條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得但婚姻儀式後一箇年ヲ過キタルトキハ無効訴訟ヲ行フコトヲ得ス

第六十條 第三十八條乃至第四十二條ニ定メタル許諾ナクシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ其許諾ヲ與フ可キ者又ハ之ヲ受ク可キ者ヨリ其無効ヲ請求スルコトヲ得

許諾アリタル場合ト雖モ其許諾カ強暴ニ原因シタルトキモ亦同シ

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者カ婚姻ヲ認諾セスシテ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ法律ニ定メタル順位ニ從ヒテ其許諾ヲ與フ可キ者ハ無効訴權ヲ行フコトヲ得

第六十二條 第六十條ニ掲ケタル無効訴權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者カ認諾ヲ爲シ又ハ婚姻アリタルコトヲ知リシ後三箇月ヲ過キタルトキ

第二 三箇月内ト雖モ許諾ヲ受ク可キ者カ婚姻上ノ成年ニ至リ又ハ死亡シタルトキ

第六十三條 強暴ニ因リテ承諾ニ瑕疵アル婚姻ノ無効ハ強暴ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條 前條ノ場合ニ於テ配偶者強暴ヲ免カレタル後明示ニテ認諾シ又ハ三箇月間引續キ同居シタルトキハ婚姻ノ無効ヲ請求スルコトヲ得ス其同居セサル場合ニ於テモ無効訴權ハ一箇年ヲ以テ消滅ス

第六十五條 裁判所ハ婚姻ノ不成立又ハ無効ノ訴訟中夫婦ノ一方ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ婦又ハ夫ニ住家ヲ去ル可キヲ命スルコトヲ得

第六十六條 無効ノ言渡アリタル婚姻ハ子ニ付テハ其出生ノ婚姻前後ナルヲ問ハス法律上ノ效力ヲ生ス

第六節 婚姻ノ効力

第六十七條 婚姻ハ其儀式ヲ行ヒタル日ヨリ效力ヲ生ス但夫婦財産契約ニ付テハ婚姻ノ届出後ニ非サレハ第三者ニ對シテ婚姻ノ效力ヲ採用スルコトヲ得ス

第六十八條 婦ハ夫ノ許可ヲ得ルニ非サレハ贈與ヲ爲シ之ヲ受諾シ不動産ヲ讓渡シ之ヲ擔保ニ供シ借財ヲ爲シ債權ヲ讓渡シ之ヲ質入シ元本ヲ領收シ保證ヲ約シ及ヒ身體ニ羈絆ヲ受クル約束ヲ爲スコトヲ得ス又ハ和解ヲ爲シ仲裁ヲ受ケ及ヒ訴訟ヲ起スコトヲ得ス

第六十九條 夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得但總括ノ許可ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

夫ハ夫婦財産契約ニ依リテ與ヘタル總括ノ許可ト雖モ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第七十條 左ノ場合ニ於テハ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セス

第一 夫カ失踪ノ推定ヲ受ケタルトキ

第二 夫カ禁治産又ハ准禁治産ヲ受ケタルトキ

第三 夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ルトキ

第七十一條 夫ハ婦ニ與ヘタル許可ニ因リテ義務ヲ負擔セス

第七十二條 夫ノ許可ヲ得スシテ婦ノ爲シタル行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得

此銷除ハ夫婦ノ各自及ヒ婦ノ承繼人ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十三條 夫ニ屬スル銷除訴權ハ其銷除シ得ヘキ行爲ヲ知リタル日ヨリ五箇年ノ時効ニ因リ又ハ婚姻ノ解消ニ因リテ消滅ス

婦及ヒ其承繼人ニ屬スル銷除訴權ハ婚姻解消ノ日ヨリ五箇年ノ時効ニ因リテ消滅ス

財産編第五百四十四條以下ノ規定ハ本條ノ銷除訴權ニ之ヲ適用ス

第七節 罰則

第七十四條 婚姻申出ノ時ニ必要ノ書類ヲ差出タサシメサル身分取扱吏ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ

過料ニ處ス

第七十五條 婚姻ノ不成立又ハ無効タル可キ法律上ノ原因アルヲ知リテ其儀式ヲ行フコトヲ差止メサル身分取扱吏ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 第三十二條ノ制禁ニ違背シテ再婚ヲ爲シタル婦ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其情ヲ知リテ婚姻ヲ爲シタル夫及ヒ婚姻ノ儀式ヲ行フコトヲ差止メサル身分取扱吏モ亦同シ

第七十七條 夫婦ノ一方ニシテ婚姻ノ無効ヲ致シタル原因ヲ知リ之ヲ他ノ一方ニ隱秘シタル者ハ

三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 離婚

第一節 協議ノ離婚

第七十八條 夫婦ハ下ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 離婚セントスル夫婦ハ婚姻許諾ノ爲メ第四章第一節ニ定メタル規則ニ從ヒ各其父

母、祖父母又ハ後見人ノ許諾ヲ受ケルコトヲ要ス

第八十條 夫婦ハ離婚協議書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第一 婚姻證書

第二 離婚ノ許諾ヲ與フ可キ者ノ許諾書若シ其者死亡シ又ハ意思ヲ表スル能ハサルトキハ死亡證書又ハ其事由ヲ證スル書類

第二節 特定原因ノ離婚

第一款 離婚及ヒ不受理ノ原因

第八十一條 離婚ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一 姦通但夫ノ姦通ハ刑ニ處セラレタル場合ニ限ル

第二 同居ニ堪ヘサル暴虐、脅迫及ヒ重大ノ侮辱

第三 重罪ニ因レル處刑

第四 竊盜、詐欺取財又ハ猥褻ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第五 惡意ノ遺棄

第六 失踪ノ宣言

第七 婦又ハ入夫ヨリ其家ノ尊屬親ニ對シ又ハ尊屬親ヨリ婦又ハ入夫ニ對スル暴虐、脅迫及ヒ重大ノ侮辱

ヒ重大ノ侮辱

第八十二條 離婚ノ請求ヲ爲ス一方ニ對シテ離婚ノ原因存スルトキハ他ノ一方モ反訴ヲ以テ離婚ヲ請求スルコトヲ得

然レトモ前條第三號及ヒ第四號ニ記載スル重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル一方ハ他ノ一方ノ處刑ヲ原因トシテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ス

第二款 假處分

第八十三條 離婚ノ訴訟中子ノ監護ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス夫ニ屬ス但入夫及ヒ婿養子ニ付テハ婦ニ屬ス

然レトモ裁判所ハ夫、婦、親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ其監護ヲ他ノ一方又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第八十四條 離婚ノ訴訟中婦ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス裁判所ノ許可ヲ得テ住家ヲ去ルコトヲ得此場合ニ於テハ自己ノ衣服其他ノ日用品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ得

得

裁判所ハ夫ノ意見ヲ聽キテ婦ノ移居ス可キ家屋ヲ指示スルコトヲ要ス若シ婦カ正當ノ理由ナクシテ其家屋ヲ去ルトキハ夫ハ養料ヲ拒ムコトヲ得

第八十五條 入夫及ヒ婿養子ニ付テハ裁判所ハ離婚ノ訴訟中夫ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用ス

第八十六條 裁判所ハ住家ヲ去ル婦又ハ夫ノ請求ニ因リ其財産ヲ保存スル爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三款 離婚ノ訴

第八十七條 離婚ヲ請求スル訴權ハ夫婦ノミニ屬ス

第八十八條 離婚ノ原因ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス可シ但シ自白ノミヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ス又卑屬親ヲ除ク外親族、姻族又ハ雇人ニ關スル忌避ノ規定ヲ適用セス

第三節 離婚ノ效力

第八十九條 離婚ハ其届出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第九十條 離婚ノ後子ノ監護ハ夫ニ屬ス但入夫及ヒ婿養子ニ付テハ婦ニ屬ス然レトモ裁判所ハ夫、婦、親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ之ヲ他ノ一方又ハ第三者ノ監護ニ付スルコトヲ得

第六章 親子

第一節 親子ノ分限ノ證據

第九十一條 婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子トス

婚姻ノ儀式ヨリ百八十日後又ハ夫ノ死亡若クハ離婚ヨリ三百日内ニ生マレタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス

第九十二條 嫡出子ハ出生證書ヲ以テ之ヲ證ス

第九十三條 出生證書ヲ呈示スル能ハサルトキハ親子ノ分限ハ嫡出子タル身分ノ占有ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得但第二百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十四條 身分ノ占有トハ夫婦ト其婚姻ニ因リテ生マレタリト主張スル者トノ間其者ノ出生ノ時ヨリ親子ノ分限ヲ證スルニ足ル可キ事實ノ湊合スルヲ謂フ其事實ノ著明ナルモノ左ノ如シ

第一 子ナリト主張スル者カ常ニ其父ナリトスル者ノ氏ヲ稱シタルコト

第二 子ナリト主張スル者カ常ニ其父母ナリトスル者ヨリ嫡出子ノ如ク取扱ハレ其養育、教育ヲ受ケタルトキ

第三 子ナリト主張スル者カ常ニ親族及ヒ世上ニ於テ嫡出子ト認メラレタルコト

第九十五條 庶子ハ父ノ届出ニ基ク出生證書ヲ以テ之ヲ證ス但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十六條 父ノ知レサル子ハ私生子トス

第九十七條 私生子ハ出生證書ヲ以テ之ヲ證ス但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十八條 私生子ハ父之ヲ認知スルニ因リテ庶子ト爲ル

第九十九條 庶子ノ出生届及ヒ認知ハ父自ラ身分取扱吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス未成年者ト雖モ自ラ之ヲ爲スコトヲ得

第二節 否認訴權

第一百條 否認訴權ハ夫ノミニ屬ス但子ノ出生後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第一百一條 夫カ民事上ノ禁治産ヲ受ケタルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ否
認訴權ヲ行フコトヲ得

第一百二條 夫カ子ノ出生ノ場所ニ在ルトキハ出生ヨリ三箇月ノ期間内ニ限り否認訴權ヲ行フコト
ヲ得但夫カ婦ト住家ヲ異ニシ又ハ婦カ子ノ出生ヲ夫ニ隠秘シタルトキハ此期間ハ子ノ出生ヲ知
リタル日ヨリ起算ス

若シ夫カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ訴權ノ期間ヲ四箇月トシ子ノ出生ヲ知リタル日ヨリ起算ス

第三節 庶子及ヒ私生子ノ嫡出子ト爲ル權

第一百三條 庶子ハ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト爲ル

私生子ハ父母ノ婚姻ノ後父ノ認知シタルニ因リテ嫡出子ト爲ル

第一百四條 死亡シタル子ト雖モ前條ノ規定ニ依リ嫡出子ト爲ル此場合ニ於テハ其效力ハ子ノ生ミ
タル子ヲ利ス

第一百五條 父母ノ婚姻ノ時マテニ父子ノ分限確定シタル者ハ婚姻ノ日ヨリ又婚姻ノ後ニ確定シタ
ル者ハ確定ノ日ヨリ嫡出子ノ權利ヲ有ス

第七章 養子縁組

第一節 養子縁組ニ必要ナル條件

第一百六條 何人ト雖モ養子ト爲ル可キ者ヨリ年長ニシテ成年ナルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得
ス

遺言ヲ爲ス能力アル者ハ遺言養子ヲ爲スコトヲ得

第一百七條 家督相續ヲ爲ス可キ男子アル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第一百八條 後見人ハ管理ノ計算ヲ爲ササル前ニ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但遺言養子ト爲
スハ此限ニ在ラス

第一百九條 戸主ニ非サル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス但推定家督相續人ニシテ戸主ノ許諾ヲ得タル
者ハ此限ニ在ラス

第一百十條 配偶者アル者ハ其配偶ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス但配偶者カ其意
思ヲ表スル能ハサルトキハ此限ニ在ラス

配偶者アル者ハ其配偶者ト一致スルニ非サレハ養子ト爲ルコトヲ得ス

第一百十一條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス
又推定家督相續人ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

然レトモ分家ヨリ本家ヲ承繼スル必要アルトキハ本條ノ規定ヲ適用セス

第一百十二條 外國人ハ日本人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

第二節 養子縁組ノ儀式

第一百十三條 養子縁組ハ當事者ノ承諾ニ因リテ成ル

此承諾ハ證人二人ノ立會ヲ得テ慣習ニ從ヒ縁組ノ儀式ヲ行フニ因リテ成立ス
縁組ノ儀式ヲ行フニ付テハ第四十三條、第四十六條及ヒ第四十八條ノ規定ヲ適用ス

第一百十四條 當事者ハ身分取扱吏ニ縁組ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出タス可シ

第一 養子ヲ爲ス者及ヒ養子ト爲ル者ノ出生證書又ハ之ニ代用スル保證書

第二 家督相續ヲ爲ス可キ男子ナキコトヲ證スル身分取扱吏ノ認定書又ハ推定家督相續人廢
除ノ證書

第三 配偶者ノ承諾書又ハ承諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第四 後見管理ノ計算ヲ爲シタル證明書

第五 縁組ニ必要ナル許諾書又ハ許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第百十五條 滿十五年ニ至ラサル子ノ縁組ハ父母之ヲ承諾スルコトヲ得

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母若シ其一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

第百十六條 滿十五年ニ至リタル者ハ父母ノ許諾ヲ受ケテ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ケ可シ若シ祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

第百十七條 父母、祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ二十年未滿ノ者ニ限り

前二條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ後見人之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ

第百十八條 私生子ノ養子縁組ニ付テハ母之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ

父母ノ知レサル子ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百十九條 前數條ノ場合ニ於テ繼父又ハ繼母アルトキハ第三十八條第三項ノ規定ヲ適用ス

第百二十條 育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ縁組ハ二十年未滿ニ限り第百十五條及ヒ第百十六條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ院長之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フルコトヲ得

六條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ院長之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フルコトヲ得

第百二十一條 婿養子縁組ニ付テハ婚姻ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ當事者ハ婿養子縁組ヲ爲スノ意思ヲ身分取扱吏ニ申出ツ可シ

此縁組ニ必要ナル條件ノ欠缺スルトキハ身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ差止ムルコトヲ得

此縁組ハ婚姻ノ儀式ヲ行フニ因リテ成ル

第百二十二條 遺言養子縁組ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲ス

此遺言ハ養子ヲ爲ス者ノ死亡ノ日ニ家督相繼ヲ爲ス可キ卑屬親アルトキハ其效ヲ失フ

第百二十三條 遺言養子ヲ爲ス者ノ死亡シタルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒテ縁組ノ受諾ヲ爲ス可シ

第百二十四條 縁組ノ儀式ヲ行ヒ又ハ縁組ノ受諾ヲ爲シタルトキハ當事者ヨリ十日内ニ身分取扱吏ニ届出ツ可シ但此届出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條 第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ之ヲ縁組ニ適用ス但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

第三節 養子縁組ノ證據

第百二十六條 縁組ハ縁組證書ヲ以テ之ヲ證ス但第百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五十四條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ適用ス

第四節 養子縁組ノ不成立及ヒ無効

第百二十七條 縁組ハ人達、裏心又ハ強暴ニ因リテ承諾ノ全ク欠缺シタルトキハ不成立トス

第百二十八條 縁組ハ本章第一節ニ定メタル條件ノ一ニ違背シタルトキハ無効トス

此無効ハ第百三十條ノ場合ヲ除ク外當事者其他現實ノ利益ヲ有スル者及ヒ檢事ヨリ何時ニテモ

之ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十九條 縁組ハ左ノ場合ニ於テ無効トス

第一 縁組ノ申出ヲ爲サス又ハ身分取扱吏ノ差止ヲ受ケタルニ拘ハラズ儀式ヲ行ヒタルトキ

第二 證人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第三 第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行ヒタルトキ

第四 縁組ノ申出ヲ受ケタル身分取扱吏ノ管轄違ナルトキ

此無効ハ儀式後一箇年内ニ限り前條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三百十條 第八條又ハ第九條但書ノ規定ニ違ヒタル縁組ノ無効ハ被後見人又ハ養家ノ戸主ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

被後見人カ成年ニ至リ又ハ戸主カ縁組ヲ知りタル後縁組ヲ認諾シ又ハ三箇月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第三百十一條 強暴ノ爲メ承諾ニ瑕疵アル縁組ノ無効ハ強暴ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但強暴ヲ免カレタル後縁組ヲ認諾シ又ハ三箇月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第三百十二條 第十六條乃至第二十條ニ定メタル許諾ナクシテ爲シタル縁組ノ無効ハ許諾ヲ與フ可キ者又ハ許諾ヲ受ク可キ者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十條第二項第六十一條及ヒ第六十二條ノ規定ハ此無効訴權ニ之ヲ適用ス

第三百十三條 婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ縁組又ハ婚姻ノ無効言渡ヲ原因トシテ婚姻又ハ縁組ノ無効ヲ請求スルコトヲ得但無効言渡ノ後三箇月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第五節 養子縁組ノ效力

第三百十四條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養家ニ於テ嫡出子ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第三百十五條 養子ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ其齎帶シ又ハ相續、贈與若クハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス但未成年中ノ財産管理ハ第九章ノ規定ニ從ヒテ養父母ニ屬ス

第六節 罰則

第三百十六條 縁組申出ノ時ニ必要ノ書證ヲ差出タサシメサル身分取扱吏ハ二圓以上二十圓以下ノ過料ニ處ス

縁組ノ不成立又ハ無効タル可キ法律上ノ原因アルコトヲ知リテ其儀式ヲ行フヲ差止メサル身分取扱吏ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 養子ノ離縁

第一節 協議ノ離縁

第三百十七條 養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ハ協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得然レトモ十五年未滿ニテ養子ト爲リタル者ノ離縁ハ滿十五年ニ至ラサル間ニ限り養子ヲ爲シタル者ト縁組承諾ノ權ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百十八條 離縁ヲ爲サントスル養子ハ縁組許諾ノ爲メ定メタル規則ニ從ヒ其父母、祖父母又ハ後見人ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三百十九條 當事者ハ離縁協議書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第一 縁組證書

第二 離縁ノ爲メニ必要ナル許諾書又ハ許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第二節 特定原因ノ離縁

第四百十條 離縁ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一 養子ヨリ養家ノ尊屬親ニ對シ又ハ養家ノ尊屬親ヨリ養子ニ對スル暴虐、脅迫、遺棄又ハ重大ノ侮辱

第二 重罪ニ因レル處刑

第三 竊盜又ハ詐欺取財ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第四 浪費

第八十二條及ヒ第八十八條ノ規定ハ離縁ニ之ヲ適用ス

第四百十一條 離縁ヲ請求スル訴權ハ養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ノミニ屬ス

養子ヲ爲シタル者又ハ養子ト爲リタル者カ死亡シタルトキハ離縁ノ訴權ハ消滅ス但訴訟中ニ死亡シタル場合ニ於テハ現實ノ利益ヲ有スル者其訴訟ヲ續行スルコトヲ得

第四百十二條 養子ヲ爲シタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ離縁ヲ請求スルコトヲ得

養子ト爲リタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ實家ノ父母、祖父母又ハ戸主ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第四百十三條 養子ノ滿十五年ニ至ラサル間ハ縁組承諾ノ權ヲ有スル者ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第四百十四條 養子カ養父母ト同居スルトキハ裁判所ハ離縁ノ訴訟中養子ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ養子ハ衣服其他ノ日用物品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ得
裁判所ハ養子ノ請求ニ因リテ其財産ヲ保存スル爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四百十五條 離縁ハ養子ノ家督相續後之ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 離縁ノ效力

第四百十六條 離縁ハ其届出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第四百十七條 離縁ト爲リタル養子ハ自己ノ過失ノ有無ニ拘ハラズ其所有財産ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但養家ノ爲メニ消費シタルモノハ此限ニ在ラス

第四百十八條 婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ離縁ヲ原因トシテ離婚ヲ請求シ又離婚ヲ原因トシテ離縁ヲ請求スルコトヲ得但離婚又ハ離縁ヨリ三箇月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第九章 親權

第一節 子ノ身上ニ對スル權

第四百十九條 親權ハ父之ヲ行フ

父死亡シ又ハ親權ヲ行フ能ハサルトキハ母之ヲ行フ

父又ハ母其家ヲ去リタルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ス

第四百十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ受クルニ非サレハ父母ノ住家又ハ其指定シタル住家ヲ去ルコトヲ得ス

子カ許可ヲ受ケスシテ其住家ヲ去リタルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ歸家セシムルコトヲ得

第四百十一條 父又母ハ子ヲ懲戒スル權ヲ有ス但過度ノ懲戒ヲ加フルコトヲ得ス

第五百五十二條 子ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由アルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ其子ヲ感化場又ハ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

入場ノ日數ハ六箇月ヲ超過セサル期間内ニ於テ之ヲ定ム可シ但父又ハ母ハ裁判所ニ申請シテ更ニ其日數ヲ増減スルコトヲ得

右申請ニ付テハ總テ裁判上ノ書面及ヒ手續ヲ用ユルコトヲ得ス

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キテ決定ヲ爲ス可シ父、母及ヒ子ハ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二節 子ノ財産ノ管理

第五百五十三條 父ハ未成年ナル子ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ自己ノ財産ニ於ケル如ク其財産ヲ管理ス

第五百五十四條 父ノ管理ニ於テハ第九十四條ニ記載シタル行爲ハ尙ホ之ヲ管理行爲ト看做ス

第五百五十五條 子ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ相続、贈與又ハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス

第五百五十六條 父ハ管理ノ止ミタルトキハ子ニ其財産ヲ引渡ス可シ但收益ハ子ノ養育教育ノ費用及ヒ管理ノ費用ニ供シタルモノト看做ス

第五百五十七條 本節ノ規定ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合ニ之ヲ適用ス然レトモ母ハ管理ヲ辭スルコトヲ得

第三節 嫡母、繼父及ヒ繼母ニ特別ナル規則

第五百五十八條 嫡母、繼父又ハ繼母ノ親權ヲ行フ場合ニ於テハ相談人ヲ付スルコトヲ得

此相談人ハ配偶者證書若クハ遺言書ヲ以テ之ヲ定メ又ハ親族會其議決ヲ以テ之ヲ定ム

第五百五十九條 相談人ハ後見監督人ト同一ノ權限及ヒ義務ヲ有ス

第六十條 配偶者カ相談人ヲ定メサル場合ニ於テ親族會ヲ召集セサルトキ又ハ配偶者若クハ親族會ノ定メタル相談人ニ相談セサルトキハ區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ嫡母、繼父又ハ繼母ニ對シテ親權行使ノ禁止ヲ宣告スルコトヲ得

第十章 後見

總則

第六十一條 後見ハ未成年者ノ父又ハ母ニシテ生存スル者ノ死亡ニ因リテ開始ス

父母共ニ生存シ又ハ其一方ノ生存スルモ親權ヲ行フ能ハサルトキ又ハ母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭スルトキモ亦同シ

第六十二條 一家ニ未成年者數人アルモ後見人ハ一人タル可シ

第六十三條 後見人ハ親族會ノ免除ヲ得サル限リハ後見ヲ承諾ス可シ若シ後見人之ヲ承諾セス又ハ其任務ヲ怠ルトキハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ區裁判所ハ代務者ヲ命スルコトヲ得

後見人ハ代務者ノ管理ノ費用ヲ負擔シ且其管理ニ付キ責ニ任ス

第一節 後見人

第六十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ於テ親族、姻族、又ハ他人ノ中ヨリ後見人タル可キ者ヲ指定スル權ヲ有ス

第六十五條 後見人ノ指定ハ遺言書若クハ證書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ區裁判所ニ口述シテ之ヲ爲

ス可シ此口述ニ付テハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第六十六條 父又ハ母カ後見人ヲ指定セサリシトキハ其家ノ祖父後見人ト爲ル但未成年ノ家族ニ付テハ成年ノ戸主後見人ト爲ル

第六十七條 遺言後見人モ祖父若クハ戸主タル後見人モ有ラサルトキ又ハ此等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ罷黜セラレ若クハ死亡シタルトキハ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第六十八條 未成年者ヲ有スル人ノ死亡シタルトキ又ハ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ婚姻其他ノ事故ニ因リテ他家ニ入りタルトキハ區裁判所ハ未成年者ノ親族若クハ利害關係人ノ請求ニ因リ後見人ヲ設定スル爲メ親族會ヲ招集ス可シ

第二節 後見監督人

第六十九條 後見ニハ一人ノ後見監督人ヲ付スルコトヲ得

後見監督人ハ後見人ヲ定ムルト同一ノ手續ニ從ヒテ之ヲ指定シ又ハ親族會ニ於テ之ヲ選定ス
本章第四節及ヒ第五節ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ適用ス

第七十條 後見監督人ヲ置カサル場合ニ於テ監督ヲ要スルコト有ルトキハ親族會ニ於テ會員一人ヲ選定シ臨時ニ後見監督人ノ任務ヲ行ハシム

第三節 親族會

第七十一條 親族會ハ未成年者ノ最近親族三人以上ヲ以テ之ヲ設ク但親族三人ニ滿タサルトキハ未成年者ニ縁故アル者ヲ以テ之ヲ補足ス
本家及ヒ分家ノ戸主ハ親族會ニ列スルコトヲ得

第七十二條 親族會ハ親族、後見人、後見監督人、保佐人又ハ利害關係人ノ求メニ因リテ集會

ス

第七十三條 戸主成年ナルトキハ家族ノ爲メ親族會ヲ設クルコトヲ要セス

第七十四條 養子ノ親族會ニハ實家ノ親族モ其會員タルコトヲ得

第七十五條 會員ハ自己ノ利害ニ關係アル會議ニ列スルコトヲ得ス

第七十六條 親族會ヲ設クル能ハサルトキハ區裁判所其事ヲ行フ

第七十七條 未成年者ノ親族會ノ外親族會ヲ組成スル必要アルトキモ亦本節ノ規定ヲ適用ス

第四節 後見ノ免除

第七十八條 左ニ掲グル者ハ當然後見人タルコトヲ免除セララル

第一 現役ニ服スル軍人、軍屬

第二 被後見人住居ノ市又ハ郡ノ外ニ於テ公務ニ從事スル人

第七十九條 後見免除ノ求メハ親族會之ヲ決ス後見人解任ヲ求メタルトキモ亦同シ

第五節 後見人及ヒ親族會員ノ缺格、除斥及ヒ罷黜

第八十條 左ニ掲グル者ハ後見人タルコトヲ得ス又親族會員タルコトヲ得ス

第一 未成年者

第二 民事上禁治産者及ヒ准禁治産者

第三 未成年者ノ身分又ハ財産ニ對シテ訴訟ヲ爲ス人及ヒ其人ノ尊屬親、卑屬親、配偶者

第八十一條 左ニ掲グル者ハ後見及ヒ親族會ヨリ除斥セララル可シ現ニ任務ニ從事スル者ハ之ヲ

罷黜ス

第一 甚シキ不行跡ナル人

第二 後見管理ニ不能又ハ不正實ヲ顯ハセル後見人

第三 任務ヲ免黜セラレタル裁判上ノ保佐人

第四 公權剝奪公權停止及ヒ刑事上禁治産ヲ受ケタル人

第五 復権ヲ得サル破産者及ヒ家資分散者

第六節 後見人ノ管理
第六節 後見人ノ管理

第八十三條 後見人後見ノ開始ヲ知ルトキハ直チニ任務ニ就クコトヲ要ス

親族會ニ於テ後見人ヲ選定シ其後見人在席スルトキハ直チニ任務ニ就キ若シ在席セサルトキハ通知ヲ得タル日ヨリ任務ニ就クコトヲ要ス

第八十四條 後見人ハ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス
尊屬後見人及ヒ戶主後見人ヲ除ク外後見人若シ未成年者ノ在來ノ住居又ハ教育方法ヲ變更セン

トスルトキハ親族會ニ協議ス可シ
第八十五條 後見人ハ父母ノ如ク未成年者ヲ懲戒スルコトヲ得
未成年者ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由アルトキハ後見人ハ親族會ノ許可ヲ得タル上

第五十二條ノ規定ニ從ヒテ未成年者ニ對スル處分ヲ爲スコトヲ得
後見人カ其權ヲ濫用シ又ハ其義務ヲ怠ルトキハ未成年者及ヒ其親族ハ親族會ニ之ヲ申告スルコトヲ得

第八十六條 後見人ハ未成年者ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ善良ナル管理者ノ如ク其財産ヲ管理シ管理ノ失當又ハ過失ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任ス

第八十七條 後見人ハ當然其任務ニ就ク可キ日ヨリ十日内ニ後見監督人ノ立會ヲ得テ未成年者ノ財産ヲ調査ス可シ
財産目錄ノ調製ハ二箇月内ニ之ヲ終了スルコトヲ要ス但親族會ハ狀況ニ從ヒテ延期ヲ許スコトヲ得

第八十八條 後見人カ未成年者ノ債務者又ハ債權者ナルトキハ目錄ノ調製前其旨ヲ公證人又ハ親族會ニ明言スルコトヲ要ス
後見人カ債權ノ存立ヲ知リテ之ヲ明言セザリシトキハ其債權ヲ喪失ス又債務ノ存立ヲ知リテ之ヲ明言セザリシトキハ區裁判所ハ其後見人ヲ罷黜スルコトヲ得但罷黜ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

第八十九條 目錄調製ヲ終了セサル間ハ後見人ハ要急關ク可カラサル管理行爲ノミヲ爲スコトヲ得

第九十條 後見人ハ任務執行ノ初ニ於テ親族會ニ協議シ未成年者ノ養育ノ需用、教育ノ程度ト其資産トニ從ヒ毎年費ス可キ金額及ヒ財産管理ニ係ル費用ヲ定ム
親族會ハ相當ノ給料ヲ與フル一人又ハ數人ノ管理者ヲ後見人ノ自己ノ責任ヲ以テ使用スルヲ許スコトヲ得

第九十一條 後見人ハ未成年者ノ元本及ヒ收益ノ剩額ヲ每次ニ官ノ貯金預所又ハ確實ナル銀行ニ預ク可シ其預ケサリシ金額ニ付テハ法律上ノ利息ヲ辨濟ス可シ

後見人カ未成年者ノ財産ノ利用方法ヲ變更セントスルトキハ親族會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
第九十二條 尊屬後見人及ヒ戶主後見人ヲ除ク外後見人ハ一箇年内ノ管理ノ狀況ヲ親族會ニ報

告ス可シ

第九十三條 後見人ハ未成年者ノ財産ニ付テハ管理ノ權ヲ有スルニ止マリ此權外ノ行爲ハ法律ニ定メタル條件ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九十四條 左ニ掲ケル行爲ニ關シテハ後見人ハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第一 元本ヲ利用シ又ハ借財ヲ爲スコト

第二 不動産及ヒ重要ナル動産ヲ讓渡シ之ニ物權ヲ設定シ又ハ之ヲ取得スルコト

第三 動産、不動産ニ係ル訴訟又ハ和解、仲裁ニ關スルコト

第四 相續、遺贈若クハ贈與ヲ受諾シ又ハ拋棄スルコト

第五 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト

第六 財産編第九十九條ニ定メタル期間ヲ超ユル貸貸ヲ爲スコト

第九十五條 後見人ハ未成年者ノ財産ヲ讓受クルコトヲ得ス又未成年者ニ對スル權利ヲ讓受クルコトヲ得ス

第九十六條 後見人ハ親族會ノ許可ヲ得ルニ非サレハ未成年者ノ不動産ヲ賃借スルコトヲ得ス

第九十七條 後見人ノ其權内ニ於テ爲シタル行爲ハ未成年者ヲ羈束ス

第七節 後見監督人ノ任務

第九十八條 後見監督人ハ後見人ノ管理ヲ監視スルコトニ任ス

後見監督人ハ後見人ヲ缺クトキト雖モ後見ノ任務ヲ行フコトヲ得ス此場合ニ於テハ直チニ後任ノ後見人ヲ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條 未成年者ト後見人トノ間ニ利益相反スルトキハ後見監督人ハ未成年者ヲ代表ス

第二百條 必要ナル場合ニ於テハ後見監督人ハ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第二百一條 法律上後見監督人ノ立會ヲ可キ行爲ニシテ其立會ナクシテ爲シタルモノハ無効トス

第八節 後見人ノ終了

第二百二條 後見ノ任務ハ後見人ノ一身ニ止マリ其相續人ニ移轉セス然レトモ相續人カ成年者ナルトキハ後任ノ後見人ノ任務ニ就クマテ管理ヲ繼續ス可シ

第二百三條 未成年者カ成年ニ達シ又ハ自治産ニ至ルニ因リテ後見ノ止ムトキハ後見人ハ其計算ヲ終了スルマテ管理ヲ繼續ス

第二百四條 假ニ管理ヲ爲ス者ハ必要ナル行爲ノミヲ爲スコトヲ得

第九節 後見ノ計算

第二百五條 後見人ハ管理ノ終了スルトキハ其計算ヲ爲スコトヲ得

第二百六條 後見ノ決算ハ後見監督人ノ立會ニテ未成年者ノ成年ニ達シタル者又ハ其自治産ニ至リタル者ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ後見人ノ身上ニ係リテ終了スルトキハ決算ハ後任ノ後見人ニ對シテ之ヲ爲シ親族會ノ許可ニ付ス但第九十八條ノ場合ニ於テハ決算ハ後見監督人ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ未成年者ノ死亡ニ因リテ終了スルトキハ決算ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲ス
後見ノ決算ニ係ル費用ハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第二百七條 後見ノ決算ハ管理終了ノ日ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ得但親族會ハ當事者ノ求めニ因リテ延期ヲ許スコトヲ得

第二百八條 後見人ト未成年者ト成年ニ達シタル者トノ合意ニシテ後見ノ決算前ニ爲シタルモノ

ハ總テ無効トス

第二百九條 後見ノ費用ハ豫算ノ定額ヲ超ユルト雖モ後見人其有益タルコトヲ證スルトキハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第二百十條 後見人ヨリ未成年者ニ返済ス可キ金額ハ決算完結ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

未成年者ヨリ後見人ニ返済ス可キ金額ハ決算完結ノ後後見人ノ催告ニ因リテ利息ヲ生ス

第二百十一條 後見ノ計算ニ係ル未成年者ノ訴權ハ五箇年ノ時効ニ因リテ消滅ス後見人其他假ニ後見管理ヲ爲シタル人ノ未成年者ニ對スル訴權モ亦同シ

未成年者ト後見監督人又ハ親族會員トノ間ノ後見ニ係ル訴權ニ付テモ亦前項ノ規定ヲ適用ス

此期間ハ未成年者ノ成年ニ達シ又ハ死亡シタル日ヨリ起算シ第二百八條ノ場合ニ於テ後見ノ計算ニ係ル訴權ニ付テハ合意無効ノ裁判言渡ノ日ヨリ起算ス

第二百十二條 後見監督人及假ニ後見管理ヲ爲シタル人ハ代理契約ノ原則ニ從ヒ過失ノ責ニ任ス

第十一章 自治産

第二百十三條 未成年者ハ婚姻ヲ爲スニ因リテ當然自治産ノ權ヲ得

第二百十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ滿十五年ニ達シタル未成年ノ子ニ自治産ヲ許スコトヲ得

此自治産ハ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第二百十五條 後見ニ服スル未成年者ノ滿十七年ニ達シタルトキハ親族會ハ其未成年者ニ自治産ヲ許スコトヲ得

此自治産ハ後見人ヨリ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第二百十六條 自治産ノ未成年者ハ之ヲ保佐ニ付ス

親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ當然保佐人ト爲ル

親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ第六十五條ノ規定ニ從ヒテ保佐人ヲ指定スルコトヲ得若シ之ヲ指定セザリシトキハ其家ノ祖父保佐人ト爲リ家族ニ付テハ成年ノ戶主保佐人ト爲ル

夫ハ當然未成年ノ婦ノ保佐人ト爲ル

此他ノ場合ニ於テハ親族會ニ於テ保佐人ヲ選定ス

第二百十七條 後見人ニ關シテ定メタル免除、缺格、除斥及ヒ罷黜ノ規則ハ之ヲ保佐人ニ適用ス

第二百十八條 自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ元本ヲ領收スルコトヲ得ス

第二百十九條 第九十四條ニ掲ケタル行爲ニ付テハ自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十條 父母ヲ除ク外保佐人ハ後見人ト同シク過失ノ責ニ任ス

第二百二十一條 自治産ヲ許サレタル未成年者ガ不行跡又ハ財産管理ノ失當ニ因リテ自治産者タルニ適セサルトキハ親族會ハ其自治産ヲ廢止スルコトヲ得

親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ自治産ヲ廢止スルコトヲ得若シ此等ノ者アラサルトキハ親族會員又ハ保佐人ハ此廢止ヲ親族會ニ求ムルコトヲ得

未成年者ハ自治産廢止ノ日ヨリ親權又ハ後見ニ服シ成年ニ達スルマテ復々自治産者ト爲ルコトヲ得ス

第十二章 禁治産

第一節 民事上禁治産

第二百二十二條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ時時本心ニ復スルコト有ルモ其治産ヲ禁スルコトヲ得

第二百二十三條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ時時本心ニ復スルコト有ルモ其治産ヲ禁スルコトヲ得

得

第二百二十三條 禁治産ハ配偶者、四親等内ノ親族、戸主及ヒ檢事ヨリ之ヲ區裁判所ニ請求スルコトヲ得

禁治産ヲ請求スル權利ヲ有スル一人ノ申立ニ因リテ言渡シタル裁判ハ總テノ人ニ對シテ既判力ヲ有ス

第二百二十四條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス

配偶者ハ當然相互ニ後見人ト爲ル若シ配偶者アラサルトキハ其家ノ父後見人ト爲リ父アラサルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ヘキ母後見人ト爲ル

父又ハ母ハ第六十五條ニ定メタル方式ニ從ヒテ後見人ヲ指定スルコトヲ得若シ指定セザリシトキハ第六十六條ノ規定ヲ適用ス

法律上ノ後見人モ遺言後見人モ有ラス又ハ此等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ若クハ罷黜セラレタルトキハ第十章ニ定メタル方式ニ從ヒ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第二百二十五條 配偶者、尊屬親、卑屬親及ヒ戸主ヲ除ク外何人タリトモ十箇年以上禁治産者ノ後見ヲ擔任スルコトヲ要セス

第二百二十六條 未成年者ノ後見ニ係ル規定ハ禁治産者ノ後見ニ之ヲ適用ス

第二百二十七條 疾病ノ性質ト資産ノ狀況トニ從テ禁治産者ヲ自宅ニ療養セシメ又ハ之ヲ病院ニ入ラシムルハ親族會ノ決議ニ依ル但瘋癲病院ニ入ラシメ又ハ自宅ニ監置スル手續ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第二百二十八條 法律上ノ後見人ハ第九十二條ニ定メタル管理狀況ノ報告ヲ爲スコトヲ要セス

第二百二十九條 禁治産者ノ財産ヲ以テ其子孫ノ教育、婚姻又ハ營業ノ資ニ供セントスルトキハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百三十條 禁治産者ハ禁治産ノ裁判言渡ノ日ヨリ無能力者トス

裁判言渡後ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得

禁治産ノ裁判言渡前ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ニ對シテモ其行爲ノ當時ニ於テ裏心ノ明確ナルトキハ銷除訴權ヲ行フコトヲ得

第二百三十一條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、後見人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

禁治産者ハ解除ノ裁判言渡後ニ非サレハ其權利ヲ回復スルコトヲ得ス

第二節 准禁治産

第二百三十二條 心神耗弱者、聾啞者、盲者及ヒ浪費者ハ准禁治産者ト爲シテ之ヲ保佐ニ付スルコトヲ得

准禁治産ノ言渡ハ配偶者、三親等内ノ親族及ヒ戸主ノ請求ニ因リ區裁判所之ヲ爲ス

保佐人ニ付テハ第二百二十四條及ヒ第二百五條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十三條 第二百二十七條乃至第二百三十條ノ規定ハ之ヲ准禁治産ニ適用ス

裁判所ハ狀況ニ從ヒ保佐人ノ立會アルニ非サレハ管理行爲ヲモ爲スコトヲ得サル旨ヲ言渡スコトヲ得

第二百三十四條 准禁治産者カ保佐人ノ立會ナクシテ爲シタル行爲ニ付テハ第二百三十條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十五條 准禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

第三節 刑事上禁治産

第二百三十六條 刑事上禁治産ヲ受ケタル者ハ其財産ヲ管理スルコトヲ得ス又遺言ヲ以テスル外ハ其財産ヲ處分スルコトヲ得ス

第二百三十七條 刑事上禁治産者ニハ後見人ヲ付シテ其財産ヲ管理セシム此後見人ノ指定及ヒ管理ノ方法ニ付テハ民事上禁治産者ノ後見ニ係ル規定ヲ適用ス

第二百二十九條ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第四節 瘋癲者ノ財産ノ假管理

第二百三十八條 禁治産ヲ受ケサル瘋癲者アルトキハ配偶者、親族、戸主及ヒ檢事ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ特別法ニ定ムル手續ニ從ヒ之ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ自宅ニ監置スルコトヲ得

第二百三十九條 瘋癲病院ニ入り又ハ自宅ニ監置セラレタル者ハ入院中又ハ監置中其財産ヲ管理シ及ヒ處分スルコトヲ得ス

第二百四十條 假管理人ハ瘋癲者ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ禁治産者ノ後見人ト同視セラ

第二百四十一條 瘋癲者ノ入院中又ハ監置中ニ行爲ヲ爲シタル證據アルトキハ其行爲ヲ銷除スルコトヲ得但相手方カ瘋癲者ノ本心ニテ行爲ヲ爲シタルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十二條 瘋癲者ノ無能力ハ區裁判所カ假管理ヲ解クニ因リテ止ム

第十三章 戸主及ヒ家族

第二百四十三條 戸主トハ一家ノ長ヲ謂ヒ家族トハ戸主ノ配偶者及ヒ其家ニ在ル親族、姻族ヲ謂フ

戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第二百四十四條 戸主ハ家族ニ對シテ養育及ヒ普通教育ノ費用ヲ負擔ス但家族カ自ラ其費用ヲ辨スルコトヲ得ルトキ又ハ戸主ノ許諾ヲ受ケスシテ他所ニ在ルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十五條 家族ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ其齎帶シ又ハ遺産相続、贈與若クハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス

第二百四十六條 家族ハ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲サントスルトキハ年齢ニ拘ハラズ戸主ノ許諾ヲ受ケ可シ

第二百四十七條 他家ニ入りテ夫、婦又ハ養子ト爲リタル者ハ婚姻ノ無効、養子縁組ノ無効、離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テハ實家ニ復歸ス

然レトモ此者カ婚姻又ハ養子縁組ニ付キ實家戸主ノ許諾ヲ受ケサリシトキハ戸主ハ復歸ノ事由ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ身分取扱吏ニ申立テ復歸ヲ拒ムコトヲ得

第二百四十八條 他家ニ入りテ夫又ハ婦ト爲リタル者ハ其配偶者ノ死亡シタルトキト雖モ婚家ヨリ更ニ他ノ家ニ入ルコトヲ得ス

然レトモ婚家及ヒ實家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ實家ニ復歸スルコトヲ得

第二百四十九條 實家ニ復歸ス可キ者又ハ復歸セントスル者カ復歸スル能ハサルトキハ一家ヲ新

立ス

第二百五十條 推定家督相續人ニ非サル家族タル男子カ戸主ノ許諾ヲ受ケスシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ一家ヲ新立ス

第二百五十一條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ル但分家ヨリ本家ヲ承繼シ其他正當ノ事由アルトキハ區裁判所ノ許可ヲ得テ廢家スルコトヲ得

第二百五十二條 戸主カ國民分限ヲ喪失シタルトキハ廢家シタルモノトシ推定家督相續人ハ一家ヲ新立シ前戸主ノ家族ハ新戸主ノ家ニ入ル

第二百五十三條 戸主カ婚姻其他ノ原因ニ由リテ適法ニ廢家シ他家ニ入りタルトキハ其家族モ亦從テ其家ニ入ル

第二百五十四條 卑屬親ヲ有スル者カ婚姻若クハ養子縁組ノ無効又ハ離婚若クハ離縁ニ因リテ婚家又ハ縁家ヲ去ルトキハ卑屬親ハ仍ホ其家ニ屬ス

第二百五十五條 父母ノ知レサル子ハ一家ヲ新立ス

第二百五十六條 他家ニ入りテ夫婦又ハ養子ト爲リタル者ハ配偶者又ハ養子ヲ爲シタル者ト協議ルノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ實家ニ在ル卑屬親ヲ自家ニ引取ルコトヲ得

婚姻若クハ養子縁組ノ無効又ハ離婚若クハ離縁ニ因リテ婚家又ハ縁家ヲ去リタル者ハ配偶者又ハ養子ヲ爲セシ者ト協議ノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ其家ニ在ル卑屬親ヲ自家ニ引取ルコトヲ得

第二百五十七條 戸主カ家族ニ對シテ婚姻其他ノ事件ニ付キ許諾ヲ與フ可キ場合ニ於テ未成年ナルトキ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ後見人之ヲ代表ス

第二百五十八條 入夫婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻中入夫ハ戸主ヲ代表シテ其權ヲ行フ

第二百五十九條 戸主失踪ノ宣言アリタル後其家督相續ノ占有ヲ得タル者ハ其占有中戸主ノ權ヲ行フ

第二百六十條 單身戸主失踪ノ宣言アリテ其亡失若クハ最後音信ノ日ヨリ三十箇年ニ至ルモ家督相續ノ占有者ナキトキハ絶家ス

第二百六十一條 戸主死亡シテ家督相續人ナキトキハ絶家シ其家族ハ一家ヲ新立ス

第十四章 住所

第二百六十二條 民法上ノ住所ハ本籍地ニ在ルモノトス

第二百六十三條 戸主ハ本籍ヲ移ス地ノ身分取扱更ニ申述シテ住所ヲ變更スルコトヲ得 未成年者又ハ民事上禁治産者タル戸主ノ住所ハ親族會ノ許可ヲ得テ後見人之ヲ變更スルコトヲ得

第二百六十四條 家族カ獨立シテ一家ヲ成ストキハ本籍ヲ定ムル地ノ身分取扱更ニ其意思ヲ申述シテ住所ヲ設定スルコトヲ得

一家新立ノ未成年者ニ付テハ後見人住所ヲ設定ス可シ

第二百六十五條 外國人始メテ日本ニ住所ヲ定ムルトキハ其意思並ニ本國、氏名及ヒ出生年月日ヲ其地ノ身分取扱更ニ申述シ家族アルトキハ其氏名及ヒ出生年月日ヲ申述ス可シ

第二百六十六條 本籍地カ生計ノ主要タル地ト異ナルトキハ主要地ヲ以テ住所ト爲ス

第二百六十七條 左ノ場合ニ於テハ居所ヲ以テ住所ニ代用ス

第一 住所ノ知レサルトキ

第二 日本ニ住所ヲ定メサル外國人ニ關スルトキ

第二百六十八條 何人ト雖モ或ル行爲又ハ事務ノ爲メニ假住所ヲ選定スルコトヲ得但此選定ハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

第十五章 失踪

第一節 失踪ノ推定

第二百六十九條 住所及ヒ居所ヨリ亡失シ又ハ音信絶エテ生死分明ナラサル人ハ之ヲ失踪者ト推定ス

此推定ノ裁判ハ本人ノ住所ノ區裁判所之ヲ爲ス

第二百七十條 失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總理代理人ヲ定置キタルトキハ其代理人ハ失踪ノ推定中本人ノ財産ヲ管理ス但必要アルトキハ裁判所ハ現實ノ利益ヲ有スル關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ代理人ノ解任ヲ言渡シ又ハ其後任ヲ指定スルコトヲ得

第二百七十一條 失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總理代理人ヲ定置カサリシトキハ裁判所ハ前條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リテ管理人ヲ指定ス

此管理人ニハ成ル可ク推定相續人ヲ指定スルコトヲ要ス

第二百七十二條 代理人又ハ管理人ハ管理行爲ヲ爲ス權限ノミヲ有ス他ノ行爲ニ付テハ必要ノ場合ニ限リ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

代理人又ハ管理人ハ本人ノ利益ニ關係アル目錄調製、計算及ヒ清算ニ付テ本人ヲ代表ス

第二百七十三條 管理人ハ失踪者ノ動産及ヒ證書ノ目錄ヲ調製ス可シ又不動産ノ形狀ヲ確定セシムル爲メ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得鑑定人ノ報告書ハ裁判所ノ認可ニ付スルコトヲ要ス此等ノ手續ノ費用ハ本人ノ財産ヲ以テ之ヲ支辨ス

關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求アルトキハ本條ノ規定ヲ代理人ニ適用スルコトヲ得

第二百七十四條 代理人又ハ管理人ハ推定相續人ヲ除ク外其請求ニ因リテ裁判所ノ定メタル給料ヲ受ク裁判所ハ管理及ヒ財産返還ノ擔保トシテ保證人其他相當ノ擔保ヲ立テシムルコトヲ得

第二百七十五條 代理人又ハ管理人ハ失踪者ノ子孫ノ教育、婚姻又ハ營業ノ爲メ資財ヲ與フルニ付テハ區裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二節 失踪ノ宣言

第二百七十六條 失踪者カ代理人ヲ定置カサリシトキハ五箇年又代理人ヲ定置キタルトキハ任期ノ長短ヲ問ハス七箇年ニ至ルモ其生死ノ音信ヲ得サルニ於テハ失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ失踪者ノ住所ノ區裁判所ニ失踪ノ宣言ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十七條 右請求ノ許ス可キモノナルトキハ裁判所ハ失踪者ノ住所及ヒ其最後ノ居所ノ地ニ於テ證人訊問ヲ爲ス可キコトヲ命ス可シ此證人訊問ニ付テハ民事訴訟法ニ定メタル忌避ノ規則ヲ適用セズ

第二百七十八條 證人訊問ヲ命スル決定ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ公示ス可シ

第二百七十九條 失踪宣言ノ裁判ハ證人訊問ヲ命シタル決定ヨリ一箇年ノ後ニ非サレハ之ヲ宣告スルコトヲ得ス

此裁判ハ前條ノ手續ニ從ヒテ之ヲ公示ス可シ

第三節 失踪宣言ノ效力

第二百八十條 失踪宣言ノ裁判アリタルトキハ失踪者ノ遺言書ハ關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ之ヲ開封ス可シ

失踪者ノ亡失又ハ最後音信ノ日ニ於ケル推定相續人其他失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ直チニ其財産ヲ占有スルコトヲ得

第二百八十一條 失踪者ニ屬スル財産ノ占有ニ付テハ總テ相續ニ關スル規定ヲ適用ス此占有ヲ得タル者ハ第三者ニ對シテハ財産ノ所有者トス

然レトモ占有者ハ推定相續人ヲ除ク外財産返還ノ擔保トシテ裁判所カ相當ト認ムル保證人其他ノ擔保ヲ立ツ可シ其保證人ノ義務又ハ擔保ハ十五箇年ノ後止ム

第二百八十二條 失踪者ノ現出シ又ハ音信アリタルトキハ失踪宣言ノ效力ハ即時ニ止ム失踪者ハ其財産ヲ現狀ノ儘ニテ取回シ又占有者ノ處分ニ因リテ不當ニ利得シタルモノヲ取戻スコトヲ得

第二百八十三條 果實ニ付テハ失踪者カ其亡失又ハ最後音信ノ日ヨリ十箇年内ニ現出スルトキハ其五分ノ一ヲ取戻スコトヲ得十箇年後ハ其全部ヲ失フ

第二百八十四條 失踪者ノ相續順位ニ在ル者ハ他ノ者カ財産占有ヲ得タル日ヨリ三十箇年間其財産ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テモ果實ハ前條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ取戻スコトヲ得

第四節 失踪ノ推定及ヒ宣言ニ關スル通則

第二百八十五條 失踪シテ生存ノ確實ナラサル人ニ歸ス可キ權利ヲ請求スル者ハ其人カ權利ノ發生セシ日ニ生存シタルヲ證スルコトヲ要ス此舉證ヲ爲ササル間ハ其請求ヲ受理セス

第二百八十六條 失踪シテ生存ノ確實ナラサル人ニ歸ス可キ相續ハ次順位ノ者ニ屬ス

失踪者ニ歸ス可キ財産ヲ相續スル者ハ財産目錄ヲ調製ス可シ

第二百八十七條 前二條ノ規定ハ失踪者又ハ其相續人及ヒ承繼人ニ屬スル相續ノ請求其他ノ權利ヲ行フヲ妨グルコト無シ此等ノ權利ハ普通ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五節 不在者ニ關スル規則

第二百八十八條 生存ノ確實ナル人カ住所若クハ居所ヲ去リテ其財産ヲ管理スル者アラサルトキ

又ハ裁判所カ未タ失踪ヲ推定セサルモ本人ノ不在ノ爲メ其財産ノ放置セラルトキ又ハ失踪ノ推定中若クハ宣言後ニ失踪者ノ生存ノ確實ト爲リタルトキハ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ必要ノ保存處分ヲ命スルコトヲ得

第十六章 身分ニ關スル證書

第二百八十九條 出生、婚姻、養子縁組、死亡其他各人ノ身分ニ關スル事件ハ身分取扱吏ノ主管スル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第二百九十條 帳簿ニ記載シタル證書ハ公正證書ノ證據力ヲ有ス但違法ノ記載ハ效力ナシ

合式ノ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス
第二百九十一條 帳簿ノ設備ナク若クハ中絶シタルトキ又ハ其全部若クハ一分ノ毀損シ亡滅シタルトキ又ハ其記載上甚シキ違式、錯誤若クハ脱漏アリテ信用ヲ置ク可カラサルトキ又ハ身分取扱吏ノ詐欺若クハ過失ニ因リテ證書ヲ作ラサリシトキハ證人又ハ私ノ書類ヲ以テ先ツ其實事ヲ證シ且身分上ノ事件ヲ證スルコトヲ得
第二百九十二條 證書ノ訂正ハ裁判ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十三條 帳簿ノ調製、證書ノ記載、届出ノ手續其他ノ事項ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

民 法 終

利息制限法 (明治十年九月布告第六十六號)

利息制限法左之通相定候條此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各制限ニマテ引直サシムヘシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高チ定メサルトキ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ不拘百分ノ六(六分)トス

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フトキハ債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

増價競賣法 (明治二十三年十月法律第九十二號)

朕増價競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ

命ス

第一條 民法債權擔保編第二百六十五條ニ從ヒテ抵當財産ノ増價競賣ヲ要求スル債權者ハ第三所持者及ヒ前所有者ニ競賣ノ要求書ヲ送達シタルヨリ三日内ニ抵當財産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且保證人又ハ擔保ノ認許ヲ求ム可シ

前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス

第二條 競賣ノ申立ニハ民事訴訟法第六百四十二條第一號及ヒ第二號ニ掲クル諸件ノ外第三所持者及ヒ前所有者ノ表示、擔保ノ表示、第三所持者ノ提供シタル金額及ヒ要求者ノ定メタル増額ヲ具備シ且民事訴訟法第六百四十三條第三號乃至第五號ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 裁判所ハ期日ヲ定メテ要求者、第三所持者及ヒ前所有者ヲ呼出シ擔保ノ許可ニ付テノ決定ヲ爲ス可シ

否認ノ決定アリタルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス但競賣ノ要求ヲ爲ス權利アル他ノ債權者カ要求ニ參加スルノ申立ヲ爲シ又ハ期間ニ自ラ要求ヲ爲シタルトキハ右決定ヲ知りタルヨリ三日内ニ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條 左ニ掲クル者ヲ増價競賣手續ニ於テノ利害關係人トス

- 第一 競賣要求者
- 第二 債務者
- 第三 第三所持者
- 第四 抵當債權者
- 第五 抵當財産ノ前所有者カ債務者ニ非サルトキハ其前所有者

第五條 裁判所ハ要求者ノ供シタル擔保十分ナリトスルトキハ競賣手續ノ開始決定ヲ爲シ同時ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ公告ス可シ

第六條 競賣期日ノ公告ニハ民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號乃至第十號ニ掲クル諸件ノ外増價競賣ノ要求ニ因リ競賣ヲ爲ス旨及ヒ最低最低競賣價額トシテ提供價額ニ附シタル増額ヲ具備スルコトヲ要ス

此他競賣及ヒ競落ノ手續ニ付テハ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十一條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百七十一條第六百七十二條第二號及ヒ第四號乃至第八號、第六百七十三條、第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十七條ノ規定ヲ準用ス

第七條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ要求者ヲ競落人ナリト言渡ス可シ

第八條 競落人ナリト言渡サレタル者カ要求者ナルト否トヲ問ハス競落代價ノ全額支拂ニ至ルマテハ要求者ノ供シタル擔保ハ負擔ヲ免カルルコト無シ

第九條 裁判所ハ要求者ノ申立アルトキハ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第七百二條但書及ヒ第七百三條乃至第七百五條ノ規定ヲ適用ス

第十條 増價競賣ニ依ル競落ニ對シテハ更ニ増價競賣ノ要求ヲ爲スコトヲ許サス

財産委棄法 (明治二十三年十月法律第九十四號)

朕財產委棄法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 無資力ナル債務者ニシテ惡意ノ證ナキ者ハ動産又ハ不動産ノ差押ヲ受ケタルモ競賣ニ至ルマテハ無資力ノ原因タル不幸ノ事情又ハ管理ノ過失ヲ陳述シテ債權者ニ對シ自己ノ財産ノ委棄ヲ其住所ノ裁判所ニ請求スルコトヲ得

債權者ハ總債權者ノ氏名及ヒ分限ト各債權者ノ債權ノ元本及ヒ利息トヲ右請求ニ附記スルコトヲ要ス

第二條 財産ノ委棄ハ協諧契約ニ關シ商法ニ規定シタル方式及ヒ條件ニ從ヒテ債權者ノ承諾ヲ受ケルコトヲ要ス

第三條 債權者ノ承諾シタル財産ノ委棄ハ裁判所ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス
此他財産ノ委棄ニ付テハ家資分散ニ關スル法律ノ適用ヲ妨ケス

裁判所代位法 (明治二十三年法律第九十三號)

朕裁判所代位法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民法財産編第三百三十九條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ屬スル訴權ヲ行ハントスル債權者ハ先ツ債務者ニ其行使ヲ合式ニ催告スルコトヲ要ス

債務者右催告ヲ受ケタル後ハ權利ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二條 債務者前條ノ催告ヨリ七日内ニ被告ト爲ル可キ第三者ニ對シテ訴ヲ提起セサルトキハ債權者ハ債務者ノ住所ノ裁判所ニ代位ノ申請ヲ爲スコトヲ得但催告書ノ謄本ヲ差出ス可シ

第三條 代位ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者、被告ト爲ル可キ第三者及ヒ裁判所ノ表示

第二 代位申請ノ原因タル債權ノ表示

第三 訴訟物ノ表示

第四條 裁判所ハ申請ニ付キ債務者ヲ審訊セスシテ決定ヲ爲スコトヲ得

右申請ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

辨濟提供規則 (明治二十三年十月勅令第二百十七號)

朕辨濟提供規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

第一條 民法財産編第四百七十四條ニ依レル辨濟ノ提供ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第二條 提供ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ調書ヲ作り其調書ニハ提供物金錢ナルトキハ其種類員數ヲ記シ特定物ナルトキハ他物ニ換ユルコト能ハサラシムル爲メ其詳細ヲ記シ定員物ナルトキハ其種類員數ヲ記ス可シ

第三條 右ノ調書ニ付テハ民事訴訟法第五百四十條ノ規定ヲ準用ス
第四條 執達吏提供ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲シタルトキハ手数料金二十錢其他執達吏手数料規則ニ從ヒ立替金ヲ受クルモノトス

社寺學校病院等へノ寄附物處分 (明治九年四月第五十四號布告)

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノナシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

外國人へ家屋地所等貸與方 (明治七年八月第八十五號布告)

外國人へ家屋地所等貸渡ノ節約東上經忽疎漏ヨリ竟ニ内外人ノ間不都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ差響候條自今學校其他ノタメ傭入レ居留地外へ住居スヘキ外國人及公使館附屬書記官等へ貸家借地ノ節ハ先ツ約定草案相添其管轄廳へ伺出許可ノ上結約可致此旨布告候事
但建物取毀賣拂ノ分ハ幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤賣渡ノ上ハ其旨管轄廳へ可届出事

連借證書ノ分擔及償却方 (明治八年四月第六十三號布告)

金銀其他借用證書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキ者有之トモ其借用シタル金銀其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者へ償却可申付候條此旨布告候事
但右證書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明書アルハ此限ニアラス

金穀借用證書讓渡手續 (明治九年七月第九十九號布告)

金穀等借用證書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ證書ヲ書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡證書有之トモ仍ホ讓渡ノ效ナキモノトス此旨布告候事
但相續人へ讓渡候ハ此限ニアラス

賣買約定書認メ方ノ件 (明治八年五月第八十七號布告)

諸品賣買取引心得方定書去ル明治四年九月布告ニ及ヒ置候處自今相廢シ候尤向後賣買ノ約定ハ勿論其他諸取引ノ約定ヲ爲ス證書ニハ成ルヘキ丈ク其約定ノ趣意ヲ明確ニ書載シ疎漏曖昧ノ事之レ

予キ様注意可致此旨布告候事

諸證書ノ署名捺印方 (明治十年七月第五十號布告)

諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書スルコ能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖モ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト己レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ
但シ本文諸證書トハ契約ノ證書 (金穀地所建物貸借買賣讓與并預リ證書等凡テ民事上相互ノ契約ニ係ルモノヲ云フ)ニ限ルモノトス (十年第六十四號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)
右布告候事

金穀貸借請人證人辨償規則 (明治八年六月第百二號布告)

明治六年(六月)第百九十五號布告金穀貸借請人證人辨償規則本年十月一日ヨリ左ノ通改正候條同日以後借用證書ヘ加印候者ハ改正ノ通可相心得此旨布告候事 (八年第百二十一號布告ヲ以テ本項改正)

第一條 金銀借用返濟相滞リ本人身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其不足ノ分請人ヘ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其請人ヲモ身代限申付其上不足相立候ハハ借主並ニ請人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次第皆濟可致事

第二條 借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其請人ヘ濟方申渡シ候上不相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハハ請人ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直シ次第皆濟可致事

第三條 身代限申付候上不足相立身代持直シ次第皆濟可致旨左ノ難形之通裁判所ニ於テ其原證文ノ裏ヘ記シ押印ノ上貸主ヘ可相渡置事
(裏書并ニ難形ハ略ス)

社寺ノ負債ハ氏子檀家ノ連署ヲ要ス (明治十年五月第四十三號布告)

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所^{除稅地}外建物什器^{寶物古文書類}等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

商 法

(明治二十三年三月法律第三十二號)

朕商法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス(此施行期限ハ明治二十五年法律第八號ヲ以テ修正ノ爲メ明治二十九年十二月三十一日迄延期シ修正ヲ了レル分ハ同期限内ニテモ施行シ得ルコトヲ規定セシカ明治二十六年三月法律第九號ヲ以テ第一篇第六章第十二章及ヒ第三編ニ修正ヲ施シ其修正セル部分丈同年七月一日ヨリ施行スルコト爲シ同時ニ第一篇ハ第二章及ヒ第四章ノ規定ハ商事會社ニ付テノミ施行スル旨定メ而シテ二十九年十二月法律第九十四號ヲ以テ其他ノ部分ハ明治三十一年六月三十日迄施行ヲ延期シタリ)

總 則

第一條 商事ニ於テ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習及ヒ民法ノ成規ヲ適用ス

第二條 特種ノ商事又ハ商人ノ爲メニ發布シタル法律、命令及ヒ規則ノ效力ハ本法ニ因リ妨ケラ
ルルコト無シ

第一篇 商ノ通則

第一章 商事及ヒ商人

第三條 商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタルニ拘ハラズ總テノ商取引及ヒ其他本法ニ規定シタル事項ヲ謂フ

第四條 商取引トハ賣買、賃貸又ハ其他ノ取捌ノ方法ニ因リ產物、商品又ハ有價證券ノ轉換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ爲メニスル旨趣ニテ直接又ハ間接ニ行フ所ノ總テノ權利行爲ヲ謂フ殊ニ

左ニ掲ケルモノハ商取引ニ屬ス

- 第一 産物ノ交換、販賣ヲ目的トスル取引
 - 第二 製造、工業及ヒ手職業ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第三 人及ヒ物ノ運送ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第四 航漕ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第五 建築ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第六 銀行營業ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第七 流通シ得ベキ信用證券ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第八 商ノ爲メニ爲シ又ハ受ケル倉庫寄託及ヒ其他ノ寄託ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第九 船舶ノ買買、賃入、抵當、構造、修繕、積裝及ヒ乗組ニ係ル作業及ヒ取引
 - 第十 取引所ノ取引
 - 第十一 保險ニ係ル作業及ヒ取引
- 第五條 其他左ニ掲ケルモノハ之ヲ商取引ト看做ス
- 第一 公ニ開キタル店舗、帳場若クハ其他ノ營業所ニ於テ又ハ公告ヲ爲シテ營ム兩替及ヒ利息若クハ其他ノ報酬ヲ受ケル金錢貸付
 - 第二 新聞紙及ヒ其他ノ定期印刷物ノ發行
 - 第三 商事ニ於ケル各般ノ代理及ヒ委任
 - 第四 公ナル周旋所及ヒ代辦ノ營業
 - 第五 公ナル共歡場及ヒ娯遊場ノ營業

第六 受買作業ノ引受

- 第六條 商人其營業上ニ於テ取結ヒ又ハ他ノ商人若クハ作業人ト取結ヒタル取引ハ反對ノ證ナキトキハ之ヲ商取引ト看做ス
- 第七條 左ニ掲ケルモノハ之ヲ商取引ト看做サス
- 第一 所有地又ハ借地ヨリ收穫シタル産物ヲ賣ルコト但營業ノ目的ヲ以テセサルモノニ限ル
 - 第二 戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣リ又ハ勞役ヲ供スルコト但常設ノ營業所ヨリ出ツルモノハ此限ニ在ラス
 - 第三 専ラ勞力賃ノミヲ得ル目的ニテ物品ヲ製作シ又ハ勞役ヲ爲スコト
 - 第四 他人ノ爲メニ働作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關スル規定ヲ掲ケサルトキニ限ル
- 第八條 不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル契約ハ商取引トセス但射利ヲ旨趣トスル買得及ヒ轉賣ハ此限ニ在ラス
- 第九條 商人トハ總テ商業ヲ營ム者ヲ謂ヒ商業ヲ營ムトハ常業トシテ商取引ヲ爲スコトヲ謂フ
- 農作、牧畜、養蠶、狩獵、捕漁及ヒ採藻ノ業ヲ營ムハ商業ヲ營ムト看做サス
- 第十條 契約ニ因リ獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得ル各人ハ一時ノ商取引ナルト當時ノ商業ナルトナ間ハス總テ商ヲ爲スコトヲ得
- 獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得サル者ト雖モ其後見人ニ依リ亦商ヲ爲スコトヲ得但後見人ハ商業登記簿ニ其登記ヲ受ク可シ
- 第十一條 男女ヲ間ハス未成年者ニシテ年齢十八歳ニ滿チ且父、母又ハ後見人ノ承諾ヲ得テ獨立

ノ生計ヲ立ツル者ハ商ヲ爲スコトヲ得

右ノ未成年者自己ノ爲メ商ヲ爲サント欲スルトキハ前項ノ要件ヲ明記シ且自己及ヒ父、母又ハ後見人ノ署名捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ差出シ登記ヲ受ク可シ然ルトキハ其登記ノ日ヨリ商事ニ於テ總テノ權利及ヒ義務ニ關シ成年者ト全ク同一ナルモノトス

第十二條 婦ハ其夫ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲スコトヲ得此承諾ハ其其婦カ夫ニ遺棄セラレ又ハ夫ヨリ必要ノ給養ヲ受ケサルトキハ之ヲ得ルコトヲ要セス
婦カ其夫ノ商業ヲ助ケルノミニテハ之ヲ商人ト看做サス

第十三條 商ヲ爲スコトヲ得ル婦ハ商事ニ於テハ獨立人ノ總テノ權利ヲ得義務ヲ負フ
婦ハ商ノ債務ニ付テハ婦ノ財産ニ對シテ夫ニ屬スル管理權又ハ其他ノ權利アルニ拘ハラズ自己ノ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ但夫ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲ス場合ニ於テ夫婦間ニ財産共通ノ存スルトキハ共通財産モ亦其責任ヲ負フ

第十四條 夫婦ノ一方カ商ヲ爲シ夫婦間ニ財産共通ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ解キタルトキハ商業登記簿ニ登記ヲ受ケル爲メ其事實ヲ管轄裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス
夫婦ハ共ニ同一商事會社ノ無限責任社員タルコトヲ得ス

第十五條 法律上禁セラレタル總テノ商取引又ハ法律上特ニ規定セラレタル別段ノ資格ヲ有セサル者ノ爲シタル總テノ商取引ハ無効タリ
公務ヲ帶フル者商業ヲ營ムコトヲ禁セラレタル場合ト雖モ其者ノ爲シタル取引ハ此理由ノ爲メ無効ト爲ルコト無シ

第十六條 一方ノ者ノミニ對シテ商取引タル取引ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス但本法中商

人ノ身分ニ關スル規定及ヒ反對ノ意ヲ表シタル規定ハ此限ニ在ラス

第十七條 會社及ヒ其他ノ法人カ商業ヲ營ムトキハ亦商業ニ付キ設ケタル規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二章 商業登記簿

第十八條 商號、後見人、未成年者、婚姻契約、代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ

前項ノ營業所又ハ住所ヲ他ノ地ニ移シタルトキハ既ニ登記シタル事實カ尙ホ存スル場合ニ限り移轉地ニ於テモ亦更ニ其登記ヲ受ク可シ

第十九條 登記ハ其度毎ニ裁判所ヨリ其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速ニ之ヲ公告ス可シ其新聞紙ハ豫メ一曆年ノ間之ヲ定メ置クコトヲ要ス若シ其地ニ發行ノ新聞紙ナキトキハ其公告ノ方法ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル又各人ニ營業登記簿ノ縱覽ヲ許シ且手数料ヲ納ムル者ニハ認證シタル謄本ヲ請フコトヲ許ス

第二十條 登記及ヒ公告ヲ受ケル毎ニ手数料ヲ納メシム其額ハ勅令ヲ以テ一定平等ニ之ヲ定ム
第二十一條 登記ヲ受ケントスルトキハ當事者ノ署名捺印シタル陳述書ヲ以テ自己又ハ委任狀ヲ受ケタル代理人ヨリ届出ツルコトヲ要ス其登記ハ即日又ハ翌日中ニ之ヲ爲ス

第二十二條 若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ當事者ヨリ其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二十二條 登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ己レノ過

先ニ非ザルコトヲ證シ得ルニ非ザレハ之ヲ知ラサルヲ以テ已レテ保護スルコトヲ得ス然レトモ
其事項ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハス其效用ヲ致サシム但權
利關係カ登記ニ因リ始メテ生ス可キ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ム

第三章 商號

第二十三條 各商人ハ商號ヲ有シ總テ商業上ニ於テ自己ヲ表示スル爲メ之ヲ用ユ若シ一人ニシテ
資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲ストキハ其各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルコトヲ要ス

第二十四條 商號ハ從來屋號ト稱スルモノヲ以テスルヲ通例トスト雖モ營業者ノ氏又ハ氏名ヲ以
テスルモ妨ナシ

第二十五條 商號ノ登記ヲ請ハントスル者ハ商業登記簿ニ登記ヲ受クルコトヲ得支店アルトキハ
其支店ニ付テモ亦同シ

登記ヲ受ケタル商號ノ變更又ハ廢止ハ速ニ其登記ヲ受ケ可シ

第二十六條 商號ハ登記ニ因リ同一營業ニ付キ一地域内ニ於テ其專有ノ權利ヲ取得シ他人ノヲ用
ユルコトヲ得ス但本法施行以前ヨリ有スル商號ハ從前ノ營業ヲ變セサルモノニ限り一地域内ニ
於テ同一ナルモ妨ナシ

第二十七條 相續ニ因リテ商業ヲ引受クル者又ハ契約ニ因リテ商業ト共ニ商號ヲ引受クル者ハ第
七十五條ニ規定シタル場合ヲ除ク外從前ノ商號ヲ續用スルコトヲ得

第二十八條 商號ハ其營業ト共ニスルニ非ザレハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

營業ト商號トヲ併セテ讓渡ストキハ其商號ヲ續用スルト之ヲ變更スルトヲ問ハス取引ノ仕殘、
債務、得意先及ヒ商業帳簿モ共ニ讓渡スモノト看做ス但特約アルトキハ此限ニ在ラス

商號引受ノ通知又ハ公告ノ中ニ特約ヲ明揭セサルトキハ其特約ハ第三者ニ對シテ無効タリ、

第二十九條 營業ト商號トヲ併セテ讓渡ス者更ニ其營業ヲ爲ササル責務ヲ負擔シタルトキハ其責
務ノ履行ハ爾後十箇年間其一地域内ニ限ル

第三十條 既ニ登記シタル他人ノ商號ヲ濫用シタル者又ハ第二十八條第二項及ヒ第二十九條ニ
記載シタル責務ニ背ク者アルトキハ被害者ハ其加害所爲ノ停止及ヒ損害賠償ヲ要求スルコトヲ
得

第四章 商業帳簿

第三十二條 各商人ハ其營業部類ノ慣例ニ從ヒ完全ナル商業帳簿ヲ備フル責アリ殊ニ帳簿ニ日日
其取扱ヒタル取引、他入トノ間ニ成立シタル自己ノ權利義務、受取り又ハ引渡シタル商品、支拂
ヒ又ハ受取りタル金額ヲ整齊且明瞭ニ記入シ又月其家費費用及ヒ商業費用ノ總額ヲ記入ス
小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ問ハス逐一之ヲ記入スルコトヲ要セス日日ノ賣上總額ノミヲ記
入ス

第三十二條 各商人ハ開業ノ時及ヒ爾後毎年初ノ三箇月内ニ又合資會社及ヒ株式會社ハ開業ノ時
及ヒ毎事業年度ノ終ニ於テ動産、不動産ノ總目錄及ヒ貸方借方ノ對照表ヲ作り特ニ設ケタル帳
簿ニ記入シテ署名スル責アリ

財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ商品、債權及ヒ其他總テノ財産ニ當時ノ相場又ハ市
場價直ヲ附ス辨償ヲ得ルコトノ確ナラサル債權ニ付テハ其推知シ得ヘキ損失額ヲ扣除シテ之ヲ
記載シ又到底損失ニ歸ス可キ債權ハ全ク之ヲ記載セス

第三十三條 毎半箇年又ハ毎半箇年内ニ利息又ハ配當金ヲ社員ニ分配スル會社ハ毎半箇年ニ前條

記載ノ責ヲ盡ス可シ

第三十四條 各商人ハ十箇年間商業帳簿ヲ貯藏シ火災又ハ其他ノ意外ノ事變ニ因リテ喪失又ハ毀損セサルコトニ注意スル責アリ

第三十五條 商人ノ商業帳簿ハ其一身ノ所有物ニシテ破産又ハ會社清算ノ場合ヲ除ク外官權ヲ以テ之ヲ交付セシムルコトヲ得ス

第三十六條 然レトモ相續ニ關スル事件、共通ニ關スル事件、分割ニ關スル事件及ヒ業務取扱ニ關スル争訟ニ付キ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令アルトキハ總テノ商業帳簿ヲ差出ササルコトヲ得ス

第三十七條 争訟中原告又ハ被告ノ申立アルトキハ受訴裁判所ハ相手方ノ商業帳簿ノ開示ヲ命シ其所有者ノ面前ニ於テ右争訟事件ニ關スル記入ノ檢閲又ハ時宜ニ因リテ其謄寫ヲ爲サシム若シ其帳簿力他ノ地ニ在ルトキハ右裁判所ハ其地ニ就キ又ハ其地ノ裁判所ニ囑託シテ檢閲又ハ謄寫ヲ爲サシム

第三十八條 何人ニテモ商業帳簿又ハ其中ノ一ヲ開示ス可キ裁判所ノ命令ニ從ハサル者ハ之ヲ以テ證ス可キ争訟事件ニ付キ自己ノ不利ト爲ル推定ヲ受ク但其開示セザリシハ自己ノ過失ニ非サルコトヲ證シ又ハ疏明シ得ルトキハ此限ニ在ラス

第三十九條 商業帳簿ノ記入ノ證據力ハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ判決ス然レトモ其記入ノミチ以テ記入者ノ利益ト爲ル可キ十分ノ證ト爲スコトヲ得ス但相手方ニ於テモ亦其記入ヲ援用シタルトキ又ハ相手方カ商人ニシテ自己ノ帳簿ニ於ケル反對ノ記入ヲ以テ之ニ對抗シ能ハサルトキ又ハ相手方ニ於テ其不正ナルコトヲ少シニテモ信認セシメ得サルトキハ此限ニ在ラス

相手方其記入ヲ援用シタル場合ニ於テ之ト連絡セル記入アルトキモ亦同シ

第四十條 原告被告雙方ノ商業帳簿ノ記入相抵觸シテ解明シ能ハサルトキニ於テモ亦裁判所ハ事情ヲ斟酌シテ其證據物ヲ全ク擲棄スルト否ト又ハ一方ノ帳簿ニ一層ノ信用ヲ置クト否トヲ判決ス

第四十一條 商業帳簿力十分ノ證ト爲ラサル總テノ場合ニ於テハ裁判所カ事情ヲ斟酌シテ定ム可キ他ノ證據ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第五章 代務人及ヒ商業使用人

第四十二條 何人ニテモ商業ヲ營ム者ハ本店又ハ支店ニ明示ノ委任ヲ以テ一人又ハ數人ノ代務人ヲ置クコトヲ得但其委任ハ別ニ定式ヲ要セス

代務ノ委任及ヒ其解任ハ商業登記簿ニ其登記ヲ受ケ可シ

第四十三條 代務ハ何時ニテモ之ヲ解任シ又ハ代務人ヨリ之ヲ辭スルコトヲ得又其委任時期ノ滿了ニ因リ又ハ代務人ト取結ヒタル雇傭契約ノ絶止ニ因リ又ハ其委任ヲ爲シタル營業ノ讓渡若クハ廢止ニ因リテ自ラ消滅ス然レトモ商業主人ノ死亡ニ因リテハ消滅セス

代務人其委任ノ終リタル後ニ爲シタル取引ハ代務人其終リタルコトヲ知ラサルトキニ限り有效タリ

第四十四條 數人共同ニ委任ヲ受ケタル代務ハ總員共同ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス此代務ハ其一人ニ付テ消滅シタルトキハ他ノ各人ニ付テモ亦消滅ス

第四十五條 代務ノ委任ニハ商業主人ノ商號ヲ用井且之ニ代リ裁判上ト裁判外トヲ問ハス其商業ニ關スル總テノ商取引及ヒ權利行爲ヲ爲シ得ル權力ノ授與ヲ包含ス

代務權ニ制限ヲ立ツルモ其制限ハ第三者ニ對シテ無効タリ但第三者其制限アルコトヲ知りタルトキハ此限ニ在ラス

第四十六條 代務ハ無期ニテモ又或ル時期ニ達シ若クハ或ル事件ノ生スルヲ限トシテモ又有期ニテモ之ヲ委任スルコトヲ得但解任及ヒ辭任ノ權利ハ此カ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第四十七條 代務人ハ代務權ノ全部若クハ一分ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得ス但商業使用人ヲ置ク權アリ

第四十八條 商業主人ハ代務人カ其主人ノ營業上ニ於テ爲シタル取引及ヒ行爲ニ因リテ特リ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ但主人ノ之ヲ承諾シタルト否ト又ハ主人ノ名ヲ以テ爲シタルト否トヲ問フコト無シ又代務人カ其主人ノ營業上ニ於テ爲シタル不法ノ行爲又ハ代務人カ自己ノ名ヲ以テ取結ヒタル取引ト雖モ其時ノ情況及ヒ相手方ノ意思ニ因リ主人ノ計算ヲ以テ爲シタルトス可キモノニ付テハ亦同シ

第四十九條 何人ニテモ代務委任ヲ僞稱シ又ハ代務委任ヲ踰越シテ取引ヲ取結ヒタル者ハ相手方ニ對シテ其權ニ從ヒ取引履行又ハ損害賠償ノ責任ヲ自己ニ負フ其代務委任踰越ノ場合ニ於テ第四十五條第二項ニ從ヒテ商業主人其義務ヲ負フ可キトキハ主人モ亦之カ責ニ任セサルコトヲ得ス然レトモ此場合ニ於テハ主人又ハ代務人ノ中一方ノミニ對シテ其取引ノ效用ヲ致サシムルコトヲ得

相手方ニ於テ代務委任ノ欠缺ヲ知テ爲シタル取引ハ雙方ニ在テ無効タリ

第五十條 代務人ハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ商ヲ爲スコトヲ得ス若シ此成規ニ背キタルトキハ第六十三條ニ定メタル結果ノ外商業主人ノ求ニ從ヒ其商取引ヲ主人ノ計算ニ移

シ且損害アラハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五十一條 何人ニテモ商業上商業主人ノ業務ヲ辨センカ爲メニ商業使用人トシテ置カレタル者ハ特別ノ委任ヲ受ケスト雖モ通常其擔當職分ノ範圍内ニ屬ス可キ總テノ取引及ヒ行爲ヲ主人ノ爲メニ十分ノ效力ヲ以テ爲スコトヲ得使用人カ營業ノ全部若クハ一分ノ爲メニ置カレタルト否ト又ハ或種ノ取引若クハ一箇ノ取引ノ爲メニ置カレタルト否トヲ問ハス其取引及ヒ行爲ニ因リテ主人獨リ權利ヲ得義務ヲ負フ

使用人カ主人ノ爲メニ訴訟ヲ爲シ又ハ裁判所ニ出テ或ル行爲ヲ爲スハ特別ノ委任ヲ受ケタルトキニ限ル

使用人署名スルトキハ主人ノ代理タル旨ヲ書添フルコトヲ要ス

第五十二條 商業使用人カ商業主人ノ爲メニ店舗、倉庫及ヒ其他ノ營業場ニ於テ或ル業務ヲ辨スルトキ又ハ他所ニ送遣セラレルトキ又ハ帳場ニ於テ第三者ト取引ヲ爲スニ際シ主人ヨリ制止セラレズ若クハ第三者ノ問ヲ受ケテ己レ之ヲ爲ス權アリト答ヘタルトキハ殊ニ其職分ノ範圍ニ付キ置カレタルモノト看做サル

第五十三條 商業使用人ヲ商業主人ノ代人トシテ之ト取引ヲ爲シタル第三者カ善意ナルニ於テハ使用人其受ケタル委任ニ依ラサルモ又指定セラレタル方法ニ依ラサルモ其取引ハ第三者ニ對シテ有效タリ

第五十四條 商業主人カ商業使用人ヲシテ商慣習ニ定マレル職分ノ範圍ヲ擴メテ其代理ヲ爲サシメントスルトキハ此カ爲メ特別ノ委任ヲ爲シ且相當ノ方法ヲ以テ之ヲ第三者ニ告知スルコトヲ要ス殊ニ商業通信書又ハ手形及ヒ其他ノ債務證書ニ於ケル使用人ノ署名カ主人ヲ羈束ス可キト

キハ右ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五十五條 營業場ニ於テ第三者カ善意ヲ以テ商業使用人ニ對シテ金錢ノ受渡ヲ爲シタルトキハ何レノ場合ヲ問ハス商業主人之ヲ承諾スル義務アリ商品、證券及ヒ其他ノ有價物ニ付テモ亦同シ

受取ノ證アル勘定書及ヒ其他ノ受取證書ヲ持參スル者ハ拂金及ヒ其他書中記載ノ物ヲ受取ル權アルモノト看做サル但情況ニ因リテ右ニ異ナレル推定ヲ爲ス可キトキハ此限ニ在ラス

第五十六條 商業使用人ハ其職分上ノ權ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得ス又商業主人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ他人ヲ代理トシテ其權ノ全部若クハ一分ヲ行ハシムルコトヲ得ス但商價習ニ於テ代理ヲ許スモノハ此限ニ在ラス

第五十七條 第四十五條第二項、第四十八條、第四十九條及ヒ第五十條ノ規定ハ商業使用人ニモ亦之ヲ適用ス

第五十八條 商業主人ト商業使用人トノ間ノ權利關係ニシテ其雇傭ニ關スルモノハ本法ニ規定シタルモノヲ除ク外雇傭契約ノ原則ニ從ヒ之ヲ定ム

第五十九條 期限ヲ定メスシテ取結ヒタル雇傭契約ハ雙方何時ニテモ之ヲ解ク豫告ヲ爲スコトヲ得但其豫告ハ一箇月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

商業主人若クハ商業使用人ノ終身ヲ期シ又ハ之ト同視ス可キ長キ期限ヲ定メテ取結ヒタル雇傭契約ハ期限ヲ定メサルモノト看做ス

第六十條 期限ヲ定メテ取結ヒタル雇傭契約ハ雙方ノ承諾アルニ非サレハ其期間満了ノ前ニ之ヲ解クコトヲ得ス但法律ニ依リ其期限前ニ辭任又ハ解任ヲ爲シ得ヘキ場合ハ此限ニ在ラス

雇傭期限中ハ商業主人ニ於テ商業使用人ヲ全ク使役セス又ハ僅カニ使役スト雖モ使用人ハ契約上ノ給料又ハ各地慣習ノ給料ヲ受クル權利アリ

第六十一條 商業使用人カ雇傭期限中疾病ニ罹リ又ハ其他ノ事故ニ因リテ二箇月以上業務ニ就クニ耐ヘサルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第六十二條 商業使用人カ就業中疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ被ムルモ商業主人ノ過失ニ因ラサルトキハ主人ヨリ治療費ヲ給シ又ハ償金ヲ與フル義務ナシ

第六十三條 商業使用人ヲ何時ニテモ解任シ得ヘキ場合左ノ如シ
第一 不實ノ行爲ヲ爲シ又ハ已レニ受ケタル信任ニ背キタルトキ

第二 自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ取引ヲ爲シタルトキ但些少ノ取引ハ此限ニ在ラス
第三 正當ノ理由ナクシテ其命セラレタル仕事ヲ爲スコト及ヒ總テ已レノ負擔シタル義務ヲ履行スルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リタルトキ

第四 不當ノ舉動又ハ不品行ノ爲メニ指斥ヲ受ケタルトキ

第六十四條 商業主人カ商業使用人ニ相當ノ給料ヲ與ヘス又ハ之ニ違法若クハ不善ノ業務ヲ命シ又ハ其身體ノ安全、健康若クハ名譽ヲ害シ若クハ害セントスル取扱ヲ爲ストキハ使用人ハ何時ニテモ辭任スルコトヲ得

若シ使用人獨立シテ營業ヲ始メントスルトキハ期限前ト雖モ第五十九條ニ掲ケタル豫告期間ニ從フニ於テハ亦辭任スルコトヲ得

第六十五條 雇傭契約ハ商業主人ノ死亡ニ因リテ終ラズ然レトモ商業使用人ノ雇入レラレタル其營業ノ廢止ニ因リテ終ル但し其營業ヲ他人ニ移サントスルトキハ第五十九條ニ從ヒ雙方豫告ノ權

利ヲ有ス

第六章 商事會社及ヒ共算商業組合

商事會社總則

第六十六條 商事會社ハ共同シテ商業ヲ營ム爲メニ之ヲ設立スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ背キ又ハ禁止セラレタル事業ヲ目的トスル會社ハ初ヨリ無効タリ

若シ會社ノ營業カ公安又ハ風俗ヲ害ス可キトキハ裁判所ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ

職權ニ依リ其命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 法律、命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受ク可キ營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニ

非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

株式會社ニ關シテハ第三節ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第六十九條 會社ノ設立ハ適當ナル登記及ヒ公告ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ會社タル效

ナシ

第七十條 會社ハ社名ヲ設ケ社印ヲ製シ定マリタル營業所ヲ設クルコトヲ要ス

第七十一條 社員ニハ社名ヲ刻シ其印鑑ヲ商業登記簿ニ添ヘテ保存スル爲メ之ヲ第十八條ニ掲ケ

タル裁判所ニ差出スコトヲ要ス社印ヲ變更シ又ハ改刻スルトキモ亦此手續ヲ爲ス

第七十二條 社名及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書、株券、手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ

得義務ヲ負フ可キ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ

第七十三條 會社ハ特立ノ財産ヲ所有シ又ハ獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フ又訴訟ニ付キ原告又ハ

被告ト爲ルコトヲ得

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第七十四條 二人以上共通ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム爲メ金錢又ハ有價物又ハ勞力ヲ出資ト爲シテ

共有資本ヲ組成シ責任其出資ニ止マラサルモノヲ合名會社ト爲ス

第七十五條 社名ニハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用井之ニ會社ナル文字ヲ附ス可シ

會社若シ現在セル他人ノ營業ヲ引受クルトキハ其舊社名ヲ續用スルコトヲ得ス

第七十六條 社員ノ退社シタル後ト雖モ從前ノ社名ヲ續用スルコトヲ得但退社員ノ氏ヲ社名中ニ

續用セントスルトキハ本人ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第七十七條 會社ハ書面契約ニ因リテノミ之ヲ設立スルコトヲ得其契約書ハ總社員之ニ連署ス

右ノ規定ハ會社契約ノ變更ニ於テモ亦之ヲ遵守ス

第七十八條 會社ハ設立後十四日內ニ本店及ヒ支店ノ地ニ於テ其登記ヲ受ク可シ

第七十九條 登記及ヒ公告ス可キ事項左ノ如シ

- 第一 合名會社ナルコト

- 第二 會社ノ目的

- 第三 會社ノ社名及ヒ營業所

- 第四 各社員ノ氏名、住所

- 第五 設立ノ年月日

- 第六 存立時間ヲ定メタルトキハ其時期

- 第七 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名

第八十條 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シタルトキハ七日内ニ其登記ヲ受ク可シ

第八十一條 會社ハ登記前ニ事業ニ著手スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ其事業ヲ差止ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六箇月内ニ事業ニ著手セサルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効タリ

第二款 會社契約ノ變更
第八十三條 會社契約ハ總社員ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス其承諾ナキトキハ契約ノ從前ノ規定ニ從フ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行セサリシモノハ社員又ハ第三者ニ對シテ其效用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ本法及ヒ會社契約ニ因リテ定マルモノトス

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモ之ニ異ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任アル總社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ノ施行ニ關スル事項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 會社ノ義務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保障スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九條 社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應ジテ等差ヲ立ツルコトヲ得ス

第九十條 業務擔當ノ任ナキ社員ハ何時ニテモ業務ノ實況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ検査

シ且此事ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ得

第九十一條 業務擔當ノ任アル各社員ハ代務ノ委任又ハ解任ヲ爲ス權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シ正整ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勤勉注意ヲ爲ス責務アリ其責務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金錢又ハ有價物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社ノ財産目錄ニ記入シ會社ノ所有ニ歸ス

第九十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ルルコト能ハサルトキハ除名セラレタルモノト看做ス但總社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ルルトキハ此限ニ在ラス

第九十五條 社員其負擔シタル出資ヲ差入レサルトキハ會社ハ之ヲ除名スルト會社契約ニ定メタル利息ヲ拂ハシムルトキハ其執レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九十六條 社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増シ又ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ補充スル義務ナシ

第九十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルコトヲ得ス

第九十八條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ己レノ地位ニ代ハラシムルコトヲ得ス

第九十九條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ讓渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シテ其效ナシ

ム

第一百條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムルトキハ其關係ハ共算商業組合ノ規定ニ依リテ之ヲ定

第一百條 社員が會社に消費貸しを爲し又ハ會社の爲めに立替金を爲シタルトキハ會社契約に定メタル年利息ヲ求ムルコトヲ得又社員が業務施行ノ爲メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其補償ヲ求ムルコトヲ得

第一百一條 會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキトキハ社員ハ業務施行ノ勤勞ニ付キ其報酬ヲ求ムルコトヲ得然レトモ勞力ヲ出資ト爲シタル社員其負擔シタル出資外ニ爲シタル勞力ニ付テハ相當ノ報酬ヲ求ムルコトヲ得

第十二條 社員が會社ノ爲メニ受取りタル金銭ヲ相當ノ時日内ニ會社ニ引渡サス又ハ會社ノ金銭ヲ自己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ對シテ會社契約ニ定メタル利息ヲ拂ヒ且如何ナル損害ヲモ賠償スル義務アリ

第十三條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ會社ノ商部ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得ス之ニ背キタルトキハ會社ハ其擇ニ從ヒ社員ヲ除名シ又ハ其取引ヲ會社ニ引受ケ尙ホ其執レノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割合ハ契約ニ於テ他ノ準率ヲ定メサルトキハ其出資ノ價額ニ準ス

第十五條 出資ト爲シタル勞力ノ價額ヲ契約ニ於テ定メサルトキハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第十六條 社員が業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詐欺ヲ行ヒ又ハ其他會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚シク缺キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ且損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十七條 社員が會社契約ニ依リ又ハ本法ノ規定ニ依リテ會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲及ヒ取引ハ各社員互ニ之ヲ承認スル義務アリ

第十八條 第三款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

第一百八條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ

第一百九條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル社員裁判上下裁判外トナ間ハス之ヲ主張シ又有效ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第一百十條 第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者ヨリ業務擔當ノ任アル各社員ニ對シテ其履行ヲ求ムルコトヲ得

第一百一條 業務擔當ノ任アル社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其效ナシ

第一百十二條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財産之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財産ヲ以テ連帶ニテ之ヲ負擔ス

第一百十三條 社員ニ非スシテ社名ニ其ノ民ヲ表スルコトヲ承諾シ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ與カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ負フ

第一百十四條 商業使用人又ハ代務人ハ其給料ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配當ニ因リテ受クルモノト雖モ前條ノ者ト同視セス

第一百十五條 新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ定ナキトキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務ニ付テモ責任ヲ負フ

第一百十六條 會社財産ニ屬スル物ハ社員ノ債權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルコトヲ得ス但差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ爲メ權利ノ設定セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第一百七七條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ得ヘキ利息又ハ配當金ノミチ會社ニ對シテ要求スルコトヲ得

然レトモ社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解散ノ場合ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス
第一百八條 會社ニ對スル債務ト社員ニ對スル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債務トノ相殺ハ會社財産ノ分割前ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一百九條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者カ其會社財産ヨリ得ヘキ辨償ヲ減損セラレ又支障セラレタルトキハ減少ノ時ヨリ二箇年内ニ在テハ其減少ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得
第五款 社員ノ退社

第一百二十條 社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ總社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルコトヲ得

其退社ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲シタル上事業年度ノ末ニ限ル但急速ニ退社ス可キ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第一百二十一條 右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因リテ退社ス

第一 除名

第二 死亡但會社契約又ハ總社員ノ承諾ニ依リ相續人其他ノ承繼人死亡者ノ地位ニ代ハル可キトキハ此限ニ在ラス

第三 破産又ハ家資分散

第四 能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第一百二十二條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日内ニ其理由ヲ附シタル登記ヲ受ク可シ

第一百二十三條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作リタル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ其持分

ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承繼人ニ拂渡スコトヲ要ス

退社前ノ取引ニシテ未タ結了セサルモノハ其結了ノ後之ヲ計算スルコトヲ得

第一百二十四條 退社員ノ持分ノ價直ハ特約アルニ非サレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハス金錢ノミニテ之ヲ拂渡ス

勞力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出資ニ付テハ特約アルニ非サレハ之ニ對スル報償ヲ爲ス義務ナシ

第一百二十五條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二箇年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ

第九十八條ノ場合ニ於テ第三者チシテ已レノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦前項ヲ適用ス

第六款 會社ノ解散

第一百二十六條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立期ノ滿了

第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

第三 總社員ノ承諾

第四 會社ノ破産

第五 裁判所ノ命令

第一百二十七條 第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルコト能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判

所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得
 會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名ス可キコト
 ナ他ノ總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得
 前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二百二十八條 第二百二十六條ノ第一號第二號ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニ
 テ會社ヲ保續スルコトヲ得但社員ノ一分ニテ保續シタルトキハ其離脱シタル社員ハ退社シタル
 モノト看做ス

第二百二十九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數
 人ヲ任シ七日内ニ解散ノ理由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ケ可シ

第三百十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ結了シ會社ノ義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産
 ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保續シ又ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得ス又清算人
 ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得

第三百十一條 清算人ノ權ハ社員之ヲ制限スルコトヲ得ス且重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因
 リ裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得ス但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲ス
 コトヲ得

第三百十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第一百五條及ヒ第二百二十四條
 ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ自由ト爲リタル財産ハ之ヲ社員ニ分配ス
 ルコトヲ得

第三百十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ濟了スルニ要セサル會社財産ニ限ル

第三百十四條 解散シタル會社ノ商業帳簿及ヒ其他ノ書類ハ社員第三十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處
 分ス

第三百十五條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限責任ハ其義務ニ付キ五箇年未滿ノ時効ノ定ナキト
 キニ限り解散後五箇年ノ滿了ニ因リテ時効ニ罹ル但債權者方未タ分配セラレサル會社財産ニ對
 シテ請求ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス

第二節 合資會社

第三百十六條 社員ノ一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ金錢又ハ有
 價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス

第三百十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規定ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從フ

第三百十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シタルモノノ
 外尙ホ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第一 合資會社ナルコト

第二 會社資本ノ總額

第三 各會社ノ出資額

第四 無限責任社員アルトキハ其氏名

第五 業務擔當社員ノ氏名

第三百十九條 社名ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又社名
 ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ
 若シ社名ニ社員ノ氏ヲ用井タルトキハ其社員ハ此カ爲メ當然會社ノ義務ニ對シテ無限責任ヲ負

第四百十條 無限責任ノ社員、業務擔當社員ヲ除ク外社員ハ自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ
會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得
第四百十一條 業務擔當社員ノ選任及ヒ解任ハ總社員四分三以上ノ多數決ニ依ル
第四百十二條 業務擔當社員ハ會社契約ニ依リ一定ノ無限責任社員ノミヲ以テ之ニ充ツルコトヲ
得

第四百十三條 業務擔當社員ハ裁判上ト裁判外トヲ問ハス總テ會社ノ事務ニ付キ會社ヲ代理スル
專權ヲ有ス然レトモ會社契約又ハ會社ノ決議ニ依リテ羈束セラレ
數人ノ業務擔當社員又ハ取締役アル場合ニ於テ各別ニ業務ヲ取扱フコトヲ得ルモノタリヤ又ハ
其總員若クハ數人共同ニ非サレハ之ヲ取扱フコトヲ得サルモノタリヤハ會社契約又ハ會社ノ決
議ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十四條 業務擔當社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ヲ以テ之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ
對シテ其效ナシ

第四百十五條 有限責任社員ハ業務擔當社員ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得此場合
ニ於テハ取得者ハ讓渡人ノ權利義務ヲ襲承ス

第四百十六條 業務擔當社員ハ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ連帶無限ノ責任ヲ負フ
第四百十七條 前條ニ掲ケタル連帶無限ノ責任ハ業務擔當社員ノ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消
滅ス

第四百十八條 業務擔當社員ハ每年少ナクトモ一回通常總會ヲ召集シ其他業務擔當ノ任アル社員

又ハ取締役ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ總社員四分一以上ノ申立アルトキハ臨時總會ヲ召集ス
可シ

第四百十九條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ少ナクトモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及
ヒ提出ス可キ書類ヲ送付スルコトヲ要ス

第五百十條 事業年度ノ終リタル後直チニ通常總會ヲ開キ其年度ノ貸借對照表及ヒ事業並ニ其
成果ノ報告書ヲ社員ニ提出シテ検査及ヒ認定ヲ受ク其認定ハ出席社員ノ多數決ニ依ル

第五百十一條 臨時總會ニ於テ議ス可キ事項ハ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
然レトモ合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要ス可キ事項ハ總社員四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決
ス此場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直チニ退社スル權利アリ

第五百十二條 前條ニ掲ケタル決議ニ要スル定數ノ社員出席セサルトキハ其總會ニ於テ假ニ決議
ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ召集ス其通知ニハ若シ第
二ノ總會ニ於テ出席社員ノ多數ヲ以テ第一ノ總會ノ決議ヲ認可シタルトキハ之ヲ有效ト爲ス可
キ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

第五百十三條 利息又ハ配當金ハ會社資本額ヲ損失ニ因リテ減シタル間ハ之ヲ社員ニ拂渡スコト
ヲ得ス

第三節 株式會社

第一款 總則

第五百十四條 會社ノ資本ヲ株式ニ分チ其義務ニ對シテ會社財産ノミ責任ヲ負フモノヲ株式會社
ト爲ス

第百五十五條 株式會社ハ其目的カ商業ヲ營ムニ在ラサルモ商事會社總則本節及ヒ次節ノ規定ニ從フ

第百五十六條 株式會社ハ七人以上ヲ以テシ且政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二款 會社ノ發起及ヒ設立

第百五十七條 株式會社ハ四人以上ニ非サレハ之ヲ發起スルコトヲ得ス

發起人ハ目論見書及ヒ假定款ヲ作り各自之ニ署名捺印ス

定款ハ本法ノ規定ニ牴觸スルコトヲ得ス

第百五十八條 目論見書ニ記載ス可キ事項左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 資本使用ノ概算

第六 發起人ノ氏名、住所及ヒ發起人各自ノ引受クル株數

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第百五十九條 發起人ハ會社ヲ設立ス可キ地ノ地方長官ヲ經由シテ目論見書及ヒ假定款ヲ主務省

ニ差出シ發起ノ認可ヲ請フコトヲ要ス

第百六十條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タルトキハ目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得

其公告中ニハ法律ニ規定シタル發起ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認可ノ年月日ト各株式申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨トヲ附記ス

第百六十一條 株式ノ申込ヲ爲スニハ申込人其引受クル株數ヲ株式申込簿ニ記入シテ之ニ署名捺印ス又其中込ハ署名捺印シタル陳述書ノ送附ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

代人ヲ以テ申込ムトキハ委任者ノ氏名ニ代人其氏名ヲ附記シテ之ニ捺印ス

第百六十二條 株式ノ申込ニ因リテ申込人ハ會社設立スルニ至レハ定款ニ從ヒ各株式ニ付テノ拂込ヲ爲ス可キ義務ヲ負フ

第百六十三條 總株式ノ申込アリタル後ハ發起人ハ創業總會ヲ開ク可シ其總會ニ於テハ少ナクトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人ノ承諾ヲ經テ定款ヲ確定ス

第百六十四條 創業總會ニ於テハ創業ノ爲メ發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ議定シ又有價物ノ出費ヲ差入レテ株式ヲ受ク可キ者アルトキハ其價格ヲ議定ス

前項ノ議定ハ少ナクトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ之ヲ爲ス

第百六十五條 其他創業總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選定ス

第百六十六條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ會社設立ノ免許ヲ請フ其申請書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

第一 目論見書及ヒ定款

第二 株式申込簿

第三 發起ノ認可證

第六十七條 會社設立ノ免許ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ取締役ニ引渡ス可シ

取締役ハ速ニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少ナクトモ四分一ノ金額ヲ會社ニ拂込マシム

第六十八條 會社ハ前條ニ掲ケタル金額拂込ノ後十四日內ニ目見論書、定款、株式申込簿及ヒ

設立免許書ヲ添ヘテ登記ヲ受ク可シ

登記及ヒ公告ス可キ事項ハ左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ社名及ヒ營業所

第四 資本ノ總額株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第六 取締役ノ氏名、住所

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八 設立免許ノ年月日

第九 開業ノ年月日

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ保存ス

第六十九條 會社支店ヲ設ケタルトキハ其所在地ニ於テ亦登記ヲ受ク可シ

第七十條 設立ノ免許ヲ得タル後遲クトモ一箇年內ニ登記ヲ受ケサルトキハ其免許ハ效力ヲ

失フ第八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第七十一條 登記前ニ在テハ創業總會ノ承諾ヲ得タル義務及ヒ出費ニ付キ發起人、取締役及ヒ

株主ニ於テ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第七十二條 創業總會ノ承認ヲ經サル義務及ヒ出費ニ付テハ發起人ニ於テ仍ホ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第三款 會社ノ社名及ヒ株主名簿

第七十三條 社名ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス又商號ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス可シ

第七十四條 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

第一 各株主ノ氏名、住所

第二 各株主所有ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號

第三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第四 各株式ノ取得及ヒ讓渡ノ年月日

第四款 株式

第七十五條 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定平等ニ分チタルモノニシテ二十圓ヲ下ルコトヲ得

ス又其資本十萬圓以上ナルトキハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七十六條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作り之ニ其金額、發行ノ年月日、番號、社名、社印、

取締役ノ氏名、印及ヒ株主ノ氏名ヲ載ス但定款ニ依リ數株ヲ合シテ一通ノ株券ヲ作ルコトヲ得

第七十七條 株式ハ分割又ハ併合スルコトヲ得ス

第七十八條 株金全額拂込以前ニ於テハ會社ハ假株券ヲ發行シ全額完納ノ後ニ至リ始メテ本株

券ヲ發行スルコトヲ得

第七十九條 假株券及ヒ本株券ハ登記前ニ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第百八十條 登記前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効タリ
第百八十一條 株式ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サレハ會社ニ對シテ其效ナシ

第百八十二條 株金半額拂込前ノ株式ノ讓渡人ハ讓渡後二箇年間會社ニ對シテ其株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ

第百八十三條 會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉鎖ノ爲メ公告ヲ爲シテ事業年度毎二一箇月ヲ踰エサル期間株券ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第百八十四條 拂込ミタル株金額及ヒ會社財産中ノ持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得ス

第五款 取締役及ヒ監査役

第百八十五條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカラサル取締役ヲ三箇年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

取締役ハ同役中ヨリ主トシテ業務ヲ取扱フ可キ專務取締役ヲ置クコトヲ得然レトモ其責任ハ他ノ取締役ト同一ナリ

第百八十六條 取締役ノ代理權及ヒ其權ノ制限ニ付テハ第百四十三條及ヒ第百四十四條ノ規定ヲ適用ス

第百八十七條 取締役ニ選マルル爲メ株主ノ所有ス可キ株數ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ム取締役ノ在任中ハ其株券ノ融通ヲ禁スル爲メ封印シテ之ヲ會社ニ預リ置ク可シ

第百八十八條 取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡スコト及ヒ定款竝ニ會社ノ決議ヲ遵守スルコトニ付

キ會社ニ對シテ自己ニ其責任ヲ負フ

第百八十九條 取締役ハ會社ノ義務ニ付キ各株主ニ異ナラサル責任ヲ負フ然レトモ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シタル義務ニ付キ取締役力連帶無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムルコトヲ得其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第百九十條 取締役ノ更迭ハ其度毎ニ登記ヲ受ク可シ

第百九十一條 總會ハ株主中ニ於テ二人以上監査役ヲ二箇年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

第百九十二條 監査役ノ職分ハ左ノ如シ

第一 取締役ノ業務施行カ法律、命令、定款及ヒ總會ノ決議ニ適合スルヤ否ヤヲ監視スルコト

第二 計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書利息又ハ配當金ノ分配案ヲ検査シ此事ニ關シ株主總會ニ報告ヲ爲スコト

第三 會社ノ爲メニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ總會ヲ招集スルコト

第百九十三條 監査役ハ何時ニテモ會社ノ業務ノ實況ヲ尋問シ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ展閱シ會社ノ金匯及ヒ其全財産ノ現況ヲ検査スル權利アリ

第百九十四條 監査役中ニ於テ意見ノ分レタルトキハ其意見ヲ總會ニ提出ス

第百九十五條 監査役ハ第百九十二條ニ掲ケタル責務ヲ缺キタルニ因リテ生シタル損害ニ付キ會社ニ對シ自己ニ其責任ヲ負フ

第百九十六條 取締役又ハ監査役カ給料又ハ其他ノ報酬ヲ受ク可キトキハ定款又ハ總會ノ決議ヲ

以テ之ヲ定ム

第九十七條 取締役又ハ監査役ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得其解任セラルタル者ハ會社ニ對シテ解任後ノ給料若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六款 株主總會

第九十八條 總會ハ取締役、監査役又ハ其他本法ニ依リテ招集ノ權ヲ有スル者之ヲ招集ス

第九十九條 總會ノ招集ハ會日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シ且定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ適用ス

第一百條 通常總會ハ毎年少ナクトモ一回定款ニ定メタル時ニ於テ之ヲ開キ其總會ニ於テハ其事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ株主ニ示シテ其決議ヲ爲ス

取締役ノ提出スル書類ニ付テノ監査役ノ報告書ハ其書類ト共ニ之ヲ提出ス

第一百一條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得又總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ申立ツルトキハ亦臨時總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

第一百二條 總會ハ本法ニ於テ別段ノ規定アルトキノ外定款ノ定ニ從ヒテノミ決議ヲ爲スコトヲ得定款ニ其定ナキトキハ總株金ノ少ナクトモ四分一ニ當ル株主出席シ其決議權ノ過半数ニ依リテ決議ヲ爲ス

第一百三條 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付テノ決議ヲ爲スニハ第六十四條ニ定メタル決議ノ

方法ニ依ル

第一百五十三條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第一百四條 株主ノ議決權ハ一株毎ニ一箇タルヲ通例トス然レトモ十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ其制限ヲ立ツルコトヲ得

第七款 定款ノ變更

第一百五條 會社ハ定款ニ定アルトキ又ハ總會ノ決議ニ依リテ定款ヲ變更スルコトヲ得然レトモ法律ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ背違スルコトヲ得ス

第一百六條 會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ増シ又ハ新株券ヲ發行シテ之ヲ爲シ又其減少ハ株券ノ金額又ハ株數ヲ減シテ之ヲ爲スコトヲ得但資本ハ其金額ノ四分一未滿ニ減スルコトヲ得ス會社ハ債券ヲ發行スルコトヲ得此債券ハ記名ノモノニシテ其金額ニ付テハ第七十五條ノ規定ヲ適用ス

第一百七條 會社資本ヲ減セントスルトキハ會社ハ其減少ノ旨ヲ總テノ債權者ニ通知シ且異議アル者ハ三十日內ニ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ得ス

第一百八條 前條ニ掲ケタル期限ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス
異議ノ申出アリタルトキハ會社ハ其債務ヲ辨償シ又ハ之ニ擔保ヲ供シテ異議ヲ取除キタル後ニ非サレハ資本ヲ減スルコトヲ得ス

第一百九條 資本ノ減少シタル部分ノ拂戻ヲ受ケタル株主ハ過愆ナキ不知ノ爲メ其減少ニ付キ異議ヲ申立テサル債權者ニ對シテ登記ノ日ヨリ二箇年間其受ケタル拂戻ノ額ニ至ルマテ自己ニ責任ヲ負フ

第二百十條 會社ノ定款中既ニ登記ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ直チニ其變更ノ登記ヲ受ケ可シ登記前ニ在テハ其變更ノ效ヲ生セズ
 營業所ヲ移轉スルトキハ舊所在地ニ於テ移轉ノ登記ヲ受ケ新所在地ニ於テハ新ニ設立スル會社ニ付キ要スル諸件ノ登記ヲ受ケ可シ
 又同一ノ地域内ニ於テ移轉スルトキハ移轉ノミノ登記ヲ受ケ可シ
 第二百十一條 會社定款ノ變更ノ登記ヲ受ケタルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ其變更ヲ届出スルコトヲ要ス

第八款 株金ノ拂込

第二百十二條 株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム其拂込ヲ催告スルニハ拂込ノ日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ各株主ニ通知スルコトヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ爲ササル爲メ株主ノ被フル可キ損失ヲ併示ス

第二百十三條 拂込期節ヲ怠リタル株主ハ定款ニ定メタル遲延利息及ヒ其遲延ノ爲メニ生シタル費用ヲ支拂フ義務アリ

第二百十四條 拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少ナクトモ十四日ノ期間ニ於テ拂込ム可キ催告ヲ會社ヨリ受ケ仍ホ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ其株主ニ通知シテ其株券ヲ公賣スルコトヲ得

第二百十五條 公賣セラレタル株券ノ從前所有者ハ公賣代金カ既ニ催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサルトキハ其不足金及ヒ第二百十三條ニ記載シタル利息並ニ費用ノ支拂ニ付キ仍ホ責任ヲ負フ但剩餘アルトキハ會社ハ之ヲ從前ノ所有者ニ還付ス
 會社ハ其定款ヲ以テ別ニ違約金ヲ拂フ可キコトヲ定ムルコトヲ得

第九款 會社ノ義務

第二百十六條 會社ハ株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ拂戻スコトヲ得ス

若シ拂戻シタルトキハ其金額ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百十七條 會社ハ自己ノ株券ヲ取得シ又ハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但債務ノ辨償ノ爲メ若クハ其他ノ事由ニ因リテ會社ニ交付セラレ若クハ移屬シタル株券ハ三箇月内ニ於テ公ニ之ヲ賣リ其代金ヲ會社ニ收ム可シ

第二百十八條 會社ハ毎年少ナクトモ一回計算ヲ閉鎖シ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ作り監査役ノ検査ヲ受ケ總會ノ認定ヲ得タル後其財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ公告ス其公告ニハ取締役及ヒ監査役ノ氏名ヲ載スルコトヲ要ス

第二百十九條 利息又ハ配當金ハ損失ニ因リテ減シタル資本ヲ填補シ及ヒ規定ノ準備金ヲ扣取シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコトヲ得ス

準備金カ資本ノ四分一ニ達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクトモ二十分一ヲ準備金トシテ積置クコトヲ要ス

第二百二十條 前二條ノ制規ニ依ラスシテ拂出シタル利息又ハ配當金ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百二十一條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各株ニ付キ拂込ミタル金額ニ應シ總株主ノ間ニ平等ニ之ヲ爲ス

第二百二十二條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名簿、目論見書、定款、設立免許書、總會ノ決議書、每事業年度ノ計算書、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案及

ヒ抵當若クハ不動産質ノ債權者ノ名簿ヲ備置キ通常ノ取引時間中株主及ヒ會社ノ債權者ノ其求ニ應ジ展閱ヲ許ス義務アリ

第二百二十三條 諸帳簿檢正ノ爲メ事業年度毎ニ一回一箇月ヲ超エサル期間前條ニ定メタル展閱ヲ停止スルコトヲ得

第十款 會社ノ検査

第二百二十四條 總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ會社營業所ノ裁判所ハ一人又ハ數人ノ官吏ニ會社ノ義務ノ實況及ヒ財産ノ現況ノ検査ヲ命スルコトヲ得

第二百二十五條 検査官吏ハ會社ノ金匱、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ヲ検査シ取締役及ヒ其他ノ役員ニ説明ヲ求ムル權利アリ

第二百二十六條 検査官吏ハ検査ノ願未及ヒ其面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調書ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス

調書ノ謄本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付與シ又株主及ヒ其他ノ者ヨリ手数料ヲ納ムルトキハ其求ニ應シテ之ヲ付與ス

第二百二十七條 主務省ハ何時ニテモ其職權ヲ以テ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ第二百二十四條ニ掲ケタル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對シテ訴訟

第二百二十八條 總會ハ監査役又ハ特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條 會社資本ノ少ナクトモ二十分一ニ當ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締

役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得但各株主ノ自己ノ名ヲ用井又ハ參加人ト爲リ裁判所ニ於テ其權利ヲ保衛スル權ヲ妨ケス

第十二款 會社ノ解散

第二百三十條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

第一 定款ニ定メタル場合

第二 株主ノ任意ノ解散

第三 株主ノ七人未滿ニ減シタルコト

第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタルコト

第五 會社ノ破産

第六 裁判所ノ命令

第二百三十一條 會社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其業務ヲ止ム取締役之ニ拘ハラスシテ營業ヲ續行スルトキハ此カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十二條 會社解散ノ場合ニ於テハ取締役ハ總會ヲ召集シ解散ノ決議ヲ取ル但裁判所ノ命令ニ依リテ解散スル場合ハ此限ニ在ラス

其總會ニ於テハ破産ノ場合ヲ除ク外一人又ハ數人ノ清算人ヲ選定ス

第二百三十三條 前條ニ掲ケタル解散ノ決議又ハ清算人ノ選定ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ債權者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算人ヲ任スルコトヲ得

第二百三十四條 會社ハ破産ノ場合ヲ除ク外決議後七日内ニ解散ノ原由、年月日及ヒ清算人ノ氏

名、住所ノ登記ヲ受ケ之ヲ裁判所ニ届出又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百三十五條 裁判所ハ解散及ヒ清算ノ實況ヲ監視スル權アリ

第二百三十六條 登記ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理權ハ清算人ニ移ル然レトモ取締役ハ清算人ノ求ニ應シ清算事務ヲ補助スル義務アリ

第二百三十七條 登記後ニ爲シタル株式ノ讓渡及ヒ清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分ハ總テ無効タリ

第二百三十八條 取締役カ總會ノ招集又ハ登記ノ届出ヲ爲ササリシトキハ此カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十九條 解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ會社財産中ヨリ最モ先ニ之ヲ支拂フモノトス

第十三款 會社ノ清算

第二百四十條 清算人ノ職分ニ付テハ第三百三十條及ヒ第三百三十一條ヲ適用ス

第二百四十一條 清算人ノ職分ノ踐行ニ付テハ總會ヨリ又ハ株主若クハ債權者ノ申立ニ因リテ裁判所ヨリ清算人ニ訓示ヲ與フルコトヲ得清算人ハ其訓示及ヒ法律ノ規定ヲ遵守スル責任ヲ負フ

第二百四十二條 會社ノ債權者ノ相當ノ理由ヲ以テ爲シタル申立ニ因リ總會又ハ時宜ニ從ヒテ裁判所ハ債權者ノ利益護視ノ爲メ一人又ハ數人ノ代人ヲシテ清算ヲ監督シ又ハ清算人ニ參加セシムルコトヲ得

第二百四十三條 清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日內ニ會社帳簿ニ依リテ其財産ノ現況ヲ取調ヘ少ナクトモ三回ノ公告ヲ以テ債務者ニハ其債務ノ辨濟期限ニ至リタル時直チニ之ヲ辨濟ス可ク又

債權者ニハ或ル期間ニ其債權ヲ申出ツ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ六十日ヲ下ルコトヲ得ス

其公告ニハ債權者期間ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ヲ清算ヨリ除外セララル旨ヲ附記ス然レ

トモ清算人ハ期間ニ申出テサル債務者ト雖モ其知レタル者ヲ清算ヨリ除外スルコトヲ得ス

第二百四十四條 清算人ハ其期間滿了前ニ於テハ債權者ニ支拂ヲ爲シ始ムルコトヲ得ス

第二百四十五條 期間後ニ申出タル債權者ハ會社ノ債務ヲ濟了シタル後未タ株主ニ分配セサル

會社財産ノミニ對シテ其辨償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百四十六條 清算人ハ清算ノ爲メ株主ヲシテ其未タ全額ヲ拂込マサル株券ニ付キ拂込ヲ爲サ

シムル權利アリ

第二百四十七條 清算人ハ必要又ハ有益ト認ムルトキハ何時ニテモ總會ヲ招集スルコトヲ得又清

算人ハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ定メタルトキ又ハ總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ

申立ツルトキハ總會ヲ招集スル義務アリ

第二百四十八條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後總會ニ計算書ヲ差出シテ其認定ヲ求ム

第二百四十九條 清算人ハ前條ニ掲ケタル認定ヲ得タルトキハ會社ノ債務ヲ濟了シタル殘餘ノ財

産ヲ各株主ニ其所有株數ニ應シ金錢ヲ以テ平等ニ分配ス此分配ハ總債權者ニ辨償シタル時ヨリ

三箇月ノ滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

株主ハ總會ニ於テ金錢ニ非サル物ヲ以テ分配ス可キ決議ヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ受取ル義務

ナシ

第二百五十條 清算ノ終リタル後清算人ハ總計算書及ヒ一般ノ事務報告書ヲ總會ニ差出シテ卸

任ヲ求ム若シ總會ニ於テ卸任ヲ許ササルトキハ裁判所ハ清算人ノ申立ニ因リ其命令ヲ以テ之ヲ許スト否トヲ定ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十一條 清算人ハ其行爲ニ付キ總會ノミニ對シテ責任ヲ負フ然レトモ其行爲ニ因リ或ル株主ノ一己ノ權利ヲ害シタルトキハ其株主ハ清算人ニ對シテ其權利ノ承諾及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十二條 清算人ハ卸任ヲ得タル後商業登記簿ニ清算結了ノ登記ヲ受ケ且之ヲ公告ス其公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社ニ對スル請求アレハ之ヲ三箇月ノ期間ニ主張ス可キ旨ノ催告ヲ附ス其請求アリタルトキハ清算人ニ於テ之ヲ辨了ス

第二百五十三條 清算中ニ現在ノ會社財産ヲ以テ會社ノ總債權者ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ破産手續ノ開始ヲ爲シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引先ニ通知ス此場合ニ於テ既ニ債權者又ハ株主ニ支拂ヒタルモノ有ルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得清算人ハ貸方借方ノ此ノ如キ關係ナルコトヲ知リテ爲シタル支拂ニシテ其受取人ヨリ取戻シ得サルモノニ付テハ債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終リタルモノトス

第二百五十四條 總會ノ決議ニ依リテ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラレタル者ノ氏名、住所ハ清算人ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ツ可シ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ責任ヲ負フ

第二百五十五條 清算ノ結果則チ左ノ事項ハ清算人ヨリ裁判所ニ届出テ且之ヲ公告ス可シ

第一 支拂又ハ示談ニ因リテ總債權者ニ辨償ヲ爲シタルコト

第二 會社ノ殘餘財産ヲ株主ニ分配シタルコト及ヒ其分配ノ金額

第三 清算費用ヲ辨済シ及ヒ清算ニ付キ生シタル請求ヲ辨了シタルコト

第四 總會ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ卸任ヲ得タルコト

第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯藏ニ關スル處置ヲ爲シタルコト

第六 會社ノ株券又ハ債券ノ其效力ヲ失ヒタルコト

其清算ノ結果ハ又清算人ヨリ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第二百五十六條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

料ニ處セラル

第一 本章ニ定メタル登記ヲ受ケルコトヲ怠リタルトキ

第二 登記前ニ事業ニ著手シタルトキ

第二百五十七條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 株主名簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第二 會社解散ノ場合ニ於テ總會ノ招集又ハ株主ヘノ通知ヲ怠リタルトキ

第二百五十八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百五十六條ノ規定ニ反シ株金ノ全部又ハ一分ヲ拂戻シタルトキ

第二 第二百十七條ノ規定ニ反シ會社ノ爲メ其株券ヲ取得シ又ハ質ニ取り又ハ公賣セサルトキ

第三 第二百十八條又ハ第二百十九條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ株主ニ拂渡シタルトキ

第四 第二百二十五條ノ場合ニ於テ會社ノ金庫、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ノ検査ヲ

妨ケ又ハ求メラレタル説明ヲ拒ミタルトキ

合資會社ノ業務擔當社員カ第五百十三條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ社員ニ拂渡シタルトキハ亦本條ニ定メタル罰則ヲ之ニ適用ス

第二百五十九條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラレ

第一 第二百四十三條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二 第二百五十三條ノ規定ニ反シ破産手續ノ開始ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百六十條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラレ

第一 第二百四十四條ノ規定ニ反シ債權者ニ支拂ヲ爲シ始メタルトキ

第二 第二百四十九條ノ規定ニ反シ株主ニ分配ヲ爲シタルトキ

第二百六十一條 前數條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員、取締役又ハ清算人連帶シテ其責任ヲ負フ

第二百六十二條 業務擔當ノ任アル社員、取締役、監查役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓

以上五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ情重キトキハ罰金ニ併セ一年以下ノ重禁錮ニ處セラレ

第一 官廳又ハ總會ニ對シ書面若クハ口頭ヲ以テ會社ノ財産ノ現況若クハ業務ノ實況ニ付キ

故意ニ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ不正ノ意ヲ以テ其現況若クハ實況ヲ隱蔽シタルトキ

第二 公告ノ中ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

前ニ掲ケタル者ノ外會社ノ他ノ役員及ヒ使用人カ之ト共ニ犯シタルトキハ亦右ノ罰ニ處セラレ

第二百六十三條 發起人カ株式申込ニ付キ詐僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ

罰金ニ處セラレ

第二百六十四條 前二條ニ掲ケタル罰ニ處スルニハ刑事裁判上ノ手續ヲ以テス

第五節 共算商業組合

第二百六十五條 共算商業組合ノ契約ハ會社ニ關スル本法ノ規定ニ從フコトヲ要セス其契約ニ因

リテ商事會社及ヒ會社財産ハ成立セズ

第二百六十六條 二人以上共通ノ計算ヲ以テ一時ノ商取引又ハ作業ヲ爲スチ當座組合トシテ契約

實行ノ爲メ其一二ノ組合員若クハ總組合員ニ於テ又ハ共同代理人ヲ以テ爲シタル行爲ニ付テハ

第三者ニ對シテ各組合員直接ニ連帶ノ權利義務ヲ有ス

第二百六十七條 二人以上各自別箇ニ一時ノ商取引若クハ商業ヲ爲シ又ハ商業ヲ營ムト雖モ此ニ

因リテ生スル損益ヲ共分スルコトヲ契約シタルモノヲ共分組合トシ各組合員亦前條ニ掲ケタル

ト同シキ連帶ノ權利義務ヲ有ス然レトモ他ノ組合員ノ爲シタル行爲ヨリ生スル請求ニ對シテハ

先訴ノ抗辯ヲ爲ス權利アリ

第二百六十八條 或人カ損益共分ノ契約ヲ以テ他人ノ商取引又ハ商業ニ出資ヲ供シテ之ヲ其者ノ

所有ニ移シ商號ニ自己ヲ表示スル名稱ヲ顯ハサス又業務施行ニ與カラサルモノヲ匿名組合トシ

其營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シ出資未済ノ場合ニ於テ其出資ノ額ニ滿ツルマテテテテテテテテテテ

ヲ負フ代務人又ハ商業使用人ト爲リテ用務ヲ辨スルハ業務施行ニ與カルモノト看做サス

第二百六十九條 匿名組合ノ損益共分ノ割合ハ明約アルニ非サレハ營業資本總額ニ對スル出資額

ノ比例ヲ以テ之ヲ量定ス

第二百七十條 利益ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ填補シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコト

ヲ得ス然レトモ匿名員ハ受取期限ニ至リテ未タ受取サル利益又ハ既ニ受取リタル利益ヲ以テ其後ニ生シタル損失ヲ補充スル義務ナシ

第二百七十一條 匿名組合ノ契約ハ其契約ニ於テ時期ヲ定メサリシトキハ六箇月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得又其契約ハ營業者ノ破産家資分散若クハ死亡又ハ其營業ノ廢止ヲ以テ終ル

第二百七十二條 契約解除ノ場合ニ於テハ匿名員ノ負擔ニ歸ス可キ損失及ヒ債務ヲ引去リタル後其出資額チ之ニ拂戻スコトヲ要ス

第二百七十三條 匿名員ハ契約解除ノ場合及ヒ毎事業年度ノ終ニ於テ計算書ノ差出ヲ求メ及ヒ商業帳簿並ニ書類ヲ展閱調査セント求ムル權利アリ

此規定ハ第二百六十六條及ヒ第二百六十七條ニ掲ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第七章 商事契約

第一節 契約ノ種類

第二百七十四條 商事契約ハ明示又ハ默示ニテ之ヲ取結フコトヲ得

第二百七十五條 商事契約ノ旨趣ハ當事者ノ眞實及ヒ確定ナル共通ノ意思ニ依リテ定マルモノトス其意思ハ商慣習ト商人タル者ノ當然ノ思考トニ從ヒテ解釋ス可シ

第二百七十六條 明示ノ契約ハ書面、口頭又ハ容態ニテ之ヲ取結フコトヲ得

第二百七十七條 主タル目的物力五十圓ノ價額ヲ超ユル契約ハ其履行ヲ即時ニ爲ササルトキハ之ヲ書面ニ作成シテ交付ス可シ

本法中或ル契約ニ關スル規定ハ前項ノ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第二百七十八條 書面作成ノ要件ハ合式ノ契約證書ヲ以テモ義務者又ハ其代人ノ署名若クハ之ニ代ハル可キ氏名アル書簡、電報、勘定書、切符其他ノ各書類ヲ以テモ之ヲ充タスコトヲ得

第二百七十九條 第二百七十七條ニ掲ケタル契約ノ旨趣ニ付テノ證據又ハ反對證據ハ書面ヲ以テスルモノニ限り之ヲ許ス但第二百七十五條ニ從ヒテ爲ス契約條款ノ解釋ニ關スルモノ又ハ錯誤、強暴若クハ詐欺ノ證明ニ關スルモノ又ハ羈束スル意思ナクシテ契約書ニ掲ケタル事實ニ關スルモノハ此限ニ在ラス

第二百八十條 第二百七十七條ニ掲ケタル契約ハ書面ニ作成セスト雖モ後ニ至リ當事者ニ於テ殊ニ雙務契約ノ場合ニ在テハ其雙方ニ於テ實際之ヲ履行シ又ハ書面ヲ以テ之ヲ承認シタルトキハ其效力アリ

第二百八十一條 默示ノ契約ハ契約提供ニ對シテ默示ノ承諾アル場合ニ存シ又事ヲ爲シ又ハ爲ササルニ因リテ法律上若クハ商慣習上義務又ハ請求權ノ生スル總テノ場合ニ存ス

第二百八十二條 契約提供ニ對スル默示ノ承諾ハ一般ニ商慣習若クハ誠實、信用ニ因リ殊ニ被提供者ノ特別ナル業體又ハ雙方間ノ平常ノ取引關係ニ因リテ承諾シタルモノト通例推定ス可キ場合ヲ除ク外ハ決シテ存スルモノト見做スコトヲ得ス

第二百八十三條 雙務ノ契約ニ在テハ相手方ノ履行ニ對スル承諾ハ其承諾シタル一方ニ於テモ履行ス可キ默示ノ約束ヲ爲シタルモノトス

第二百八十四條 契約上ノ義務ハ明示ト默示トヲ問ハス合法ノ原因アルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス

第二百八十五條 契約上ノ義務ヲ將來ノ事件ノ不確定ナル發生又ハ不發生ニ繫ラシムル場合ニ於

テハ契約ハ其事件ノ發生セサルトキ又ハ發生シタルトキハ當然消滅ス

第二百八十六條 契約ニ加ヘタル未必條件又ハ期限ハ此カ爲メ利益ヲ受ク可キ者ノ明示ノ拋棄ニ因ルニ非サレハ無効ト爲スコトヲ得ス

第二百八十七條 商事契約ニ依リ二人以上共同シテ債權ヲ取得シ又ハ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ反對ヲ明示シタルニ非サレハ其債權ハ各債權者ヨリ又其債務ハ各債務者ニ對シテ連帶且無條件ニテ其效用ヲ致サシムルコトヲ得

第二百八十八條 前條ノ規定ハ保證義務ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス殊ニ一人ノ保證人ニ對スル二人以上ノ債權者ニ關シテモ一人ノ債務者ノ爲メニスル二人以上ノ保證人ニ關シテモ二人以上ノ債務者中ノ一人ノ爲メニスル保證人ニ關シテモ適用ス

第二百八十九條 商事ニ於テ他人ニ對シ責ニ任スル注意ハ別段ノ規定又ハ契約アルニ非サレハ辨識アリ且勉勵ナル商人カ履行地ノ慣例ニ從ヒテ爲ス可キ注意ナリトス

第二百九十條 不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ出テタル行爲ニ付テノ責任ハ豫メ契約ヲ以テ之ヲ免カルコトヲ得ス

第二百九十一條 意外ノ事ニ因ル危險及ヒ至重ナル注意ハ本法ニ規定ナキモ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ引受クルコトヲ得

第二節 契約ノ取結

第二百九十二條 契約ハ一方ノ提供ヲ他ノ一方ニ於テ異議ナク承諾シタルトキ直チニ之ヲ取結ヒタルモノトス但默示ノ承諾ノ存セサルトキハ適當ノ方式ヲ以テ提供者ニ承諾ヲ述フルコトヲ要ス

第二百九十三條 契約ノ提供ハ即時ニ又ハ被提供者ニ許與シタル期間ニ承諾ヲ述ヘサルトキハ之ヲ拒絕シタルモノト看做ス

第二百九十四條 提供ノ默示ノ承諾ヲ推定スルコトヲ得ル場合ニ於テハ被提供者カ即時又ハ許與セラレタル期間ニ拒絕ヲ述ヘサルトキハ其提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百九十五條 地ヲ隔テタル者ノ間ニ於テハ提供者ニ對スル承諾ノ陳述ハ遅クモ提供ヲ受取リタル翌日正午マテニ普通ノ送達方法ヲ以テ提供者ニ其陳述ヲ發シタルトキハ即時ニ之ヲ爲シタリト看做ス但其翌日カ一般ノ休日ナルトキハ更ニ其翌日ニ於テスルコトヲ得

第二百九十六條 契約提供ニ對シテ條件ヲ附シ又ハ變更ヲ加ヘテ爲ス承諾ニ在テハ提供者ハ其選擇ヲ以テ之ヲ純粹ノ拒絕ト看做シ又ハ被提供者ヨリ更ニ爲シタル提供ト看做スコトヲ得

第二百九十七條 提供者ハ被提供者カ通常ノ情況ニ於テ即時又ハ期間ニ承諾ヲ述フルコトヲ得ル時ニ至ルマテハ被提供者ニ對シテ其提供ニ羈束セラルルモノトス然レトモ提供ノ被提供者ニ達スル以前又ハ達スルト同時ニ反對ノ通知ヲ以テ其提供ヲ取消スコトヲ得

第二百九十八條 契約提供ノ承諾ヲ述ヘタルトキハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其承諾ヲ取消スコトヲ得然レトモ地ヲ隔テタル者ノ間ニ於テハ取消カ承諾陳述ノ達スル以前又ハ達スルト同時ニ提供者ニ達スルトキハ其取消ヲ有效トス

第二百九十九條 契約取結ニ關スル通信ヲ爲スニ當リ送達人ノ過誤及ヒ遲延ニ付キ送達人ニ其責任ナキトキハ送達ノ爲メ利益ヲ受クル者其責ニ任ス

第三百條 見本、代價附其他契約提供ヲ媒介スル物ニシテ契約提供ト共ニ送付シ若クハ別ニ送付スルモノハ其提供ノ拒絕セララルル場合ト雖モ被提供者ノ方ニ留マルヲ通例トス其他ノ商品ニ

在テハ被提供者ハ提供者カ更ニ處分ヲ爲スニ至ルマテ相當ノ方法ヲ以テ之ヲ貯藏ス可シ然レトモ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒ相當ノ期間ニ其商品ヲ賣却シテ立替金及ヒ口錢ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得

第三百一一條 商事契約ハ強暴、詐欺又ハ錯誤アル場合ニ於テハ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得然レトモ大ナル損失ニ因リ殊ニ代價其他ノ報償ノ不相當ナルニ因リテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三節 契約ノ履行

第三百二條 契約ノ履行ハ一方カ他ノ一方ノ同意ヲ得テ明示又ハ默示ニテ負ヒタル義務ヲ完全ニ辨濟スルニ在リ

第三百三條 債務者ノ義務ノ旨趣及ヒ範圍殊ニ債務ノ目的物ノ性質及ヒ品位ニ付テハ履行地ニ行ハルル定例ニ依リテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四條 十分ナル債務辨濟ヲ適當ノ方法ヲ以テ債權者ニ言込ムモ債權者其承諾ヲ拒絕スルトキハ債務者ハ其辨濟ス可キモノヲ債權者ノ計算及ヒ危險ニ於テ處分スルコトヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ付テノミ債權者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百五條 債權者ハ一分ノ履行又ハ遅延シタル履行ヲ承諾スルコトヲ要セス但割拂ノ契約又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六條 契約ノ履行ハ契約上ノ満期日又ハ其他定マリタル満期日ニ之ヲ爲ササルトキハ遅延シタリトス

第三百七條 満期日ハ日ヲ指シテ之ヲ定メ又ハ期間ヲ設ケテ之ヲ定ムルコトヲ得

第三百八條 期間ヲ定ムルニ日數ヲ以テシタルトキハ其期間ノ末日ヲ満期日ト看做シ週數、月數又ハ年數ヲ以テシタルトキハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ結約ノ日ニ應當スル日ヲ期日ト看做ス

第三百九條 日ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ付テハ結約ノ日ハ之ヲ算入セス

第三百十條 半箇月ハ十五箇日ノ期間ト看做ス

第三百十一條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其翌日ヲ満期日ト看做ス

第三百十二條 特別ノ情況アルトキノ外ハ履行地ニ於ケル慣習上ノ取引時間ヲ以テ履行ニ付テノ一日ノ時間ト看做ス

第三百十三條 或ル期間ノ經過中ニ履行ヲ爲ス契約ナルトキハ其履行ハ期間内何レノ取引日ニテ之ヲ爲シ又ハ之ヲ求ムルコトヲ得

第三百十四條 前條ノ場合ニ於テ疑ハシキトキハ期間ノ定ニ因リテ利益ヲ受ク可キ一方カ履行日ヲ擇ムコトヲ得通例此ノ如キ一方ト看做ス可キ者ハ商品ノ受取人又金錢ニ係ル債權ニ在テハ債務者トス

第三百十五條 期間ヲ延ヘタル場合ニ於テ別ニ定ムル所アルニ非サレハ其新期間ハ舊期間ノ満了ヨリ起算ス

第三百十六條 契約其他ニ履行期日ノ定ナクシテ債務者其履行ヲ相當ノ期間ニ爲ササルトキハ債權者ハ満期日ヲ定ムルコトヲ得

第三百十七條 別段ノ履行地ヲ定メス又ハ取引ノ性質若クハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ推知スルコトヲ得サルトキハ履行ハ債權者若クハ受取ノ權利アル者ノ指定シタル地若シ指定セサルトキ

ハ其住地殊ニ營業場ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第三百十八條 債務者ノ負擔セル送付ノ義務ハ債權者ノ指定シタル運送場若シ指定セサルトキハ適當ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ履行シタルモノトス

第三百十九條 當事者雙方カ同地ニ住スル場合ニ於テ別段ノ契約ナキトキハ債務者カ債務ノ目的物ヲ送付ス可キヤ又ハ債權者カ之ヲ取寄ス可キヤハ其地ノ慣習又ハ取引ノ性質ニ依リテ之ヲ定ム

第三百二十條 別段ノ契約ナキトキハ債務ノ目的物ノ送付ハ債權者ノ危險ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トス但債務者カ自己又ハ其使用人ノ過失ニ付テ責任ハ此カ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第三百二十一條 度量衡、距離、期間、休日、支拂貨幣ノ本位並ニ種類其他履行ノ細目ハ履行地ニ行ハルル定例ニ從ヒテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百二十二條 擇一債務其他目的物ノ特定セサル債務ニ付キ履行ノ目的物ヲ定ムルコトハ其目的物ノ尙ホ存スル場合ニ限り疑ハシキトキハ債務者ノ擇ムニ任ス

第四節 價額賠償、損害賠償及ヒ割引

第三百二十三條 債務者カ其債務ノ履行ヲ正當期日ニ爲ササルトキハ債權者ハ契約ヲ解除シ又ハ價額賠償若クハ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十四條 價額賠償ハ金錢ニ係ル債務ニ付テハ債務額ノ外滿期日ヨリ其債務ヲ辨濟スル日マテノ遲延利息ヲ支拂フニ在リ總テ其他ノ債務ニ付テハ債務ノ目的物カ滿期日ノ後ニ有セシ最高ノ價額ト其價額ヲ定メタル時ヨリ辨濟ノ日マテノ遲延利息ト支拂フニ在リ但債權者ニ於テ債務ノ目的物カ滿期日ニ有セシ價額ト此日ヨリノ遲延利息ノ賠償トヲ得ント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第三百二十五條 債權者ハ債務者ノ過失ヲ證明シ又ハ債務ノ不履行ニ因リ自己ニ加ヘラレタル損害ヲ證明スルコト無クシテ價額賠償ヲ求ムルコトヲ得但義務ノ性質及ヒ範圍ニ因リテ債務者カ不履行ニ付キ責任ヲ負フトキニ限ル

第三百二十六條 第三百二十四條ノ規定ニ從ヒテ査定ス可キ債務ノ目的物ノ價額ハ其普通ノ市場價額又取引所ニ於テ實買スル物ニ在テハ其取引所相場ニ加フルニ遲延ニ因リテ生シタル費用及ヒ立替金ヲ以テシタルモノトス

第三百二十七條 第三百四條ニ掲ケタル承諾ヲ遲延シタル債權者ハ亦遲延ニ因リテ生シタル費用及ヒ立替金ヲ債務者ニ賠償ス可シ

第三百二十八條 故意又ハ怠慢ノ行爲ニ因リテ不適法ニ損害ヲ他人ニ加ヘタル者ハ其損害ニ付キ十分ノ賠償ヲ爲ス義務アリ

第三百二十九條 損害賠償ハ生シタル損失及ヒ失ヒタル利益ノ辨償ヲ包括ス

第三百三十條 利益トハ一方ノ加害ノ行爲ナカリシトキハ他ノ一方カ爲シ得ヘカリシコトヲ證明シ得ヘキ取得ヲ謂フ此取得ハ豫見シ得ヘカリシモノト否ト又ハ通常ナリシモノト否トヲ問フコト無シ

第三百三十一條 損害賠償ヲ査定スルニハ偶然、推測若クハ將來ノ利益若クハ損失又ハ他ノ情況ノ加ハルニ因リテ生スルコト有ル可キ利益若クハ損失ハ之ヲ問フコトヲ得ス

第三百三十二條 契約ヲ以テ豫メ價額賠償又ハ損害賠償ノ額ヲ定メタルトキハ之ニ從フヲ通例トシ實際ノ情況ヲ援用シテ其豫定ノ額ヲ増減セント主張スルコトヲ得ス

第三百三十三條 費用、立替金、前貸金其他此類ノ支出金ノ賠償及ヒ損害ノ賠償ヲ爲ス可キ者ハ

権利者ノ求ニ依リ其各金額ノ割合ニ應シテ辨償ス可キ日ヨリノ利息ヲ支拂フ可シ
第三百三十四條 遅延利息其他ノ利息ニシテ法律又ハ契約ニ於テ歩合ヲ定メサルモノハ年百分ノ七トス

第三百三十五條 金錢ニ係ル債務ヲ満期前ニ支拂フトキハ債務者ハ契約又ハ商慣習アルトキニ限リ其満期前ノ時間ニ應シテ割引ヲ求ムルコトヲ得

第三百三十六條 契約不履行ニ因リテ債權者ヨリ契約ヲ解除スルトキハ債務者ハ既ニ爲シタル一分ノ辨濟ヲ現狀ニテ取戻シ既ニ受取りタル報償ヲ全額又ハ全價額ヲ以テ債務者ニ償還ス可シ

第五節 違約金

第三百三十七條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百三十八條 履行又ハ賠償ヲ求ムル債權者ノ權利ハ違約金ノ爲メニ廢止セラレスト雖モ疑ハシキトキハ違約金ト共ニ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第三百三十九條 過失アル不履行ニ因リテ債權者ニ加ヘタル損害カ違約金ノ額ヲ超ユルトキハ違約金ノ外此超過額ニ付キ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百四十條 違約金ノ契約ニシテ差額取引又ハ不法ナル博奕若クハ賭事ノ取引ヲ隱蔽セントスル目的ヲ以テスルモノハ無効トス

第六節 代理

第三百四十一條 商取引ノ取結ノ爲メニスル委任ハ總テノ場合ニ於テ其取引取結ノ爲メニスル代

理ト看做ス但委任者カ代理人ノ行爲ニ承諾ヲ與フルコトヲ要スル旨ヲ明示シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ハ委任ヲ行フ際至重ノ注意ヲ爲ス義務アリ

第三百四十二條 委任者ノ名ヲ以テシタルト否トヲ問ハス委任者ノ爲メニ代理人ノ取結ヒタル商取引ニ因リ委任者ハ直接ニ第三者ニ對シテ權利ヲ得義務ヲ負フ

第三百四十三條 委任又ハ事後ノ承諾ヲ受クルコト無クシテ第三者ノ爲メニ或人ト取引ヲ取結フ者ハ其人ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十四條 取引取結ノ際其委任ノ權限ヲ踰越スル者ハ第三者カ踰越ヲ知ラス又ハ知ルコト能ハサリシトキハ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十五條 代理人カ他人ノ爲メ商取引ヲ取結ヒタル場合ニ於テ相手方カ自己ノ過失ニ非スシテ代理ナルコトヲ知ラス又ハ委任者ヲ知ラサリシトキハ其相手方ハ委任者ノ不履行ニ因リテ被フリタル損害ニ付キ其代理人ニ對シテ賠償ヲ求ムル權利アリ

第三百四十六條 代理ハ委任者又ハ代理人ノ死亡ニ因リテ解除スルモノニ非ス

第三百四十七條 代理ハ委任者ノ承諾アリ又ハ其承諾ヲ得ヘキモノト推定ス可キ情況アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ轉付スルコトヲ得ス

第三百四十八條 他人ノ爲メニ其委任又ハ事後ノ承諾ヲ受ケテ商取引ヲ取結フ者ハ期約ナキトキト雖モ計算書ヲ示シテ其取引取結ニ付キ正當ニ爲シタル前貸金、立替金並ニ費用ヲ賠償セシメ及ヒ慣習上ノ利息、手数料又ハ口錢ヲ求ムル權利アリ

第七節 時 效

第三百四十九條 商事ニ於ケル債權ハ満期日ヨリ若シ此期日ノ定ナキトキハ其債權ノ生シタル日ヨリ六箇年ノ満了ニ因リテ時効ニ罹ル但法律上此ヨリ短キ時効期間ヲ規定シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百五十條 時効ハ履行ノ爲メ債務者ニ明示シテ爲シタル催告又ハ債權ノ取立若クハ擔保ノ爲メ債務者ニ對シテ爲シタル債權者ノ裁判上若クハ裁判外ノ行爲又ハ書面上ノ支拂約束又ハ主タル物若クハ從タル物ニ關シ債務者ノ爲シタル一分ノ支拂ニ因リテ中斷ス

第三百五十一條 受取證ヲ記シ又ハ記セサル計算書ノ送付ノミニテハ之ヲ催告ト看做スコトヲ得ス

第三百五十二條 満了シタル時効ノ效力ハ主タル物及ヒ從タル物ニ付テノ債權全ク消滅シ債權者ヨリ直接ニモ間接ニモ復タ之ヲ主張スルコトヲ得サルニ在リ

第八節 交互計算

第三百五十三條 相互ノ間ニ絶エス債權及ヒ債務カ生スル所ノ平常ノ取引關係ヲ有スル者ハ期間ヲ定メテ互ニ差引計算ヲ爲シ其債權及ヒ債務ヲ消却スルコトヲ得

第三百五十四條 交互計算ノ關係ハ明示又ハ默示ノ契約ニ因リテ生ス然レトモ長キ期間興信用ヲ繼續シタルモ此カ爲メニ交互計算ノ關係ヲ生スルコト無シ

第三百五十五條 差引計算ノ朝間ハ一箇年トス但契約ヲ以テ此ヨリ短キ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

第三百五十六條 各當事者ハ毎期間ノ終ニ計算ヲ閉鎖シ且約定又ハ相當ノ期間ニ其計算書ヲ承認又ハ異議申述ノ爲メ互ニ送付スル義務アリ

第三百五十七條 異議ヲ起サス又ハ異議ヲ起シタルモ留保ヲ爲サスシテ交互計算ノ關係ヲ繼續スルトキハ計算ヲ默認シタルモノト看做ス

第三百五十八條 交互計算ニ屬スル各債權ハ交互計算ノ關係ヲ解キ又ハ計算ニ對シテ異議ヲ述フルトキニ非サレハ各箇ニ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第三百五十九條 計算カ承認セラレタルトキハ其計算ニ依ルニ非サレハ差引殘額ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百六十條 毎期間ノ終ニ生スル差引殘額ハ之ヲ新ナル債務計目トシテ次ノ計算ニ移スコトヲ得但反對ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 別段ノ契約又ハ慣習アラサルトキハ商事ヨリ生スル相互ノ債權及ヒ債務ハ種類ノ何タルヲ問ハス交互計算ヲ以テ取扱フコトヲ得

第三百六十二條 一方ニ於テノミ債權ヲ生シ他ノ一方ハ其債權ノ計算ノ爲メニ時時支拂ヲ爲シテ絶エス取引スル者ノ間ニ交互計算ノ關係ヲ生スルトキハ其計算ニ屬スル債權ハ期間ニ從ヒ且交互計算ノ全部ニ依ルニ非サレハ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第三百六十三條 交互計算ニ繰込ミタル債權ハ契約上ノ定ナギトキト雖モ其繰込ノ日ヨリ之ニ相當ノ利息ヲ付ス可シ

第三百六十四條 各計算期間ニ生スル差引殘額ニ付テハ期間ノ末日ヲ満期日ト看做ス

第三百六十五條 交互計算ノ關係ハ其計算ニ繰込ミタル債權及ヒ債務ニ付テハ第三者ニ對シテ其效ヲ有セス

第三百六十六條 交互計算ノ關係ハ當事者ノ一方カ何時ニテモ之ヲ辭スル外死亡又ハ破産ニ因リ

テ解除ス

第九節 質 權

第三百六十七條 商取引ヨリ生スル債權ノ擔保ノ爲メニスル動産質權ノ設定ハ總テノ場合ニ於テ書而契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ其契約ハ擔保セラル可キ債權ノ年月日、數量並ニ其合法ノ原因及ヒ質權設定ノ年月日並ニ目的物ヲ逐一記載セサルトキハ無効トス

第三百六十八條 質權設定ニ因リ債權者ハ質物ヲ賣却シテ其債權ノ辨償ニ充ツル權利ヲ取得ス但質物ノ占有カ自己又ハ其代人ニ移リタルトキニ限ル

第三百六十九條 船荷證書、倉荷證書其他裏書ヲ以テ所載商品ノ處分權ヲ移轉スルコトヲ得ル證券ノ裏書讓渡ハ物ノ占有ノ移轉ト同一ナリトス

第三百七十條 指圖證券カ質權設定ノ目的物ナルトキハ其證券ニ質入ノ旨ヲ附記シテ債權者ニ裏書讓渡ス可シ

第三百七十一條 債務者カ其債務ノ辨濟ヲ遲延シタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ訴ヲ起スコト無クシテ質契約書ヲ差出シ裁判所ノ命令ヲ得タル後質物ノ賣却ニ著手スルコトヲ得

此命令ハ債權者ヨリ遲延ナク債務者ニ之ヲ通知ス可シ

第三百七十二條 債務者カ契約書ヲ以テ賣却ノ承諾ヲ明示シタルトキ又ハ指圖證券ヲ質入シタルトキハ債權者ハ裁判所ノ命令ナクシテ賣却ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條 前二條ノ場合ニ於ケル賣却ハ仲立人又ハ競賣人カ競賣ヲ以テ之ヲ爲シ又取引所ニ於テ賣買スル商品ニ在テハ取引所ニ於テ公ノ呼上ヲ以テ之ヲ爲シ且賣却期日ノ少ナクトモ八日前ニ其爲サントスル賣却ヲ債務者ニ通知ス可シ

第三百七十四條 前條ニ掲ケタル期間ノ滿了スルマテハ債務者ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シテ質物ノ還付ヲ求ムル權利アリ

第三百七十五條 債務額ニ利息及ヒ必要ノ費用並ニ立替金ヲ加ヘタル額ヲ超ユル賣却代價ノ過剩ハ賣却ノ諸費用ヲ引去リタル後之ヲ債務者ニ還付ス可シ

第三百七十六條 債務者ハ質權ノ設定ニ因リテ質物ヲ他ニ讓渡ス權利ヲ失フコト無シ然トモ質債務ノ金額ニ滿ツルマテ其代價ヲ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フトキハ二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十七條 買主ニシテ其買入レタル物ニ付キ第三者ニ質權ノ存スルコトヲ知ル者ハ質債務ノ金額ニ滿ツルマテ其代價ヲ直接ニ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フトキハ亦前條ノ刑ニ處ス

第三百七十八條 同一ノ物ニ付キ質權ヲ二人以上ニ設定シタルトキハ其物ノ占有者カ賣却ノ優先權利有ス但強暴若クハ隱密ニテ又ハ隨時返還ノ條件ヲ以テ其占有ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十九條 二人以上ノ質債權者中一人ハ現物ヲ占有シ他ノ者ハ其物ニ付テノ處分證券ヲ占有スルトキハ孰レニテモ其占有ヲ先キニ得タル者賣却ノ優先權利有ス

第三百八十條 動産ニ付テノ有效ナル質權ハ質債權者ノ善意ナルトキニ限り所有者ニ於テ又ハ物ヲ處分スル爲メ所有者ヨリ委託セラレタル代人ニ於テ又ハ正當ナル取得ニ因リ物ノ占有ヲ得タル各人ニ於テ之ヲ設定スルコトヲ得但無記名證券ヲ除ク外其物カ盜品又ハ紛失品ナルトキハ此限ニ在ラス

第三百八十一條 所有者ニ非サル者ノ質入シタル物ハ賣却執行ノ終ニ至ルマテハ所有者ヨリ質債權者ニ十分ナル辨償ヲ爲シテ其取戻ヲ求ムルコトヲ得

第三百八十二條 有效ニ質入シタル物ヲ賣却シ其代價ノ支拂アリタルトキハ從來其物ニ付キ存セ

ル所有權又ハ質權ハ總テ消滅ス

第三百八十三條 質權ハ第三者ニ於テモ債務者ノ爲メ之ヲ設定スルコトヲ得

第三百八十四條 質權ハ將來ノ債權ノ爲メ豫メ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第三百八十五條 質物賣却ノ裁判上ノ停止ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シタリトノ抗辯ヲ以テ之ヲ爲サシムルコトヲ得但其抗辯ヲ直チニ信認セシメ得ルトキニ限ル

第三百八十六條 指圖證券又ハ無記名證券ニ因リテ生シタル債權ヲ質入スルニハ債務者ニ通知ヲ爲スコトヲ要セス

質債權者ハ質ニ取りタル債權ヲ賣却ニ代ヘテ直接ニ取立ツルコトヲ得又金錢ニ係ル債權ニ非サルトキハ目的物ヲ質物トシテ取扱フコトヲ得

第十節 留置權

第三百八十七條 商取引ニ因リテ他人ノ物ヲ占有シ其物ニ付キ勞力、費用、前貸金、立替金、手数料又ハ利息ニ關シテ滿期ト爲リタル債權ヲ有スル者ハ其債權ノ完全ナル辨濟又ハ擔保ヲ得ルマテハ其物又ハ其賣得金ヲ留置スル權利アリ

第三百八十八條 交互計算ヨリ生スル差引殘額ニ付テノ債權ノ爲メ又ハ債務者支拂ヲ停止シタルトキハ未タ滿期ト爲ラサルモ商取引ヨリ生スル總テノ債權ノ爲メ債權者ハ正當ニ占有ヲ得タル債務者ノ總テノ物ニ對シテ留置權ヲ行フコトヲ得

第三百八十九條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但權利者カ自己ノ利益ノ爲メ其物ヲ處分シタルモ其留置權アルコトヲ新所持人ニ告知セシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十條 留置權ハ債權カ時効其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルカ爲メニ消滅スト雖モ物ノ

所有權カ債務者ノ意ヲ以テ又ハ意ナクシテ他人ニ移リタルカ爲メニハ消滅セス

第三百九十一條 留置權ハ債權者ヨリ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三百九十二條 留置權ノ行使ヲ債務者ニ通知シタルモ仍ホ相當ノ期間ニ辨濟又ハ擔保ヲ得サル者ハ留置シタル物ヲ第三百七十一條及ヒ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒテ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得

第三百九十三條 雙務ノ契約ニ依リテ其履行ヲ求ムルコトヲ得ル者ハ他ノ一方カ履行ヲ爲スマテハ自己ノ義務ノ目的物ヲ留置スルコトヲ得但反對ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第十一節 指圖證券及ヒ無記名證券

第三百九十四條 或ル金額又ハ商品ノ引渡ニ係ル書面契約ヨリ生スル債權ハ契約書カ其明文又ハ商慣習ニ從ヒテ指圖式ナルトキハ裏面ヲ以テ之ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得

第三百九十五條 指圖證券ノ發行人又ハ裏書讓渡人ハ其證券ニ指圖式ニ非サル旨ヲ明記シテ裏書讓渡スヲ得サルモノト爲スコトヲ得

第三百九十六條 指圖證券及ヒ其裏書ニハ年月日ヲ記シ發行人又ハ裏書讓渡人之ニ署名捺印ス可シ

第三百九十七條 發行又ハ裏書讓渡ノ緣由タル契約ノ合法ノ原因ハ之ヲ證券ニ掲グルコトヲ要セス但第三百七十條ノ規定ヲ妨ケス

第三百九十八條 指圖證券ノ裏書讓渡ハ白地ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十九條 指圖證券ノ發行人ハ受取證ヲ記シタル指圖證券ノ呈示及ヒ交付ヲ受ケタルトキハ豫メ引受ヲ爲サスト雖トモ其證券ニ記載シタル金額又ハ商品ヲ裏書讓受人ニ引渡ス義務アリ

但第三百八十七條ニ依リテ留置權ノ原因タル反對債權ヲ有スル場合ニ於テハ其辨濟ヲ受ケタルトキニ限ル

第四百條 指圖證券ノ發行人ハ呈示人ノ眞偽ヲ調査スル權利アルモ其義務ナシ然レトモ惡意又ハ甚シキ怠慢ニ付テハ此カ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ對シテ其責ヲ負フ

第四百一條 指圖證券ノ發行人ハ前二條ノ旨趣ニ從ヒ自己ニ屬スル抗辯又ハ證券面ヨリ生スル抗辯ニ依ルニ非サレハ義務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス

第四百二條 裏書讓受人カ裏書讓渡ニ因リテ受取リタル物ニ付キ如何ナル權利ヲ有スルカハ裏書讓受人ト裏書讓渡人トノ間ニ取結ヒタル契約ノ旨趣ニ依リテ之ヲ定ム

第四百三條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル指圖證券ハ裏書讓渡アリタルト否トヲ問ハス民事訴訟法ニ從ヒテ權利者之ヲ無効トスル手續ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 切手、切符其他ノ無記名證券ハ交付ノミチ以テ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得此等ノ證券ニ因リ所持人カ發行人ニ對シテ有スル權利ハ其證券ニ記載シタル旨趣又ハ法律、命令若クハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム

第八章 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人

第一節 總則

第四百五條 代辦人、仲立人、仲買人及ヒ運送取扱人ノ權利義務ハ第七章第六節ニ掲ケタル原則ニ從ヒテ之ヲ定ム但下ノ數條ニ別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二節 代辦人

第四百六條 代辦人ハ商事ニ於テ他人ノ代理ヲ爲スチ營業トスル商人タリ

代辦人ハ或ル營業者ノ代辦店ノ業務ヲ取扱フ爲メニモ之ヲ置クコトヲ得

第四百七條 代辦人ハ自己ノ計算ヲ以テ商業其他ノ職業ヲ行ヒ又數人ノ代理ヲ引受クルコトヲ得然レトモ一箇ノ取引ニ付キ同時ニ雙方ヲ代理スルコトヲ得サルヲ通例トス

第四百八條 代辦ノ契約ハ一箇ノ取引ノ爲メ又ハ一種類若クハ數種類ノ取引ノ爲メ有期ト無期ト又明示ト默示トヲ問ハス之ヲ取結フコトヲ得又其契約ハ何時ニテモ一方ヨリ之ヲ解クコトヲ得然レトモ其契約ヨリ生シタル權利及ヒ過失ニ出ツル解除ニ因リテ被ブラシメタル損害ヲ賠償スル義務ハ契約ヲ解キタルカ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第四百九條 代辦人ハ特ニ委任者ノ求ナキモ其委任セラレタル取引ノ範圍内ニ於テ委任者ノ利益ヲ謀ル義務アリ然レトモ滿期ト爲リタル自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケタル間ハ其任務ヲ履行スルコトヲ要セス

第四百十條 委任者ニ對スル代辦人ノ代理權ノ範圍ハ委任者ヨリ與ヘタル委任又ハ事後ノ承諾ニ依リテ之ヲ定ム常囑ノ代辦人ニ在テハ其事後ノ承諾ヲ以テ引續ノ委任ト看做ス但反對ノ情況又ハ明示アルトキハ此限ニ在ラス

第四百十一條 代辦人ハ明示ノ委任ヲ受クルニ非サレハ契約ノ取結ヲ爲スコトヲ得サルヲ通例トス

第四百十二條 取引ノ取結ヲ爲スノミノ委任ヲ受ケタル代辦人ハ支拂ノ金錢若クハ差戻ノ商品ヲ受取リ又ハ異議ヲ承諾スル權利ナシ

第四百十三條 代辦人ハ別段ノ委任ヲ受クルニ非サレハ和解契約ヲ取結ヒ又ハ訴訟ヲ爲ス權利ナシ

第四百十四條 商品ノ引渡其他契約履行ノ爲メ委任ヲ受ケタル代辦人ハ其代價ノ支拂ヲ受クル權
利アリト看做ス但委任者其反對ヲ明示シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十五條 代辦人ハ其取扱ヒ又ハ取結ヒタル取引ニ關シテハ過失アルトキ又ハ別段ニ義務ヲ
負擔シタルトキニ限り第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ其別段ニ義務ヲ負擔
シタル場合ニ於テハ第二百八十八條ノ規定ヲ適用ス

第四百十六條 常囑ノ代辦人其行爲ニ付キ第三者ノ間ニ對シテ已レニ其權アリト明言シタルトキ
又ハ其行爲カ慣習上委任ノ範圍内ニ在ルトキハ委任者ハ善意ナル第三者ニ對シテ責任ヲ負フ

第四百十七條 代辦人其行爲ニ付キ第三者ヨリ口錢、報酬又ハ償金ヲ受クルトキハ之ヲ委任者ノ
計算ニ歸ス可シ然ラサルトキハ委任者其行爲ニ付キ責任ナシト述フルコトヲ得

第四百十八條 代辦人ハ自己ノ受取ル可キ手数料、前貸金、立替金、費用及ヒ利息ノ爲メ第三百
八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ委任者ニ對シテ留置權ヲ有ス又其現ニ支拂ヒタル立
替金及ヒ費用ニ付テハ商慣習又ハ實際ノ必要ニ依リ又ハ委任者ノ利益ノ爲メ正當ト認ム可キモ
ノニ限り之ヲ委任者ノ負擔ニ歸スルコトヲ得

第三節 仲立人

第四百十九條 仲立人ハ官ノ認可ヲ受ケ他人間ノ商取引ノ媒介ヲ爲スヲ營業トスル商人ニシテ取
引所ナキ地ニ於テハ商品、有價證券、貨幣及ヒ爲替ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニスル專權ヲ有ス其
仲立人ノ行爲ハ總テ公ノ信用アルモノトス

第四百二十條 仲立人ハ或ル部類ノ商取引ノ爲メニ認可セララルコトヲ得
仲立人ハ仲立營業外ノ商業ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ其地ノ情況ニ因リテ二箇以上ノ仲立營業

部類ナ一人ニ兼ネシムルコト及ヒ仲立人ヲシテ取引所ニ於テ其營業ヲ爲サシムルコトヲ官ヨリ
又ハ取引所定款ニ於テ許スコトヲ得

第四百二十一條 何人ニテモ年齢滿二十五歳ニ達シ少ナクトモ五年間其部類ノ商ニ從事シ且聲聞
ニ瑕瑾ナキ者ニ限り仲立人ト爲ルコトヲ得但破産シタル者ハ復權ヲ得タル後ニ非サレハ仲立人
ト爲ルコトヲ得ス

第四百二十二條 仲立人ハ其業務ヲ始ムル以前ニ保證金ヲ差出ス可キモノトス其額ハ各地及ヒ各
商部類竝ニ二箇以上ノ仲立營業部類ヲ兼テシムル場合ノ爲メ省令ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ二萬
圓ヲ超ユルコトヲ許サス

第四百二十三條 仲立人ノ員數ハ各地ノ爲メ及ヒ其地ノ各商部類ノ爲メ其需用ニ應ジテ之ヲ定ム
ルコトヲ得

第四百二十四條 仲立人ハ其資格アル者ニ其營業ヲ讓渡シ又ハ相續セシムルコトヲ得ルト雖モ其
承繼人ハ官ノ認可ヲ受ケ及ヒ保證金ヲ差出シタル後ニ非レハ其營業ヲ行フコトヲ得ス

第四百二十五條 一地ノ仲立人又ハ一地ニ於ケル或ル商部類ノ仲立人十人以上アルトキハ其仲立
人ハ官ノ認可ヲ受ケタル後組合ヲ成スコトヲ得此場合ニ於テハ其組合中ヨリ一箇年ノ任期ニテ
少ナクトモ三人ノ取締役ヲ選舉ス可シ總テ其地ノ仲立人ハ此組合ニ加入スル權利及ヒ義務アリ

第四百二十六條 仲立人及ヒ仲立人組合ハ共通計算ヲ以テ仲立營業ヲ爲スコトヲ許サス之ニ背ク
トキハ仲立人ニ在テハ其營業ヲ禁止シ組合ニ在テハ其組合ヲ解散シ尙ホ其組合員ノ營業ヲ禁止
ス然レトモ仲立人組合ハ其組定款ニ從ヒテ各組合員ノ爲メニ共同保證ヲ引受クルコトヲ得

第四百二十七條 仲立人組合ハ多數決ヲ以テ其營業ヲ行フ爲メノ定款ヲ設ク可シ此定款ハ商業會

議所及ヒ取引所又ハ其一ノ存スル地ニ在テハ其承諾ヲ經且官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス各組合員ハ其定款ヲ遵守スル義務アリ

前項ノ規定ハ定款變更ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス

定款ハ法律、命令、商慣習及ヒ其他ノ取引所定款ニ背戾スルコトヲ得ス

第四百四十八條ノ規定ハ取締役ノ決議ニ付テモ之ヲ適用ス

第四百二十八條 取締役ハ左ニ掲クル權利及ヒ義務アリ

第一 仲立人カ其職務範圍内ニ屬スル取引ニ於テ法律、命令及ヒ仲立人組合定款ヲ遵守スルヤ否ヤヲ監視スルコト

第二 組合員中ニ違犯者アルトキハ之ヲ懲責シ且必要ノ場合ニ於テハ其處罰及ヒ除名ヲ申立ツルコト

第三 取引所ナキ地ニ於テハ各組合員ヨリ提出スル覺書ニ基キ少ナクトモ一週日毎ニ爲替相場及ヒ貨幣商品並ニ有價證券ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニスルコト

第四 其定メタル相場ヲ絶エス記入スル爲メ帳簿ヲ備ヘ且求ニ應シテ公定ノ相場書ヲ交付スルコト

第五 裁判所又ハ官廳ノ求ニ應シテ商ノ情況ヲ開陳シ又慣習ニ付キ意見ヲ陳述スルコト

第六 仲立人ノ認可及ヒ員數ノ増減ニ付キ意見ヲ陳述スルコト

第七 總テ組合内部ノ事務ヲ管理スルコト

第四百二十九條 仲立人ハ其媒介スル取引ニ於テ雙方ヲ代理スル權利アリ

仲立人ハ正當ノ理由アルニ非サレハ何人ノ委任タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四百三十條 仲立人ハ自己又ハ他人ノ計算ノ爲メニスルモ自己又ハ他人ノ名義ヲ以テスルモ自己ニ直接又ハ間接ノ利害アル取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲立人ハ他人ノ爲メニ支拂若クハ保證其他ノ擔保ヲ受ケ又ハ爲シ又ハ他人ノ爲メニ商品ニ對シテ前貸ヲ爲スコトヲ得ス

仲立人ハ代務人又ハ商業使用人タル資格ヲ以テ他人ノ用ヲ辨スルコトヲ得ス

前三項ノ規定ヲ犯シテ仲立人ノ爲シタル取引ハ總テ無効トス

第四百三十一條 仲立人ハ委任者ニ對シテ詳悉、完全及ヒ正實ニ必要ノ申告ヲ爲ス可シ其申告ニ付キ殊ニ其媒介シタル取引ニ關シテハ委任者ノ人違ニ非サルコト無能力者ニ非サルコト及ヒ署名捺印ノ眞正ナルコトニ付キ責任アルモノトス又其地ノ顯著ナル商人ニ於テ人違ニ非サルコトヲ擔保スルニ非サレハ面識ナキ人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ取引ヲ媒介スルコトヲ得ス

第四百三十二條 仲立人ハ委任者ノ求ニ應シテ事ヲ秘スル義務アリ

第四百三十三條 仲立人ハ其媒介シタル取引ニ付キ自ラ其商品ノ存在、品位及ヒ買主ノ支拂資力ヲ確認シ且其受取リタル雛形及ヒ見本ニ相當ノ記號ヲ附シ其取引ノ結了スルマテ之ヲ貯藏ス可シ

第四百三十四條 仲立人ハ手形其他ノ有價證券ノ取引ニ付キ委任ヲ受クルトキハ賣主ニ對シテハ證券ノ交付ヲ求メ買主ニ對シテハ價額ノ少ナクトモ百分ノ二十ノ前拂ヲ求ム可キモノトス

第四百三十五條 仲立人ハ當事者ノ明言アルトキニ限り取引ヲ取結フ權アリ匿名委任者ノ場合ニ於テハ取引取結ノ權限ニハ辨濟又ハ報償ヲ受クル權ヲ併セテ與ヘタルモノト看做ス

第四百三十六條 仲立人ハ違法若クハ制禁ノ取引又ハ空取引ヲ媒介スルコトヲ得ス

第四百三十七條 仲立人ハ自ら業務ヲ營ム可キモノニシテ殊ニ取引取結ニ付テハ使用人又ハ代理人ヲ用ユルコトヲ得ス

第四百三十八條 仲立人ハ其擔任義務ノ違背其他ノ過失ニ付キ委任者ニ對シテ損害賠償ヲ爲ス責ニ任ス

第四百三十九條 匿名委任者ノ爲メ取結ヒタル取引ニ付テハ仲立人獨リ直接ニ請求ヲ受ク

第四百四十條 仲立人ハ其取結ヒタル取引ノ要旨ヲ特設ノ日記帳ニ日日記入シ自ら其記入ヲ日
日閉鎖シテ之ニ署名捺印シ且遅クトモ翌日中ニ關係アル部分ノ謄本ニ署名捺印シテ之ヲ委任者
雙方ニ交付ス可シ但其謄本ハ指圖式ト爲スコトヲ得

其一方ニ於テ右謄本ノ旨趣ニ對シテ異議ヲ唱ヘ又ハ承諾スルコトヲ肯セサルトキハ仲立人直チ
ニ之ヲ他ノ一方ニ通知ス可シ但他ノ一方カ匿名委任者ニ非サルトキニ限ル

第四百四十一條 死亡シ又ハ退職シタル仲立人ノ日記帳ハ仲立人組合ノ取締役ニ於テ其組合ナキ
地ニ在テハ裁判所ニ於テ之ヲ預リ置ク可シ

第四百四十二條 仲立人ノ手数料ハ別段ノ定例又ハ慣習ノ存スル場合ヲ除ク外其取引結了ノ後ニ
非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

手数料ノ額ハ仲立人組合定款又ハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム

手数料ハ別段ノ契約又ハ慣習ナキトキニ限リ委任者雙方ヨリ各其半額ヲ拂フヲ通例トス

手数料ハ仲立人ノ過失ニ因リテ其契約ヲ相當ニ履行セサルトキハ之ヲ拂フコトヲ要セス

第四百四十三條 仲立人カ適法ノ手数料ヲ超過シタル報酬又ハ惠與ヲ委任者ノ一方ヨリ受タタル
トキハ他ノ一方ニ於テ其取引ヲ無効ナリト陳述スルコトヲ得

第四節 取引所仲立人

第四百四十四條 取引所ハ取引所定款ノ規定ニ從ヒテ商取引ヲ爲ス所ノ公設場トス

第四百四十五條 相應ノ商アル地ニ於テハ其地又ハ其一區域内ノ商人ニ於テ一般又ハ或ル部類ノ
商取引ノ爲メ官ノ認可ヲ得テ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第四百四十六條 取引所ハ取引場ヲ定メ定款ヲ設ケ及ヒ取締役ヲ置ク可シ此諸件及ヒ其變更ニ付
テハ官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四百四十七條 取引所ノ事務及ヒ章程ハ特別ノ法律、命令アルニ非サレハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
若シ其定ナキトキハ取締役其定款ニ準據シテ之ヲ定ム

第四百四十八條 取締役ノ決議ヲ不當又ハ有害ナリトシテ異議ヲ述フル者アルトキハ農商務省ニ
於テ雙方ヲ審訊シタル後其理由ヲ示シテ之ヲ裁決ス

第四百四十九條 或ル商品ヲ小賣ノ外ハ取引所ニ非サレハ商ヲ得サルコトヲ官ヨリ規定スルコ
トヲ得

此規定ニ違フ者ハ二圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第四百五十條 取引所ニ於テハ其賣買ヲ許サレタル商品ノ倉庫ヲ設置シ及ヒ指圖式ノ倉荷證書
ヲ發行スルコトヲ得取締役又ハ取引所仲立人ハ其倉荷證書ニ對シテ前貸ヲ爲シ又ハ之ヲ買受ク
ルコトヲ得ス

第四百五十一條 取引所仲立人ハ特ニ取引所仲立人トシテ官ノ認可ヲ受ケ且保證金ヲ差出シタル
後取締役ヨリ其職ニ充テラルルモノトス其仲立人ハ取引所ノ定款其他ノ章程ヲ遵守スルコトヲ

誓ヲ可シ

第四百五十二條 仲立人組合ノ存在スル地ニ在テハ其組合取締役ノ中少ナクトモ一人ヲ取引所取
締役ニ選ム可シ

第四百五十三條 取引所ハ其取引ノ範圍ニ應スル員數ノ仲立人ヲ置ク可シ

第四百五十四條 本法中仲立人ニ係ル規定ハ取引所仲立人モ之ヲ遵守ス可シ

第四百五十五條 仲立人取引所仲立人及ヒ取引所ハ大藏省及ヒ農商務ノ監督ヲ受ク

第五節 仲買人

第四百五十六條 仲買人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム商人タリ

第四百五十七條 仲買人ノ第三者ト取結ヒタル取引ノ效力ハ第三者ニ對シテハ委任者ノ委任又ハ
承諾ニ關係セス

第四百五十八條 仲買人ハ委任者ノ與ヘタル委任ヲ遵守スル義務アリ其委任ノ踰越其他ノ過失ニ
因リテ加ヘタル損害ニ付テハ委任者ニ對シテ其實ニ任ス

第四百五十九條 仲買人事情避ク可カラサリシコトト委任者ノ爲メ更ニ大ナル損害ヲ防止シタル
コトトヲ證明スルトキハ委任踰越ノ責ヲ免カル但委任者カ明示又ハ默示ニテ其委任ヲ必行ス可
キコトヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十條 仲買人ハ委任踰越ニ因リテ委任者ノ損失ト爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ差
額ヲ自己ニ負擔スルヲ以テ委任踰越ノ責ヲ免カルコトヲ得ス

第四百六十一條 仲買人ハ委任ニ背クニ因リテ委任者ノ利益ト爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ
差額ヲ自己ノ有ニ歸スルコトヲ得ス

第四百六十二條 第四百九條ノ規定ハ仲買人ニモ之ヲ適用ス殊ニ仲買人ハ取引施行ノ前後ヲ問ハ
ス常ニ遲延ナク委任者ニ必要ノ報知ヲ爲シ且運送、貯藏、保險、賣買其他總テ商業上ノ作用ニ付
キ十分ニ所有者ノ利益ヲ謀ル可シ

第四百六十三條 仲買人ハ必要ノ前貸金ヲ遲滞ナク交付セラレ又ハ取引ヨリ生ス可キ自己ノ請求
ニ對スル引當ヲ有シ若クハ擔保ヲ得タルトキハ總テ其營業ニ關スル委任ヲ引受クル義務アリ

第四百六十四條 仲買人委任ノ引受ヲ肯セサルトキハ直チニ之ヲ委任者ニ通知シ且寄託ノ貨物ヲ
適當ニ保存スル義務アリ若シ其通知ヲ爲ササルトキハ委任施行ノ責ニ任ス

第四百六十五條 仲買人ハ別段ノ契約ナキトキハ委任者ニ又ハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸
ヲ爲ス義務ナシ然レトモ委任者ノ承諾ヲ得タルトキハ又ハ其承諾ナキモ商慣習アルトキハ委任
者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸ヲ爲シ又ハ信用ヲ與フル權利アリ

第四百六十六條 仲買人ハ第四百十五條ノ規定ニ從ヒ第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ責
ニ任ス然レトモ其責任ハ第三者カ責ニ任ス可キマテヲ以テ限トス

第四百六十七條 委任者ハ仲買人ニ與ヘタル委任ノ未タ施行セサルモノニ限り何時ニテモ之ヲ廢
止シ又ハ變更スルコトヲ得

仲買人ハ第四百六十三條ノ規定ニ依リテ委任ノ引受ヲ拒ミ得ルトキニ限り解約ヲ申込ム權利ア
リ但正當ニ其申込ヲ爲シタル後ト雖モ惡意又ニ怠慢ニ付テハ委任者ニ對シテ仍ホ責ニ任ス

第四百六十八條 仲買人委任ノ關係ハ一方ノ破産ニ因リテ終ル又死亡其他委任ヲ施行スルコト能
ハサル事由ニ因リテハ此事由ニ基キテ其關係ヲ解クコトヲ一方ヨリ明言シタルトキニ限り終ル
モノトス

第四百六十九條 仲買人ハ仲買取引ノ外自己ノ計算ヲ以テ同種類又ハ他種類ノ取引ヲモ爲ス權利アリ

前項ノ商人ニシテ仲買取引ヲ常業ト爲ササル者ニハ第四百六十三條ノ規定ヲ適用セス

第四百七十條 仲買人ハ委任者ニ於テ反對ノ明言ヲ爲ササルトキハ其受ケタル委任ヲ買主、賣主又ハ其他ノ者トシテ自己ノ計算ヲ以テ施行スルコトヲ得然レトモ委任者ニ對スル自己ノ權利及ヒ義務ハ變更スルコト無シ

第四百七十一條 前條ノ場合ニ於テハ仲買人ヨリ自己ノ計算ヲ以テ引受ケタル旨ノ通知ヲ委任者ニ發送シタル時直チニ其委任ヲ施行シタルモノト看做ス

第四百七十二條 仲買人ハ委任施行ノ後之ヲ委任者ニ通知シ其取引ノ實得金ヨリ自己ノ取分ヲ引去リテ之ヲ委任者ニ支拂ヒ又ハ計算ニ立ツ可シ

第四百七十三條 委任者ノ計算ヲ以テ買入レ又ハ引受ケタル商品ハ委任ニ他ノ定ナキトキハ仲買人之ヲ委任者ノ處分ニ付シ其處分アルマテ適當ニ貯藏ス可シ其商品ノ運送ヲ周旋スル義務アルハ明示ノ委任アルトキニ限ル但自己ノ留置權ハ此力爲メニ妨ケラレルコト無シ

第四百七十四條 仲買人ノ取引ニシテ委任者ノ承認スル義務ナキモノハ其承認ナキニ拘ハラズ仲買人ノ計算ニ於テハ有效トス然レトモ第三百八十一條ノ規定ハ此力爲メニ妨ケラレルコト無シ又仲買人ハ委任者ニ總テノ損害ヲ賠償ス可シ

第四百七十五條 仲買取引ヨリ生シタル債權及ヒ債務ハ仲買人ノ直接ノ債權及ヒ債務タルヲ通例トス然レトモ仲買人其債權ヲ委任者ニ讓渡シ又ハ支拂資力ヲ失ヒタルトキハ委任者直チニ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得

第四百七十六條 仲買人ハ委任者ニ爲シタル前貸ノ償還ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ求ムル權利アリ

第一 必要又ハ有益ニシテ商慣習ニ適スルモノニ限り現ニ支拂ヒタル費用及ヒ立替金ノ辨償

第二 各地慣習又ハ契約上ノ仲買手数料

第三 仲買人ニ於テ資力保證ヲ負擔シタルトキハ其保證料

仲買人ハ右ノ債權ニ付キ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒテ留置權ヲ有ス

第四百七十七條 仲買人ノ過失ニ非スシテ委任ヲ施行セザリシトキト雖モ仲買人ハ慣習アル地ニ限り仲買手数料ヲ求ムルコトヲ得但其額ハ通常手数料ノ半額ヲ超ユルコトヲ得ス

第四百七十八條 仲買人ハ仲買ノ爲メ取扱フ商品ニ自己ノ商標又ハ商號ヲ附スルコトヲ得然レトモ其商品ニ附シタル他ノ商人又ハ製造人ノ商標又ハ製造標ヲ其承諾ヲ得スシテ變更シ又ハ除去スルコトヲ得又他ノ商人又ハ製造人ヨリ出テタル仲買商品ニ出所ノ區別ヲ表セスシテ自己ノ商標又ハ商號ヲ附スルコトヲ得ス

第四百七十九條 仲買人或ル見本又ハ雛形ニ從ヒテ委任ヲ施行ス可キトキハ反對ノ明約ナキトキニ限り正當ノ所有者又ハ製出者ニ依ルニ非サレハ其委任ヲ施行スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ委任者ハ其商品カ見本又ハ雛形ニ適スルト否トヲ問ハス其契約ヲ解クコトヲ得

第四百八十條 書籍其他器械ヲ以テ複製スル學藝、技術上ノ製出物ノ發行引受ハ仲買營業ノ原則ニ依ル可シ

第六節 運送取扱人

第四百八十一條 運送取扱人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用非他人ノ計算ヲ以テ商品其他ノ物ノ運送取扱ヲ營業トスル商人タリ

運送取扱人ハ其營業ノ外亦自己ノ計算又ハ他人ノ計算ヲ以テ他ノ商取引ヲ爲スコトヲ得

第四百八十三條 運送取扱人ハ運送貨ヲ約定シタルト否トチ問ハス又其引受ケタル運送ヲ自己ノ運送具、賃借ノ運送具又ハ他人ノ運送具ヲ以テ施行スルト施行セシムルトチ問ハス仲買人及ヒ

運送營業人ト同一ノ責ニ任ス

第四百八十三條 運送取扱人ハ別段ノ契約ヲ爲ササルトキ又ハ直接ニ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ其運送ヲ遞次施行スル總テノ中間運送取扱人、代辦人、運送營業人其他ノ人ノ爲メ運送營業人タル

責ニ任ス

第四百八十四條 運送取扱人ハ運送狀ヲ發行ス可シ其運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲グルコトヲ要ス

第一 年月日、運送取扱人ノ氏名及ヒ住所

第二 運送營業人ノ氏名及ヒ住所

第三 運送品ノ種類及ヒ重量

第四 行李アルトキハ其箇數、性質及ヒ記號

第五 約定シタル引渡ノ地及ヒ時

第六 運送賃

其他運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲グルコトヲ得

第一 運送品ノ價額

第二 名宛人ノ氏名

第三 引渡ヲ遅延シタル場合ニ於テ支拂フ可キ損害賠償ノ額

第四百八十五條 運送狀ハ反對ヲ明記セサルトキハ指圖式トス又無記名式ニテ之ヲ發行スルコト

ヲ得

第四百八十六條 運送品ノ差出人ハ運送狀一通又ハ數通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第四百八十七條 運送取扱人ハ其取結ヒタル總テノ運送取扱契約ヲ特設ノ帳簿ニ日記入シ且其帳簿ヲ日日閉鎖シテ之ニ署名捺印ス可シ各運送狀ハ其帳簿ノ記入ト同文ナルコトヲ要ス

第四百八十八條 運送狀ノ記入ニシテ運送取扱契約又ハ法律、命令ニ背戾スルモノハ無効トス

第四百八十九條 運送取扱人ハ左ニ掲グルモノヲ求ムルコトヲ得

第一 運送取扱人ヨリ運送品ニ對シテ爲シタル前貸及ヒ其立替ヘタル運送賃ノ償還

第二 運送取扱人ヨリ運送品ノ爲メニ支拂ヒタル必要又ハ有益ノ費用及ヒ立替金ノ辨償

第三 各地慣習又ハ契約上ノ運送取扱手数料但運送賃額ヲ定メタル場合ニ於テハ其手数料ヲ

明約シタルトキニ限ル

運送取扱人ハ右ノ債權ニ付テハ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ運送品ニ對シテ留置權ヲ有ス

第四百九十條 運送取扱人ノ債權ハ特約アルニ非サレハ到達地ニ於テ運送品ヲ引渡ス際運送取扱人、其受次人又ハ約定シタル運送ノ全部若クハ一分ヲ施行シタル者ヨリ始メテ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百九十一條 運送取扱人ノ責任ニ因リテ生スル請求又ハ抗辯ニ對シテハ運送取扱人及ヒ前條ニ掲ケタル各人ハ連帶且無條件ニテ其責ニ任ス

第四百九十二條 本節ノ規定ハ旅客ノ運送、新聞紙、電報、印刷物其他ノ物ノ送達並ニ廣告ノ取次其他ノ送達事業ヲ營業トスル人ニモ之ヲ適用ス然レトモ運送仲立人、代辦人、商事問合場及ヒ此

類ノモノニハ之ヲ適用セス

第七節 運送人

第四百九十三條 運送人ハ陸上又ハ國內水上ニ於テ商品其他ノ物ノ運送ヲ營業トスル商人タリ
運送人ハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ其運送品ノ喪失、毀損及ヒ引渡ノ遅延ニ付キ責ニ任ス但此
事實カ差出人ノ過失、運送品ノ性質又ハ不可抗力ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十四條 運送品ノ引渡ハ約定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ又期間ノ約定ナキ場合ニ於テハ
運送ヲ施行スル爲メ通例必要ナル期間ニ之ヲ爲ササルトキハ遅延シタルモノトス右ノ期間ハ孰
レノ場合ニ於テモ運送狀ノ日附ヨリ若シ其日附ナキトキハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ之ヲ起算
ス

第四百九十五條 運送品ノ引渡ヲ遅延シタルニ付テノ賠償額ハ運送貨ノ三分ノ一トス但此額カ損
害ノ割合ニ應セサルトキ又ハ別段ノ額ヲ約定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十六條 運送品カ遅延又ハ一分ノ喪失若クハ毀損ニ因リテ其儘賣却シ若クハ使用シ得ヘ
カラサルニ至リタルトキ又ハ少ナクトモ其價額ノ四分ノ三ヲ失ヒタルトキハ其運送品ヲ運送人
ニ委付シテ全價額ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四百九十七條 運送品ノ各部又ハ各箇ノ喪失若クハ毀損ノ場合ニ於テ毀損セサル各部又ハ各箇
ヲ其儘使用シ若クハ賣却シ得ヘカラサルトキハ其喪失若クハ毀損ニ因リテ運送品全部ニ付キ減
シタル價額ヲ賠償ス可シ然レトモ其毀損セサル各部又ハ各箇ノ價額カ運送品全部ノ價額ノ四分
一二超エサルトキハ前條ノ規定ヲ適用ス

第四百九十八條 賠償額ハ商品ニ在テハ引渡地ノ商價額ニ從ヒ其他ノ運送品ニ在テハ引渡地ノ普

通價額ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價額ヲ掲ケ
サルモノニ限ル

第四百九十九條 價額ニ付キ又ハ損傷ノ範圍ニ付キ當事者間ニ争ノ生スルトキハ鑑定人ノ鑑定ニ
因リ之ヲ定ム其鑑定人ハ當事者之ヲ任シ若シ當事者同意スルコトヲ得サルトキハ其中立ニ因リ
テ裁判所之ヲ任ス

第五百條 金銀貨幣、貴金屬、寶石、金銀物、有價證券、證書類其他ノ高價物ニ在テハ其賠償ハ運
送委託ノ際其物ノ性質及ヒ價額ヲ明告シ且適當ニ廣告シタル特別運送賃表ニ依リテ高額ノ運送
賃ヲ承諾シタルトキニ限り其實價ニ從ヒテ之ヲ求ムルコトヲ得

第五百一條 前條ニ掲ケサル運送品ニ在テハ運送人ハ豫メ適當ニ廣告シタル運送賃表ヲ以テ各行
李又ハ重量ニ付キ或ル金額マテニ限り第四百九十八條ノ價額賠償ヲ辨済ス可キ旨ヲ約定スルコ
トヲ得

第五百二條 前數條ニ掲ケタル賠償額ハ至當ノ理由ニ基キタル明示ノ契約ニ依ルニ非サレハ之ヲ
増減スルコトヲ得ス

第五百三條 運送人ハ甚シキ怠慢又ハ惡意ニ因リ總テノ場合ニ於テ第三百二十八條及ヒ第三百二
十九條ノ規定ニ從ヒテ十分ナル損害賠償ノ義務ヲ負フ

第五百四條 運送人ハ使用人其他自己ノ引受ケタル運送ヲ爲スニ當リ使用スル者ノ爲メ責ニ任ス
第五百五條 或ル運送人ニ於テ受引ケタル運送ヲ之ニ次ク他ノ運送人ノ爲ストキハ其各運送人ハ
連帶シテ責任ノ全部ヲ負擔ス

第五百六條 運送人ハ運送ノ爲メ委託セラレタル貨物ニ付テハ差出人又ハ受取人ノ代辦人ト看做

サレ差出人又ハ受取人ニ對シテ其貨物ノ保存及ヒ適當ナル運送ノ爲メニ必要ナル注意ヲ爲ス責ニ任ス

第四百七條 第四百八十三條乃至第四百九十一條ノ規定ハ運送人ニモ之ヲ準用ス

第四百八條 差出人又ハ受取人ハ運送前ハ勿論運送中ト雖モ其約定シタル運送ノ施行ヲ止メ又ハ

變スル權利アリ然レトモ運送人ニ屬スル求償權ハ此カ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第四百九條 不可抗力其他ノ意外ノ事ニ因リテ約束シタル運送ノ著手又ハ續行ヲ妨ケラレ又ハ之

ヲ爲スコトヲ得ス若クハ其危險ナルニ至リタルトキハ雙方ニ於テ前條ト同一ノ權利ヲ有ス然レ

トモ此場合ニ於テ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送賃ノ支拂及ヒ費用又ハ立替金

ノ辨償ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第五百十條 約定ノ運送ヲ爲サス又ハ中止シタルコトカ運送人ノ過失又ハ行爲ニ出テタル場合ニ

於テ其運送人カ他ノ適當ナル運送人ヲ任セサルトキハ差出人又ハ受取人ハ契約ヲ解除シ又ハ賠

償ヲ求ムルコトヲ得

第五百十一條 運送人カ運送品又ハ運送狀ヲ最初ニ定メタル受取人ニ交付セサル間ハ差出人ハ運

送前ト運送中トヲ問ハス其運送品ニ付キ運送狀ニ掲ケタルモノニ異ナレル處分ヲ爲スコトヲ得

第五百十二條 運送人ハ其求メラレタル運送カ特別ナル危險ヲ免カルコトヲ得サルトキ又ハ其

平常爲ス運送營業ニ屬セサルトキノ外ハ適法ノ理由アルニ非サレハ其運送委託ノ引受ヲ拒ミ又

ハ其引受ヲ困難ナル條件ニ繋ラシムルコトヲ得ス殊ニ非常ノ情況アルトキノ外ハ運送具又ハ運

送設備ノ不完全ナルヲ以テ口實ト爲スコトヲ得ス

第五百十三條 運送狀又ハ其他ニ指名シタル受取人ハ自己ノ名ヲ以テスルト他人ノ名ヲ以テスル

トヲ問ハス到達地ニ於テ運送狀ニ從ヒ運送人ニ對シテ運送契約ヨリ生スル債權ヲ主張スルコトヲ得

第五百十四條 運送狀又ハ其他ニ指名シタル受取人カ運送品ノ引受若クハ差出人ノ附シタル條件

ノ履行ヲ拒ムトキ又ハ運送賃其他運送人ノ正當ナル債權ノ支拂ヲ爲ササルトキ又ハ其受取人ヲ

搜出スルヲ得サルトキハ運送人ハ運送品ヲ公ノ倉庫ニ寄託シ又ハ裁判所ノ命令ニ依リテ他人ニ

寄託シ及ヒ第三百九十二條ノ規定ニ從ヒ其總債權ノ額ニ滿ツルマテ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百十五條 受取人留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取り及ヒ運送人ニ支拂ヲ爲シタルトキハ運送

人ニ對スル總テノ請求權ハ消滅ス

第五百十六條 喪失、毀損又ハ遅延ノ爲メ運送人ニ對スル總テノ訴及ヒ抗辯ノ權ハ運送品ノ引渡

ヲ爲シタル日又全部喪失ノ場合ニ於テハ其引渡ヲ爲ス可カリシ日ヨリ一箇年ヲ以テ時效ニ罹ル

第八節 旅客運送

第五百十七條 陸上又ハ國內水上ニ於テ通例運送賃ヲ受ケテ旅客ヲ運送スル者ハ其運送ヲ爲スニ

當リ旅客ノ爲メ至重ノ注意ヲ爲ササルニ因リテ之ニ加ヘタル身體上ノ傷害ニ付キ賠償ヲ爲ス義

務アリ但爭アル場合ニ於テハ自己ノ過失ニ非サルヲ證明スルコトヲ要ス

第五百十八條 損害賠償ハ傷害ヲ被フリタル者ニ生セシメタル治療費及ヒ特別ノ給養費ノ賠償ト

慰籍金トヲ包括ス其慰籍金ハ災害ノ結果ノ輕重、長短及ヒ罹災者ノ所得ノ關係ヲ斟酌シテ之ヲ

定ム

第五百十九條 災害ノ爲メ死亡シ又ハ永久ノ癱疾、不具若クハ所得無能力ト爲リタルトキハ慰籍

金ノ額ハ尙ホ罹災者ノ家族ノ生計ノ需用ヲモ斟酌シテ之ヲ定ム

第五百二十條 旅用行李ニ付テハ旅客カ携帶スルト否ト又別段ノ報酬ヲ支拂フト否トナ問ハス之ヲ旅客運送人ニ交付シ且必要ノ場合ニ於テ其性質及ヒ價額ヲ明告シタルトキハ旅客運送人ハ運送人ト同一ノ責ニ任ス

第五百二十一條 手荷物ニ付テハ旅客運送人ハ過失ノ責ノ自己ニ歸スル場合ニシテ其手荷物カ現實且相當ノ旅行需用ヲ充タスニ必要ナルモノニ限り賠償ノ責ニ任ス

第五百二十二條 旅用行李ハ別段ノ委託ナキトキハ旅行ノ終ニ於テ之ヲ旅客ニ交付シ若シ交付スルコトヲ得サルトキハ三日間保藏ス可シ此期間ノ滿了後ハ旅客運送人ノ責任ハ第三百四條ノ規定ニ從フ

第五百二十三條 前諸條ノ外ハ旅客及ヒ行李ノ運送ニ付キ前節ノ規定ヲ適用ス其旅客ノ衣服又ハ裝具ニ對シテハ留置權ヲ行フコトヲ得ス

第五百二十四條 旅客及ヒ行李ニ付テノ責任ハ運送費ヲ前拂ニ爲シタルト否トニ拘ハラヌ又之ヲ支拂フコトヲ要セサル場合ト雖モ尙ホ存スルモノトス

第九章 賣買

第一節 賣買契約

第五百二十五條 契約取結ノ時現ニ存在シ且賣主ニ處分權ノ屬スル物ニ非サレハ賣買契約ノ目的物タルコトヲ得ス

第五百二十六條 他人ノ物ト雖モ其占有ヲ正當ノ方法ヲ以テ取得シタル者ハ所有權移轉ノ時ニ於テ買主善意ナルトキハ之ヲ賣買スルコトヲ得但無記名證券ヲ除ク外盜品又ハ紛失品ハ此限ニ在ラス

第五百二十七條 契約取結ノ時現ニ存在スルモ天然ノ原因ニ因リテ未ダ引渡ス能ハサル物ノ賣買契約ハ其物カ引渡スヲ得ヘキモノト爲ラハトノ條件ヲ以テスル契約タリ但當事者カ他ノ意思ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十八條 契約取結ノ時既ニ存在セサル物ノ賣買契約ハ雙方孰レモ此事實ヲ知ラス且其存在ノ確實ナラサルコトヲ認メテ之ヲ取結ヒタルトキハ有效トス

第五百二十九條 賣主カ買戻ヲ約定スル賣買契約ハ差額取引又ハ違法ノ高利取引其他ノ不法ノ取引ヲ目的トシテ之ヲ取結ヒタルトキハ無効トス

第五百三十條 初ヨリ履行ノ意思ナクシテ取結ヒ又ハ取得若クハ讓渡ヲ禁セラレタル物ニ付キ取結ヒタル賣買契約ハ無効トス

第五百三十一條 買主ハ賣買契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ツ量定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其量定、分割若クハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失若クハ毀損ノ危險ヲ負擔ス

第五百三十二條 點檢又ハ嘗試ノ上ニテ爲ス賣買契約ハ買主カ其物ヲ承諾セハトノ條件ヲ以テ之ヲ取結ヒタルト看做ス

買主カ契約若クハ商慣習ニ因リテ定マリタル期間又ハ點檢若クハ嘗試ノ爲メ必要ナル期間ニ其承諾ヲ述ヘサルトキハ條件ハ成就セサリシモノト看做ス之ニ反シテ點檢又ハ嘗試ノ爲メ賣買物ヲ買主ニ引渡シタル場合ニ於テ買主カ右期間ノ滿了マテニ承諾ヲ述ヘス又其物ヲ賣主ニ還付セサルトキハ條件ハ成就シタルモノト看做ス

第五百三十三條 商標、見本、雛形又ハ試品ヲ以テ爲ス賣買契約ハ無條件ノモノニシテ此契約ニ依リテ賣主ハ物カ商標、見本、雛形又ハ試品ニ適合ス可ク且別段ノ契約アルニ非サレハ其物カ商標、見本、雛形又ハ試品ノ所有者又ハ製出者ニ由來ス可キ義務ヲ負フ

第五百三十四條 物ヲ點檢ノ後無條件ニテ賣買シタルトキハ賣主ハ自己ノ詐欺又ハ買主ノ重要ナル錯誤アル場合ノ外ハ其擔保ヲ引受ケ又ハ買主ニ隱蔽シタル欠缺若クハ瑕疵ニ付テノミ責任ヲ負フ

買主ハ欠缺若クハ瑕疵ノ些少ナルトキ又ハ買主ニ過失ナキトキハ代價ノ相當ナル減少ノミヲ求ムルコトヲ得

第五百三十五條 商品及ヒ代價ヲ明細ニ記載シテ見本、雛形、試品、商品目錄其他ノ取引上ノ通告書ヲ指定セル人ニ送付シタルトキハ其送付ハ羈束セラルル提供ト看做ス但送付者カ其提供ヲ變更スル權利ヲ留保シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十六條 契約取結ノ後直チニ賣主ハ物ヲ引渡シ及ヒ代價ヲ受取り買主ハ物ヲ受取り及ヒ代價ヲ支拂フ可キ權利及ヒ義務アリ但契約又ハ商慣習ニ依リテ此義務ノ履行ノ爲メ或ル期間ノ存スルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十七條 別段ノ定例、契約又ハ商慣習ナキトキハ物ノ引渡ハ賣主ノ費用ヲ以テ之ヲ爲シ其受取、検査及ヒ代價支拂ハ買主ノ費用ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百三十八條 物ノ引渡マテハ賣主ハ至重ノ注意ヲ爲ササルニ因リテ生シメタル喪失又ハ毀損ニ付キ買主ニ對シテ責任ヲ負フ但買主カ受取ヲ遅延シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十九條 契約取結ノ前豫メ物ヲ買主ニ引渡シタルトキハ買主ハ賣主ニ對シテ前條ニ掲ケ

タル責任ヲ負フ

第五百四十條 契約取結ノ時物カ第三者ノ手ニ存在スルトキハ其第三者ハ賣主ニ引渡スト同様ニ其物ヲ買主ニ引渡ス義務アリ

第五百四十一條 代價ヲ明示ニテ定メサリシ場合ニ於テ當事者ノ別段ノ意思ナキトキハ履行ノ時及ヒ地ニ於ケル市場代價又取引所ニ於テ賣買スル物ニ在テハ取引所相場代價ヲ支拂フコトヲ要ス

買主ハ別段ノ契約又ハ商慣習ナキトキハ物ノ引渡前ニ代價ヲ支拂フ義務ナシ

第五百四十二條 買主ハ物ノ欠缺若クハ瑕疵又ハ引渡ノ遅延ニ付キ仲立人ヲシテ賣主ノ費用ヲ以テ故障證書ヲ作ラシメ之ヲ賣主ニ送付スル權利アリ

第五百四十三條 別段ノ契約ナキトキハ賣主ハ履行ノ時及ヒ地ニ於テ普通ナル品質ノ商品ヲ引渡ス義務アリ

右ノ規定ハ壘、箱其他ノ容器、外包ニシテ商品ノ引渡若クハ轉賣ノ用ニ供スルモノ又ハ運送ノ用ニ供スル外包ニシテ商品ノ形状、性質ヲ保全スルニ必要ナルモノニモ之ヲ適用ス

第五百四十四條 買主商品ヲ受取りタルトキハ即時ニ其分量及ヒ品質ヲ検査シ欠缺又ハ瑕疵アラハ之ヲ賣主ニ通知スル義務アリ

後ニ至リ發見シタル欠缺又ハ瑕疵ニ付テハ賣主カ擔保ヲ引受ケ若クハ詐欺ヲ行ヒ又ハ買主カ商品ノ性質ニ因リ即時検査ヲ爲ス能ハサリシ場合ニ於テ其發見後直チニ通知ヲ爲シタルニ非サレハ買主ハ訴又ハ抗辯ヲ以テ其權利ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百四十五條 賣主カ契約ノ一分ノミヲ履行シタルトキハ買主ハ其全部ヲ解除スルコトヲ得但

當事者ノ意思ニ依リテ一分ノ履行ヲ爲シ得ヘキトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ代價ハ其爲シタル履行ノ割合ニ應シテ之ヲ支拂フコトヲ得
若シ賣主カ完全ノ履行ヲ爲シタル場合ニ於テ買主カ代價ノ一分ノミヲ支拂ヒタルトキハ賣主ハ第三百二十三條ニ掲ケタル權利ヲ主張シ又ハ其支拂ヲ受ケサル部分ヲ取戻シテ之ヲ自己又ハ買主ノ計算ニテ賣却スルコトヲ得
第五百四十六條 風袋ノ重量ハ明示ノ契約又ハ商慣習アルニ非サレハ商品ノ重量ニ算入スルコトヲ得ス
風袋ノ重量トシ又ハ損敗、毀損ノ部分トシテ買主ニ増數若クハ増量ヲ與フルヤ否ヤ及ヒ其多少ハ契約又ハ商慣習ニ從フ

第五百四十七條 買主ヨリ物ノ欠缺又ハ瑕疵ニ付テ通知若クハ故障ヲ受ケタルトキハ賣主ニ於テモ仲立人其他ノ鑑定人ヲシテ其物ノ現状及ヒ品質ヲ検査セシムルコトヲ得
第五百四十八條 當事者又ハ其鑑定人ニ於テ協議調ハサルトキハ裁判所ヨリ任スル鑑定人其物ノ現状又ハ品質ヲ査定ス

第五百四十九條 買主カ物ノ受取ヲ拒ムトキハ遅延ナク其物ヲ賣主ノ處分ニ付スルコトヲ要シ又此處分ヲ爲シ又ハ當ニ爲スヘキニ至ルマテ其貯藏ニ注意スルコトヲ要ス
買主ハ賣主ノ委託アルニ非サレハ其物ヲ賣主ニ送還スル權利及ヒ義務ナシ
第五百五十條 買主ハ其拒ミタル物ノ代價ヲ既ニ支拂ヒタルトキ又ハ其物カ損敗シ若クハ價ヲ失フニ至ル可キモノナルトキハ賣主ノ計算ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得買主ノ利益ノ爲メニスル賣却ニ在テハ第三百九十二條ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五百五十一條 買主ハ賣主ニ對シテ遅クトモ物ノ引渡マテニ送品勘定書ヲ得ント求メ又代價支拂ノ爲メ受取證書ヲ得ント求ムルコトヲ得

第二節 供給契約

第五百五十二條 供給契約ハ契約取結ノ時未タ現存セサル物又ハ賣主ニ處分權ノ屬セサル物又ハ仍ホ運送中ニ在ル物又ハ指圖證券、無記名證券ヲ以テ若クハ必要ナル名前書替ヲ以テ引渡ス可キ物ノ賣買契約ナリ

第五百五十三條 供給契約ハ雙方ヲ羈束ス然レトモ物ノ所有權及ヒ危險ハ其物ヲ引渡スニ因リ始メテ買主ニ移ル

第五百五十四條 天然ニハ現在スト雖モ未タ人ノ威力内ニ在ラサル物ハ之ヲ現存セサルモノト看做ス

第五百五十五條 買主ニ引渡スニ至ルマテ其送付ニ付キ賣主カ責任ヲ負フ物ハ之ヲ運送中ニ在ル物ト看做ス
運送中ニ在ル物ヲ指圖證券、無記名證券ヲ以テ又ハ其他ノ間接ノ方法ヲ以テ賣渡シタルトキハ賣主ハ其物ノ引渡ニ至ルマテ全部ノ喪失又ハ毀損ノ危險ヲ負擔ス又買主ハ一分ノ喪失又ハ毀損ニ付テハ代價ノ相當ナル減少ヲ請求スルコトヲ得

第五百五十六條 指圖證券、無記名證券等ヲ以テスル供給契約ノ場合ニ在テハ此證券等ニ基キテ物ヲ引渡ス義務アル第三者ニ買受代價ヲ支拂フニ因リテノミ其物ヲ買主ニ引渡スコトヲ得ルハ契約又ハ商慣習アルトキニ限ル
供給契約ノ目的物ニ質權ノ存スルトキハ尙ホ第三百七十七條ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五百五十七條 指圖證券、無記名證券等ニ基キテ引渡ス可キ物ノ引渡ヲ得サルトキハ買主ハ供給契約ヨリ生スル權利ヲ賣主ニ對シテ行フコトヲ得但當事者ノ意思又ハ取引ノ性質ニ因リテ賣主カ責任ヲ免カル可キトキハ此限ニ在ラス

第三節 競 賣

第五百五十九條 他人ノ爲メ公ノ競賣ヲ爲スヲ營業トスル者ハ其受ケタル競賣ノ委託ヲ適法ノ理由ナクシテ拒ムコトヲ得ス

第五百六十條 取引所ニ於テ爲ス競賣ハ取引所仲立人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十一條 支拂資力ナキコト又ハ惡意アルコトニ付キ理由アル嫌疑ノ存セサル者ハ公ノ競賣ニ於テ競買スルコトヲ得

第五百六十二條 競買人ハ自己ノ爲メニ競賣ヲ爲スコトヲ得ス又賣主ハ競買ヲ爲ス權利ヲ明示シテ留保シ且詐欺ニ因リテ代價ヲ昂ラシムル目的ナキトキニ限り競買ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 明示ノ留保ナキトキハ競賣ニ付シタル物ハ其期日ニ於テ最高額ノ競買人ニ競落セラル

第五百六十四條 競落カ最終ノ競買人ニ歸シタルトキハ競賣ノ各箇ノ物又ハ番號ニ付キ賣買契約ヲ取結ヒタルモノトス

第五百六十五條 二人以上同時ニ最高ノ價額ヲ呼ヒタル場合ニ於テ物ヲ共同シテ取得スルコトヲ欲セサルトキハ競落ハ其者ノ中更ニ最高價ノ競買ヲ爲ス者ニ歸ス

第五百六十六條 最終ノ競買無効ナルトキ又ハ競買人之ヲ承諾セサルトキハ其競落ハ之ニ次ク最高價ノ競買人ニ歸ス

高價ノ競買人ニ歸ス

第五百六十七條 各競買人ハ競賣前ニ競買人ヨリ公告シタル競賣ノ條件ニ服従ス可シ但其條件カ違法ノモノナルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十八條 競買人ハ競賣ニ付キ及ヒ賣買契約ノ取結並ニ履行ニ付キ買主ノ代理ヲモ引受ケルコトヲ得然レトモ競賣ノ爲メ委託セラレタル物ヲ競賣スル以前ニ其物ニ對シテ賣主ニ前貸ヲ爲ス權利ナシ

第五百六十九條 競賣ノ費用ハ賣主ニ於テ之ヲ負擔スルコトヲ要ス但別段ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十條 競賣人ハ契約上又ハ慣習上ノ競賣手数料ト競賣ニ付キ支拂ヒタル費用及ヒ立替金ニシテ競賣手数料中ニ包含セサルモノノ賠償ト賣主ニ對シテ請求スルコトヲ得又競買人ハ此債權ノ爲メ及ヒ適法ニ賣主ニ爲シタル前貸ノ爲メ競賣物又ハ其代價ニ付キ留置權ヲ有ス

第五百七十一條 競賣人ハ賣主ニ對シテ怠慢、不熟練又ハ惡意ニ因リテ加ヘタル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第四節 取戻權

第五百七十二條 賣買契約ノ取結後買主其支拂ヲ停止シ又ハ其取結前既ニ支拂停止ト爲リタルコトヲ賣主ノ知りタル場合ニ於テ賣主カ他ノ方法ヲ以テ十分ナル支拂又ハ擔保ヲ受ケサルトキハ賣主ハ買主又ハ其指圖シタル人ニ宛テタル運送中ノ賣買物ヲ取戻スコトヲ得但未タ買主若クハ

其代人ノ占有ニ移ラサルモノ又ハ買主若クハ其代人カ有效ニ轉賣シ若クハ買入セサルモノニ限

第五百七十三條 競賣ハ後ノ買主善意ニシテ且其代價ノ相當及ヒ眞實ナルトキニ限り有效トス若シ未タ其代價ヲ支拂ハサルトキハ初ノ賣主ハ自己ノ債權ノ額ニ滿ツルマテ後ノ買主ニ對シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ得

第五百七十四條 取戻權ハ賣主カ掛賣ヲ爲シ又ハ一分ノ支拂ヲ受ケ又ハ買主ト交互計算ノ關係ヲ有スルニ因リテ之ヲ失フコト無シ然レトモ賣主カ爲替手形ヲ振出シ又ハ手形其他ノ信用證券ヲ買主ヨリ受取り代價全額ノ支拂ニ充テタル場合ニ於テ此等ノ證券ニ義務者トシテ買主若クハ其代人ノ外第三者ノ署名アルトキハ取戻權ヲ失フ

第五百七十五條 買主ノ支拂停止ニ至ラントスルニ付キ理由アル嫌疑アルトキ又ハ切迫ナル取引情況ノ爲メ支拂停止ヲ爲スコトノ測リ難キトキハ眞ノ支拂停止ヲ爲シタルニ同シ

第五百七十六條 貨物ヲ買主ノ倉庫ニ入レ又ハ買主ノ名ヲ以テ倉庫ニ寄託シタルトキハ運送貨、關稅其他貨物ノ負擔スル費用ヲ支拂ヒタルト否トナ問ハス買主又ハ其代人ニ於テ占有ヲ得タリト看做ス

第五百七十七條 取戻權ハ運送ニ因リ又ハ運送ニ關シ貨物ノ負擔スル費用、立替金其他ノ債務殊ニ運送貨、仲買手数料、運送取扱手数料、關稅、保險料若クハ海損共擔金ノ支拂又ハ償還ヲ爲スニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百七十八條 取戻權ハ貨物賣渡ノ委任ヲ受ケタル仲買人又ハ其代人カ既ニ貨物ヲ占有シ又ハ之ヲ第三者ニ賣リタルトキト雖モ委任者ヨリ其仲買人又ハ其代人ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得貨

物買受ノ委任ヲ受ケタル仲買人ヨリ其委任ニ對シテモ亦同シ

第五百七十九條 取戻權ハ左ノ場合ニ於テ亦之ヲ行フコトヲ得

第一 手形其他ノ信用證券ニ關シテハ或人カ他ノ者ノ債務者ニ非スシテ交互計算ノ爲メ又ハ貯藏、取立若クハ保證ノ爲メ又ハ支拂ヲ爲サシメシカ爲メ之ヲ他ノ者ニ送り且其證券カ未タ金錢ニ交換セラレヌシテ受取人ノ方ニ存在スル場合

第二 金錢ニ關シテハ或人カ前號ト同一ノ目的ヲ以テ之ヲ他ノ者ニ送り其金錢カ未タ受取人ニ達セス又ハ達シタル後其受取人之ヲ自己ノ計算ニ移サス若クハ之ニ付キ其他ノ處分ヲ爲ササル場合

第十章 信用

第一節 消費貸借

第五百八十條 消費貸ハ債權者ヨリ又ハ債權者ノ計算ヲ以テ他人ヨリ債務者ニ又ハ債務者ノ計算ヲ以テ他人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第五百八十一條 債務者ノ計算ヲ以テスル前貸若クハ支拂又ハ定マリタル義務ノ引受ハ直接ノ契約ニ出ツルト其他雙方間ニ存在スル契約關係ニ出ツルトナ問ハス消費貸ニ同シ

第五百八十二條 債務者ハ常ニ同種、同量ノ物ヲ償還スル義務アリ但同種、同量ノ償還ヲ爲スコトヲ得ス又ハ當事者ノ意思ニ依リテ爲スコトヲ要セサルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十三條 商品又ハ有價證券ノ消費借ニ付テハ債務者ハ別段ノ契約ナキトキ又ハ特定物ナルトキハ其領收ノ時ト地トニ於ケル價額ヲ償還スルコトヲ要ス

第五百八十四條 債務者ノ名ヲ記シタル信用證券又ハ債務者ノ計算ヲ以テ發行シタル信用證券ハ

債務者其金額ヲ償還スル義務アルトキニ限り債務者ニ於テ又ハ債務者ノ計算ヲ以テ之ヲ讓渡シ又ハ其他ノ方法ニテ之ヲ付與スルコトハ券面記載ノ滿額ヲ以テスルコトヲ要ス之ニ違フトキハ其證券ヲ無効トス然レトモ割引ヲ爲スコトハ此力爲メニ妨ケラレルコト無シ

第五百八十五條 裏書讓渡ス可キ信用證券其他流通ス可キ信用證券ヲ以テ消費貸ヲ爲シタルトキハ右證券ニ債權者又ハ債務者トシテ記載セラレタル者ヲ以テ債權者又ハ債務者ト看做ス

第五百八十六條 債務者ハ明示ノ契約ナキモ其消費借ヲ償還スル義務アリ但反對力當事者ノ意思又ハ其取引ノ性質ニ依リテ推知スルコトヲ得ヘキトキハ此限ニ在ラス

第五百八十七條 債務者カ約定ノ豫告又ハ相當ノ豫告ノ後何時ニテモ消費借ヲ償還スル權利ハ豫メ契約ヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得ス然レトモ別段ノ契約ナキトキハ債務ノ主タルモノ及ヒ從タルモノヲ割引ナク一回ニ償還スルニ非サレハ債權者之ヲ領收スルコトヲ要セス

第五百八十八條 無期ノ消費借ニ於テハ債務者ハ相當ノ豫告ノ後何時ニテモ之ヲ償還スルコトヲ得然レトモ債權者ハ相當ノ豫告ノ後ニシテ且惡意ナキトキニ非サレハ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第五百八十九條 第五百八十五條ノ場合ニ於テハ償還ノ義務ハ期間ヲ定メテノミ之ヲ約スルコトヲ得

第五百九十條 元債ノ償還ハ若シ債務者カ契約上負擔シタル利息ノ支拂ヲ二期以上遲延シ又ハ支拂停止ト爲リ又ハ資産上切迫ナル情況ニ至リタルトキハ反對ノ契約アルニ拘ハラズ約定期間ノ滿了前ニ之ヲ求ムルコトヲ得

第五百九十一條 第五百八十一條ノ場合ニ於テハ債權者ト債務者トノ間ニ存スル契約關係ニ準據

シテノミ債權者主張スルコトヲ得

第五百九十二條 總テ消費貸又ハ他人ノ爲メニスル資本ノ交付若クハ使用ニ付テハ取引ノ性質ニ依リテ定マリタル慣習上ノ利息ヲ求ムルコトヲ得但明示ノ契約又ハ前條ノ規定ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第五百九十三條 滿期トナリタル利息カ差引殘額ノ計算若クハ其他ノ清算ニ因リ又ハ特別ノ契約ニ因リテ元債ニ組入ラレタルトキハ其利息ノ利息ヲ求ムルコトヲ得

第五百九十四條 元債全額ノ償還ニ對スル單一ナル受取證書ハ其利息ヲモ併セタル受取證書ト看做ス

第五百九十五條 任意ニ支拂ヒタル利息ハ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第五百九十六條 債權者ハ直接ノ償還ヲ受クルニ換ヘ主タルモノ及ヒ從タルモノヲ併セタル債務ノ額ニ滿ツルマテ自己ノ計算ヲ以テ他人ニ支拂ヲ爲シ又ハ手形若クハ支拂手形ノ引受若クハ支拂ヲ爲シ又ハ其他債務ノ擔任ヲ爲ス可キコトヲ債務者ニ對シテ求ムルコトヲ得又債務者ハ債權者ニ對シ第五百八十一條ニ準據シテ計算セシムルコトヲ得

第二節 信用約束

第五百九十七條 信用ヲ與フル約束ハ之ヲ取消ササル間ハ他ノ契約ノ附從トシテモ獨立ノ約束トシテモ其效力ヲ有ス

第五百九十八條 債務ノ支拂若クハ保證ノ爲メ或ル額ニ付キ債權者ニ信用約束ヲ爲シタル明約又ハ情況アルトキハ其約束ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百九十九條 或ル額ニ付キ引受ケタル獨立ノ信用約束ハ受信用者カ其約束ニ對シテ負擔シタ

ル義務ヲ履行セス又ハ支拂停止ト爲リ又ハ取引切迫ナル情況ニ至リ且與信用者ノ爲メ十分ナル引當若クハ擔保ノ備ハラサルトキニ限り之ヲ取消スコトヲ得

第六百條 信用約束ハ額ヲ定ムルモ定メサルモ有期ニテモ無期ニテモ條件附ニテモ無條件ニテモ人ヲ特定シテモ指圖式ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第六百一條 相互ノ信用約束ハ雙務契約ノ原則ニ從ヒ各當事者ヲ羈束ス然レトモ第五百九十九條ノ場合ニ於テハ其約束ヲ取消スコトヲ得

第六百二條 寄託物其他ノ金額又ハ有價物ヲ交互計算ニ於テ領收シタルトキハ信用ノ處分シ得ヘキ額ヲ限トシテ默示ノ信用約束ヲ爲シタリト看做ス

第六百三條 信用約束ニ付テノ利息又ハ手数料ハ疑ハシキ場合ニ於テハ其約束ニ依リ現ニ與ヘタル信用ノ割合ニ應シテノミ之ヲ求ムルコトヲ得

第六百四條 支拂手形又ハ信用證券ヲ以テ信用約束ヲ爲シタルトキハ其發行人ハ受信用者ニ對シテ履行ノ責ヲ負ヒ且自己ノ計算ヲ以テ其履行ヲ爲スモノトス然レトモ其支拂手形又ハ信用證券ニ對スル第三者ノ引受ハ之ヲ新ナル信用約束ト看做ス

第六百五條 他人ノ委託ヲ受ケテ信用約束ヲ爲シタルトキハ其委託者ヲ受信用者ノ保證人ト看做ス

第六百六條 或ル額ニ付キ與信用ノ爲メ二人ヲ紹介スルハ之ヲ信用委託ト看做ス但其紹介ヲ留保ナクシテ爲シタルトキニ限ル

第三節 寄託

第六百七條 他人ノ物ヲ貯藏ノ爲メ領收シタル者ハ自己ノ所有物ニ付テ爲スト同一ノ注意ヲ加ヘ

テ寄託者ニ其物ヲ還付スル責任アリ

第六百八條 他人ノ物ノ貯藏ノ爲メ報酬ヲ受クル者又ハ其貯藏ニ付キ明示シテ責任ヲ負擔スル者又ハ其物ヲ貯藏ノ爲メノミナラス管理ノ爲メニ領收スル者又ハ其物ノ貯藏若クハ管理ヲ以テ營業ト爲ス者又ハ自己ノ營業ニ因リテ他人ノ物ノ寄託ヲ受クル者ハ寄託者ニ對シテ至重ノ注意ヲ爲ス義務ヲ負フ

第六百九條 旅店主、飲食店主、浴場營業者其他他人ヲ自家ニ引受クル營業者ハ客ノ持込ミテ此等ノ者ノ方ニ置キタル物ニ關シテハ其喪失又ハ損害ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ無責任ノ告示ヲ爲スモ客ニ自身ノ注意ヲ催カスモ又此等ノ者又ハ其信用人ノ過失アルトキハ契約ヲ以テモ之ヲ免カルルコトヲ得ス大金及ヒ特ニ貴重ナル物ハ之ヲ明告シテ特別ナル貯藏ノ爲メ交付スルコトヲ要ス

第六百十條 受託者ハ契約ニ從ヒ又他人ノ物ノ貯藏又ハ管理ヲ營業トスルトキハ契約ナシト雖モ受託料ヲ求ムルコトヲ得又總テノ場合ニ於テ必要ナル立替金ノ賠償及ヒ寄託者ノ過失ニ因リテ被フリタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第六百十一條 寄託物ハ有期ト無期トヲ問ハス第六百十七條ノ場合ヲ除ク外ハ豫告ナクシテ何時ニテモ其還付ヲ求ムルコトヲ得

第六百十二條 無期ノ寄託物ハ何時ニテモ受託者之ヲ還付スルコトヲ得但相當又ハ約定ノ豫告期間ニ從フコトヲ要ス

第六百十三條 物ヲ二人以上共同シテ寄託シタル場合ニ於テ別段ノ契約ナキトキハ各人ヨリ其物

ノ還付ヲ求メ又各人ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第六百十四條 寄託中寄託物ヨリ生スル果實又ハ利益ハ別段ノ契約アルニ非サレハ寄託者ニ屬ス
第六百十五條 物ノ種類ノミヲ定メ數量ヲ以テ之ヲ寄託シタルトキハ同一ノ數量ヲ以テノミ還付
ヲ求ムルコトヲ得但物ノ性質ニ於テ特定物ト看做ス可キトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 二人以上ノ寄託者ノ代替物カ互ニ混合シタルトキハ各寄託者ハ其寄託シタル數量
ノ割合ニ應シテ混合物ノ共有者ト爲リ且其割合ニ應シテ混合物全部ノ喪失又ハ毀損ノ危險ヲ負
擔ス

第六百十七條 契約又ハ商慣習ニ依リ使用權又ハ處分權カ受託者ニ屬ス可キ方法ヲ以テ代替物ヲ
寄託シタルトキハ受託者カ受託料ヲ受クルト否ト又寄託者ニ利息ヲ支拂フト否トヲ問ハス其物
ノ所有權及ヒ其物ノ喪失若クハ毀損ニ係ル危險ノ全部ハ受託者ニ移ル

第六百十八條 特定物ニ付キ受託者カ其物ヲ使用スルコトヲ得ルト否トハ專ラ當事者ノ意思ニ從
ヒテ之ヲ定ム

第六百十九條 反對ノ明約ナキトキハ封セサル金錢又ハ貴金屬ノ寄託物ハ常ニ受託者ノ所有物ト
看做シ又封セサル有價證券ノ寄託物ハ其證券ヲ寄託者ヨリ定マリタル相場ニテ受託者ニ交付シ
タルトキニ限り受託者ノ所有物ト看做ス

第六百二十條 受託者ハ自己ニ所有權ノ移リタル寄託物ニ付テハ明約アルトキニ限り利息ヲ支
拂フコトヲ要ス又明約又ハ慣習アルトキニ限り報酬ヲ求ムルコトヲ得

第六百二十一條 寄託物ノ受取證書ハ寄託者ノ名ヲ以テモ指圖書ニテモ無記名式ニテモ之ヲ發行
スルコトヲ得但反對ノ明約ナキトキハ其裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第六百二十二條 第六百十七條及ヒ第六百十九條ノ場合ニ於テハ契約又ハ商慣習ニ依リ現物ニテ
モ交付若クハ還付ノ時及ヒ地ニ於ケル市場代價ニテモ償還スル權利ヲ受託者ニ與ヘ又之ヲ要求
スル權利ヲ寄託者ニ與フルコトヲ得

第六百二十三條 受託者ハ寄託者ノ所有權若クハ處分權ヲ調査シ又ハ寄託證書ヲ提示シテ還付ヲ
要求スルノ者ノ權利ヲ調査スル義務ナシ然レトモ惡意及ヒ甚シキ怠慢ニ付テハ責任ヲ負フ

第六百二十四條 第六百十五條以下ニ掲ケタル原則ハ運送、製作其他ノ目的ノ爲メ封緘者クハ記
號ナクシテ數量ヲ以テ物ヲ委託セラレタル運送人、船長及ヒ其他ノ者ニモ金錢其他ノ代替物ヲ
質物トシテ受取リタル質債權者ニモ之ヲ適用ス

第十一章 保 險

第一節 總 則

第六百二十五條 保險契約ハ保險者カ保險料ヲ受ケテ或ル物ニ關シ或ル時間ニ於テ不測又ハ不確
定ノ事故ニ因リテ生スルコト有ル可キ喪失又ハ損害ニ付キ被保險者ニ賠償ヲ爲ス義務ヲ負フ契
約ナリ

第六百二十六條 保險スルコトヲ得ヘキ危險ハ主トシテ火災、地震、暴風雨其他ノ天災陸海運送ノ
危險、死亡及ヒ身體上ノ災害ナリ然レトモ其他ノ危險ニ對スル保險ハ此カ爲メニ妨ケラレルコ
ト無シ

海上運送ノ保險ハ第二編ノ規定ニ牴觸セサルモノニ限り本章ノ規定ニ從フ
保險ハ別段ノ契約アルニ非サレハ保險料支拂期間ニ生スル諸般ノ危險殊ニ相次テ生スル危險ニ
及フモノトス然レトモ保險者ハ如何ナル事情アルモ被保險額ヲ超エテ賠償ヲ爲スコトヲ要セス

第六百二十七條 所有權、債權其他ノ權利名義又ハ權利關係ニ基因スル財産上ノ利益ニシテ此ニ關スル危險ノ起生ニ因リ被保險者ニ直接ニ損害ヲ加フ可キモノハ保險ニ付スルコトヲ得ル利益トス

博奕、賭事、富講又ハ其他ノ意外ノ事ニ因ル僥倖ノ利益ハ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得ス

第六百二十八條 保險ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス又被保險者ノ委託ヲ受ケタルト否ト被保險者ノ豫知スルト否ト被保險者ヲ明示スルト否トヲ問ハス之ヲ受クルコトヲ得

契約ニ依リテ他人ノ利益カ知レサルトキハ保險中込入ハ保險者ニ對シテ被保險者ト看做サル

第六百二十九條 被保險利益ハ被保險物ノ普通價額ヲ以テ限トスルヲ通例トス若シ其利益カ此價額ヲ超過ス可キトキハ特ニ之ヲ明約スルコトヲ要ス

第六百三十條 被保險物ノ價額ハ使用ニ供スル動産ニ在テハ修繕又ハ新調ノ費用ニ依リ商品ニ在テハ損害又ハ喪失ノ生シタル時及ヒ地ニ於ケル市場代價ニ依リテ之ヲ定ム

第六百三十一條 保險ハ被保險物ノ利益額ヲ超過スル部分ニ限リ無効トス

第六百三十二條 前條ノ規定ニ拘ハラズ被保險物ノ價額ヲ豫メ明約又ハ鑑定人ノ評價ニ依リテ定メタルトキハ後ニ至リ其價額ノ定ニ對シテハ強暴者クハ詐欺ノ場合又ハ價額ノ著シク過當ナル場合ニ於テノミ異議ヲ述フルコトヲ得

第六百三十三條 保險セラレタル債權ノ價額ハ債務額ニ利息及ヒ取立費用ヲ合算シタル額トス

第六百三十四條 辨濟ス可キ賠償額ハ人ノ保險ニ在テハ被保險額トシ物ノ保險ニ在テハ被保險者カ保險ノ發生ニ因リテ直接又ハ間接ニ被フリタル損害ヲ以テ限トス

間接ノ損害中ニハ現ニ生シ又ハ將ニ生セントスル危險ノ已ムヲ得サル防止ニ因リテ生シタル別段ノ費用及ヒ損害ヲモ包含スルモノトス

第六百三十五條 被保險者カ已ムヲ得サルニ非スシテ任意ニ加ヘ若クハ加ヘシメタル喪失若クハ損害又ハ被保險物ノ性質、固有ノ瑕疵若クハ當然ノ使用ニ因リテ直接ニ生シタル喪失若クハ損害ニ付テハ保險者ハ賠償ヲ爲ス義務ナシ

第六百三十六條 保險契約取結ノ時既ニ生シタル危險ニ對スル保險ハ無効トス但當事者雙方又ハ其代人ノ孰レモ其危險ノ生シタルコトヲ知ラス且既ニ危險ノ生シタルモ有效タル可キ旨ヲ明示シテ契約ヲ取結ヒタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 一人カ同一ノ物及ヒ同一ノ利益ニ關シ時ヲ同クシ又ハ時ヲ異ニシテ二人以上ノ保險者ヨリ各別ニ保險ヲ受クルトキハ其重複保險ヲ各保險者ニ通知シテ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス之ニ違フトキハ各保險者ハ其契約ヲ解除スルコトヲ得

第六百三十八條 重複保險ノ場合ニ在テハ被保險者ハ別段ノ契約ヲ爲ササルトキハ保險者ノ孰レニ對シテモ賠償ヲ求ムルコトヲ得其保險者ハ賠償ヲ爲シタル後保險ノ割合ニ應シテ其賠償ノ割賦金ヲ他ノ保險者ニ請求スルコトヲ得但他ノ保險力無効ナルトキ又ハ期間ノ滿了若クハ其他ノ理由ニ因リテ終リシトキハ此限ニ在ラス

一保險者ノ爲メニスル拋棄ハ他ノ保險者ノ害ト爲ル效力ヲ生スルコト無シ

第六百三十九條 保險スルコトヲ得ル利益ノ額ニ滿タサル保險ノ場合ニ在テハ其殘餘ノ額ニ付キ被保險者ヲ自己ノ保險者ト看做シ被保險者ハ其額ノ割合ニ應シテ損害ヲ負擔ス但別段ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十條 保險ハ被保險物ノ讓渡其他被保險利益ノ轉付ニ因リテ當然新取得者ニ移ル但讓渡人カ利益ヲ留置キタル場合又ハ第六百五十四條ノ場合又ハ保險者カ轉付ニ付キ承諾ヲ與フル權利ヲ明示シテ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス

然レトモ總テノ場合ニ於テ被保險者ハ其爲シタル轉付ヲ遲延ナク保險者ニ通知シ又保險者ハ保險カ記名ナルトキハ新取得者ノ名ニ書替フルコトヲ要ス

第六百四十一條 被保險額ノ請求權ハ特約ナキトキニ限り滿期日ノ前後ヲ問ハス保險者ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得保險者ハ其轉付ヲ知リタル時ヨリ其人ニノミ支拂ヲ爲ス義務アリ

被保險物ノ抵當若クハ質入又ハ抵當物若クハ質物ノ保險又ハ第三者ノ爲メニスル保險ハ被保險額請求權ノ轉付ト同視ス

第六百四十二條 保險契約ヲ取結及ヒ履行ニ付テハ第七章ノ原則ヲ標準ト爲ス然レトモ保險者ハ總テノ場合ニ於テ契約取結ノ後即時ニ保險證券ヲ作リテ被保險者ニ交付スル義務ヲ負ヒ此手續ヲ爲サス又ハ遲延スルニ因リテ生シタル總テノ損害ニ付キ被保險者ニ對シテ責任ヲ負フ

第六百四十三條 保險契約ハ保險者又ハ契約取結ノ權アル代人カ保險申込書及ヒ之ニ屬スル陳述書ヲ異議ナク承諾シタルトキハ之ヲ取結ヒタリト看做ス

第六百四十四條 保險契約ハ各當事者ニ於テ仲買人ヲ以テモ之ヲ取結フコトヲ得

第六百四十五條 保險營業者ノ其取引場ヨリ他ノ地ニ置キタル代辦人又ハ外國保險營業者ノ内國ニ置キタル代辦人ハ被保險者ニ對シ契約ノ取結陳述ノ承諾、保險料ノ受取、被保險額ノ支拂其他總テ保險者ノ代理ヲ爲ス權アリト看做ス但其代辦人カ被保險者ニ反對ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十六條 保險證券ニハ年月日ヲ記シ及ヒ保險者若クハ其代辦人署名捺印シ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 保險ノ初日及ヒ其期間

第二 被保險物ノ十分精密ナル記載

第三 被保險額

第四 保險料ノ額

第五 保險シタル危險

第六 保險申込人ノ氏名及ヒ被保險者ノ指示

第七 保險ノ旨趣ニ重要ナル影響ヲ及ボス事情及ヒ契約ノ特別ナル條款アラハ其條款

第六百四十七條 保險證券ノ旨趣ハ商慣習又ハ附屬書類其他ノ證書ヲ以テ之ヲ更正シ説明シ補充シ又ハ變更スルコトヲ得

第六百四十八條 保險證券ハ指圖式又ハ無記名式ニテ之ヲ發行スルコトヲ得然レトモ白地ニテ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第六百四十九條 保險契約ノ旨趣ニ係ル證據ハ保險證券又ハ附屬書類ヲ以テノミ之ヲ舉クルコトヲ得但し其證券及ヒ附屬書類カ最早存在セス又ハ其發行ヲ爲ササルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十條 被保險物ノ價額ニシテ保險證券ニ掲ケサルモノ及ヒ損害額ノ證據ハ總テ他ノ適法ナル證據方法ヲ以テ之ヲ舉クルコトヲ得

損害額ノ評定ハ當事者雙方ノ協議調ハサルトキハ裁判所ヨリ指名シタル鑑定人ノ之ヲ爲ス

第六百五十一條 被保險者ハ危險ノ生スルニ當リ成ル可ク其防止ニ盡力シ又其既ニ生シタル後ハ保險者又ハ其代人ニ遲延ナク其危險及ヒ喪失若クハ損害並ニ其大小ヲ通知スル義務ヲ負ヒ其義務違反ニ因リテ生シタル損害ニ付キ保險者又ハ其代人ニ對シテ責任ヲ負フ

第六百五十二條 戰爭又ハ暴動ニ因リテ生シタル危險ニ對シテハ明約ヲ以テ引受ケタルニ非サルハ保險ノ責ニ任スルコト無シ

第六百五十三條 保險者ハ被保險者カ契約取結ノ際重要ナル情況ニ付キ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其情況ヲ默スルトキハ惡意アリタルト否トチ間ハス契約ヲ解ク權利アリ但被保險者カ保險者ノ總テノ間ニ對シテ其知ル所ヲ竭シ且善意ニテ答ヘタルトキハ過失ナキモノト看做ス然レトモ保險者ノ有スル解約ノ權利ハ此カ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第六百五十四條 契約取結ノ後被保險物ニ付キ情況ノ變更カ發生シタル爲メ其引受ケタル危險ノ増加シ若クハ變更スル場合又ハ保險料ノ支拂ニ付キ明示若クハ默示ノ延期ナキトキ契約上又ハ慣習上ノ期間ニ受取證書ト引換ニテ其支拂ヲ求ムルモ仍ホ之ヲ得サル場合ニ於テハ保險者ハ其契約ニ羈束セラレルコト無シ但孰レノ場合ニ於テモ保險者其契約ヲ繼續スルトキハ此限ニ在ラス

保險料ノ支拂ハ第六百四十條及ヒ第六百四十一條ノ場合ト雖モ被保險者又ハ其權利承繼人之ヲ爲スコトヲ得

第六百五十五條 契約ハ保險シタル危險カ被保險者ニ對シテ生ス可キニ至ラサルトキハ被保險者ヲ羈束セス然レトモ危險ノ減少又ハ其期間ノ短縮ノ爲メ保險料ヲ分割スルコトヲ得ルハ保險料支拂期間二回以上ノ保險料ヲ前拂シタルトキニ限ル

保險料支拂期間ハ一箇年タルヲ通例トス

第六百五十六條 當事者ノ一方カ保險ノ存續中ニ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ他ノ一方ハ契約ヲ解キ又ハ其履行ニ付キ擔保ヲ求ムルコトヲ得

第六百五十七條 契約カ被保險者ノ過失ナクシテ無効タリ又ハ任意ニ解カルルトキハ保險者ニ對シテ危險ノ生ス可キニ至ラサル場合ニ在テハ既ニ支拂ヒタル保險料ノ全部ヲ被保險者ニ償還シ又重複保險若クハ超過保險ノ場合、被保險利益ノ減少ノ場合又ハ其他ノ事由ニ因レル場合ニ在テハ現保險料支拂期間ノ爲メ既ニ支拂ヒタル保險料ヲ危險減少ノ割合ニ應シテ被保險者ニ償還スルコトヲ要ス但慣習上保險者カ受ク可キモノヲ扣除ス

第六百五十八條 保險者ハ被保險者ニ被保險額ヲ支拂ヒタルトキハ損害ノ生シタル爲メ被保險者カ第三者ニ對シテ有スル請求權ヲ當然取得シ殊ニ債權ノ保險ノ場合ニ於テハ債務者ニ對スル債權者ノ權利ヲ當然取得ス但其支拂ヒタル額ヲ限トス

第六百五十九條 社員相互ノ保險ヲ目的トシテ設立シタル會社ニ在テハ社員ノ權利及ヒ義務殊ニ保險料ノ支拂、追拂、會社負債ノ支拂、會社利益ノ分配及ヒ計算書ノ提出ニ關スルモノハ其會社ノ契約若クハ定款ニ從ヒ其不十分ナル場合ニ在テハ本法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム

第二節 火災及ヒ震災ノ保險

第六百六十條 動産又ハ不動産ハ賃借人、用益者若クハ受託者其他ノ資格ヲ以テ之ヲ占有シ又ハ保管スル者ニ於テ自己ノ利益ニテモ所有者ノ利益ニテモ自己及ヒ所有者ノ利益ニテモ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得但孰レノ利益ニテ保險ニ付シタルカニ付キ疑アルトキハ自己ノ利益ニテ保

險ニ付シタルモノト看做ス

自己ノ利益ニテ保險ニ付シタル場合ニ在テハ第一ニ被保險者自己ノ損害ニ充テシカ爲メ次ニ所有者ニ對スル自己ノ責任ニ充テシカ爲メ保險ニ付シタルモノト看做ス其責任ニ充ツル被保險額ノ部分ニ對シテハ被保險者ノ債權者ハ總テ請求權ヲ有セス
所有者又ハ其他ノ者ノ損害賠償ノ要求ニ充テシカ爲メ保險ニ付シタル場合ニ於テハ第六百三十九條ニ依リ自己ノ保險者ト看做ス可キトキト雖モ其被保險額ヲ限トシテ保險者獨リ全部ノ損害ヲ負擔ス

第六百六十一條 不動産ノ保險ニ在テハ法律、命令其他ノ成規又ハ契約ニ依リテ被保險者ニ毀滅シ若クハ破損シタル物ノ再築若クハ修繕ヲ爲ス義務アルトキハ保險者ハ被保險者若クハ其權利承繼人ノ此義務ヲ履行ス可キ期間ヲ定メシテ裁判所ニ申立テ又其再築若クハ修繕ノ實施ヲ監視シ及ヒ其工事ノ捗ル割合ニ應シテ被保險額ヲ支拂フコトヲ得
又保險者ハ契約ニ依リ被保險額ノ割合ニ應シ自費ヲ以テ再築若クハ修繕ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六百六十二條 動産ハ各箇ニ又ハ包括シテ保險ニ付スルコトヲ得包括シテ保險ニ付シタル場合ニ在テハ保險ノ存續間其包括中ノ各部分ヲ増減シ又ハ他ノ物ヲ以テ其全部若クハ一分ニ代フルトキト雖モ保險ニハ影響ヲ及ボスコト無シ
家屋内ニ備在ル動産一切ノ保險ハ現貨、寶玉、證書、有價證券及ヒ稿本其他普通價額ヲ有セサル物ヲ包含セス但反對ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十三條 動産ノ保險ハ保險證券ニ記載シタル住居其他ノ場所ニ關シテノミ效力ヲ有ス

然レトモ其契約ハ被保險物ヲ一在保險外ノ場所ニ移シタルモ此カ爲メニ解止セラレルコト無シ
第六百六十四條 自燃又ハ爆發ノ危險アル物ニ付テハ被保險者カ契約上若クハ相當ノ豫防處分ヲ爲ササルトキニ限リ第六百三十五條ノ規定ヲ適用ス

第六百六十五條 火災カ被保險者ノ方ニ起リタルト近傍ニ起リタルトナ間ハス消防若クハ救済ノ處分又ハ竊盜其他類似ノ事由ニ因リテ被保險者ニ加ヘタル損害モ火災損害ト看做ス
第六百六十六條 雷電ノ危險、火藥若クハ機關ノ破裂ノ危險、火藥若クハ機關ニ原因スル破裂ノ危險其他類似ノ危險及ヒ震災ノ危險ハ同時ニ火災ノ起リタルト否トナ間ハス之ヲ火災ノ危險ト同視ス但他ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第三節 土地ノ產物ノ保險

第六百六十七條 土地ノ果實其他ノ天產物ノ保險ハ強雨、洪水、旱魃、暴風雨ノ如キ人ノ力ト注意トヲ以テ防ク能ハサル非常ノ天災ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

保險シタル危險ハ保險證券ニ逐一明記スルコトヲ要ス

第六百六十八條 保險ハ一箇年間效力ヲ有ス但更ニ短キ期間ヲ約定シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十九條 損害ノ生シタル場合ニ在テハ保險シタル產物カ其損害ナク成熟シタル現狀ニ於テ有シタル可キ價額ト其災害ノ後ニ有スル價額トノ間ノ差額ヲ被保險額ノ割合ニ應シテ被保險者ニ償フ但被保險額カ成熟シタル現狀ニ於テ有シタル可キ價額ヲ超過セサルトキニ限ル

第六百七十條 保險者ハ損害ノ額カ其損害ノ生スルニ非サレハ產物ノ有シタル可キ價額ノ少ナクトモ四分一ニ滿タサルトキハ其責ニ任セス

第四節 運送保險

第六百七十一條 運送中ニ在ル物ハ運送人ヨリ又ハ其物ノ到達地ニ安著スルコトニ付キ利益ヲ有スル各人ヨリ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得

第六百七十二條 保險者ハ運送品ノ保險ニ因リ運送ノ期間中其物ノ喪失若クハ毀損ノ各危険ヲ引受ク其危険中ニ火災、盜難、敵ノ威力及ヒ此類ノモノヲモ包含ス但或ル危険ヲ明示シテ取除キタルトキハ此限ニ在ラス

運送ノ期間ハ別段ノ契約アルニ非サレハ運送人ニ物ノ交付ヲ始ムル時ヨリ受取人ニ其引渡ヲ終フル時マテトス

第六百七十三條 運送ノ期間中運送品ヲ讓渡シタルトキハ保險ハ第六百四十條ノ規定ニ從ヒテ讓渡人ヨリ新取得者ニ移ル

第六百七十四條 保險證券ヲ以テ保險シタル以外ノ喪失若クハ損害カ運送品ニ生スルトキハ其例外タル證據ヲ舉クル義務ハ保險者ニ在リトス

第六百七十五條 價額ヲ保險證券ニ記載セサル場合ニ於テ損害ノ價額ヲ評定スルニハ最初ノ代價及ヒ其附帶ノ費用ヲ標準トス若シ之ヲ知ル能ハサルトキハ積込ノ地及ヒ時ニ於ケル普通價額若クハ市場價額ニ諸稅、保險費用、積込費用及ヒ被保險者ノ負擔ニ歸スル運送費用ヲ合算シタルモノヲ標準トス

第六百七十六條 保險證券ニハ第六百四十六條ニ掲ケタル諸件ノ外尙ホ運送ノ方法、運送具ノ種類、運送取扱人及ヒ運送人ノ氏名、運送ノ線路及ヒ發送地並ニ到達地ヲ逐一記載シ且立寄地アルトキハ其地又運送期間ノ約定アルトキハ其期間ヲ掲グルコトヲ要ス
保險證券ハ反對ノ明約アルニ非サレハ其證券ニ掲ケタル運送期間若クハ通常ノ運送期間ヲ踰越

シ其他前項ニ掲ケタル保險證券ノ條件ニ違反シタルカ爲メニ無効ト爲ルコト無シ但其踰越又ハ違反ニ因リ運送取扱人若クハ運送人ニ對シテ生シタル被保險者ノ請求權ハ保險者ニ移ル

第五節 生命保險、病傷保險及ヒ年金保險

第六百七十七條 人ノ生命又ハ健康ハ終身其他或ル期間中之ヲ保險ニ付スルコトヲ得

第六百七十八條 何人ニテモ自己ノ生命若クハ健康ヲ保險ニ付スルコトヲ得又保險ニ付セントスル時ニ於テ他人ノ生命若クハ健康ニ付キ財産上ノ利益ヲ有スル者ハ其他人ノ生命若クハ健康ヲ保險ニ付スルコトヲ得

配偶者、兄弟姊妹、尊屬親及ヒ卑屬親ノ生命若クハ健康ニ關スル相互ノ利益ニ付テハ證據ヲ舉グルコトヲ要セス

第六百七十九條 他人ノ生命又ハ健康ノ保險ノ有效ナルニハ其人ノ承諾又ハ了知ヲ要セス

第六百八十條 被保險額ハ其支拂フ可キニ至リタルトキ直チニ被保險者又ハ保險證券ニ依リテ保險ノ爲メ益ヲ受クル者又ハ被保險額請求權ノ轉付ヲ受ケタル者ニ之ヲ支拂フコトヲ要ス

被保險者ノ死亡ニ因リ被保險額ヲ支拂フ可キニ至リタル場合ニ於テ其被保險額ヲ受ク可キ人カ其際存在セサルトキハ其被保險額ハ死亡者ノ遺産ノ一分トシテ之ヲ處分スルコトヲ要ス

第六百八十一條 他人ノ生命又ハ健康ハ其人ノ爲メ又ハ第三者ノ爲メ契約上ノ義務ニ依リテ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得

第六百八十二條 保險ハ左ノ場合ニ於テハ無効トス

第一 保險シタル死亡又ハ病傷カ保險契約取結ノ際既ニ生シタルトキ但保險申込人カ其事ヲ知ラサルトキハ此限ニ在ラス

第二 生命若クハ健康ヲ保險ニ付シ又ハ付セシメタル者カ契約上負擔シタル義務ニ違反シ又ハ放蕩、粗暴其他故意ノ所爲ニ因リテ生命ヲ短縮シ若クハ健康ヲ毀損シタルトキ

第三 死亡若クハ病傷カ重罪若クハ輕罪ニ付テ有罪判決ノ執行ニ因リ若クハ其執行中ニ生シ又ハ重罪若クハ輕罪ヲ犯シタル直接ノ結果トシテ生シ又ハ決闘其他故意ノ所爲ニ因リテ生シタルトキ

第六百八十三條 總テ保險無効ノ場合ニ於テハ保險契約ヲ以テ此場合ノ爲メニ約定シタル額若シ約定ナキトキハ少ナクトモ被保險者ノ爲メニ既ニ積立テタル貯金ノ半額ヲ被保險者ニ償還スルコトヲ要ス但被保險者カ詐欺若クハ惡意ニ因リテ自ラ無効ニ至ラシメタルトキハ此限ニ在ラズ

第六百八十四條 契約ノ無効ハ保險者カ契約ノ無効ヲ致ス情況ヲ知リタル後尙ホ契約ヲ被保險者ト繼續シタルトキハ保險者ヨリ被保險者ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第六百八十五條 死亡若クハ病傷ノ時ノ外尙ホ契約ニ依リ或ル年齢若クハ期限ニ至リタル時ヲ以テ被保險額支拂ノ時ト爲スコトヲ得又被保險額ノ支拂ニ換ヘテ年金ノ支拂ヲ約定スルコトヲ得

第六百八十六條 年金保險ハ保險者カ或ル金額ヲ受取リテ被保險者ニ又ハ其死亡ノ後ハ其保險ニ與カリタル人ニ終身間又ハ或ル期間ノ滿了ニ至ルマテ年金ヲ支拂フ義務ヲ負フ契約タリ

第六百八十七條 年金受取ノ權利ハ被保險者ニ屬スルト同一ノ範圍及ヒ條件ニテ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ被保險者ヨリ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得

第六百八十八條 總テ生命保險、病傷保險及ヒ年金保險ノ場合ニ於テハ被保險者若クハ其權利承繼人ハ正當時期ニ豫告ヲ爲シタル後保險契約ニ從ヒ若クハ第六百八十三條ニ從ヒ自己ニ屬スル償還金ヲ受ケテ契約ヲ解除スル權利ヲ有シ又ハ豫告ヲ以テ償還ヲ求ムルコトヲ得ヘキ利息附ノ

預ケ金ニ其契約ヲ變換スル權利ヲ有ス

保險料ノ不拂ハ保險者ニ於テ之ヲ契約解除ノ豫告ト看做スコトヲ得

第六節 保險營業ノ公行

第六百八十九條 保險會社ハ官許ヲ受クルニ非サレハ其營業ヲ爲スコトヲ得ス

第六百九十條 保險會社ハ保險料其他ノ收入金ノ中ヲ以テ年年積立ヲ爲シ何時ニテモ年年支拂フ可キ被保險額ノ少ナクトモ平均二倍ニ滿ツル準備金ヲ設クル義務アリ此準備金ハ十分安全ニ利用シ其證券ヲ裁判所ニ寄託スルコトヲ要ス但之ヨリ生スル收入ハ會社ニ歸ス

第六百九十一條 保險會社ハ少ナクトモ毎年一回其年ノ收支一覽表及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ公告シ且各社員及ヒ各被保險者ニ送達スル義務アリ

第六百九十二條 裁判所ハ何時ニテモ被保險者ノ申立ニ因リ保險會社ノ保險業ノ現況、取引ノ實況、貸借ノ關係及ヒ會社カ保險業ヲ營ム原則ヲ一人若クハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ検査セシメ其検査ノ結果ヲ被保險者ニ通知シ且公告スル權アリ其検査及ヒ公告ノ費用ハ裁判所ノ見込ヲ以テ右申立ヲ十分ノ理由アリトスルトキハ保險會社之ヲ負擔ス

行政官廳ハ亦其職權ヲ以テ検査ヲ行フコトヲ得

第六百九十三條 一部類ノ保險業ノ外ニ尙ホ他ノ部類ノ保險業ヲ營ム會社ハ各部類ノ保險業ヲ各別ニ營ミ又其各部類ニ生スル收入ハ專ラ其部類ノ爲メニ之ヲ積立テ及ヒ使用スルコトヲ要ス此規定ハ保險會社ノ破産ノ場合ニモ之ヲ適用ス其殘餘ノ財團ハ第千四十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分配スヘシ

保險業ノ外ニ他ノ業ヲ營ム會社ハ亦前項ニ準ス

第六百九十四條 保險會社カ第六百九十條乃至第六百九十三條ノ規定ニ背クトキ又ハ被保險者總員ノ承諾ヲ得スシテ同業者クハ他業ノ會社ト合併スルトキ又ハ被保險者ニ告知シタル保險業ノ原則ヲ變更シ若クハ事實上之ヲ犯ストキハ各被保險者ハ豫告ヲ爲スコト無クシテ何時ニテモ保險ヲ解止シ其拂込ミタル現支拂期間ノ保險料總額ノ償還及ヒ拂込ミタル日ヨリノ法律上ノ利息ヲ求ムル權利アリ

第六百九十五條 保險會社カ將來ノ義務ヲ履行スル能ハスト豫知ス可キ取引ノ實況ニ至リタルトキハ其會社カ未タ支拂ヲ停止セスト雖モ被保險者ハ被産宣告ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

第六百九十六條 保險會社ニシテ其本店ノ所在地外ニ於テ代辦人ヲ以テ保險契約ヲ取結フ者ハ其代辦人ニ與ヘタル權限ノ如何ニ拘ハラズ其契約ニ關シテハ代辦人ノ營業所ノ地ヲ管轄スル裁判所ノ裁判權ニ服從シ且其裁判所ニ差出ス可キ裁判上ノ代人ヲ定置ク義務アリ若シ之ヲ定置カサルトキハ其代辦人ヲ裁判上ノ代人ト看做ス

第六百九十七條 第六百四十五條ノ規定ニ從ヒ獨立シテ保險契約ヲ取結フ爲メ内國ニ置キタル外國保險會社ノ代辦店ハ之ヲ支店ト看做シ支店ニ關スル一般ノ規定及ヒ本節ノ規定ヲ適用ス

第六百九十八條 本節ノ規定ハ一個人又ハ組合ニシテ保險營業ヲ爲スモノニモ之ヲ適用ス

第十二章 手形及ヒ小切手

總則

第六百九十九條 手形ハ或ル金額カ支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信用證券アリ

手形ニハ條件ヲ付スルコトヲ得ス

第七百條 商ヲ爲スコトヲ得ル各人ハ爲替義務ヲ負フコトヲ得

第七百一條 手形ニ爲替無能力者ノ署名アルモ其他ノ署名ノ效力ハ此カ爲ニ妨ケラレルコト無シ

第七百二條 手形ノ要件ヲ外觀ノ爲メニノミ記入シタル手形ハ其情ヲ知りタル者ノ爲メニハ之ヲ手形ト看做サス

第七百三條 他人ヨリ特ニ委任ヲ受クルコト無ク又ハ代理ノ事實ヲ明記スルコト無クシテ他人ノ爲メニ手形ニ署名スル者ハ此ニ因リテ自己ニ責任ヲ負フ

第七百四條 手形ノ受取人ハ直チニ振出人ニ對シ又其後ノ各所持人ハ其前者ヲ經由シテ振出人ニ對シ番號ヲ記シタル同文ノ手形數通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

手形ノ各所持人ハ需用ニ應シテ自ラ手形ノ贈本ヲ作ルコトヲ得

第七百五條 手形ハ其文言ニ因リテ直接ニ義務ヲ負ハシム但法律又ハ商慣習ニ依リテ例外ト爲ス可キモノハ此限ニ在ラス

第七百六條 法律上ノ要件ヲ掲ケタル手形又ハ其要件ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケタル手形又ハ文言カ互ニ抵觸シ其抵觸ヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クコトヲ得サル手形ハ無効アリ

第七百七條 手形上ノ重要ナラサル附記ハ法律上ノ要件ニ適スル手形ノ文言ノ效力ヲ妨グルコト無ク又爲替上ノ義務ヲ生セシムルコト無シ

第七百八條 偽造又ハ變造ノ手形ハ手形トシテ其效ヲ有ス然レトモ偽造、變造ニ因リテ義務ヲ生スルコト無シ但一旦生シタル義務ハ變更セサルモノトス

偽造、變造ニ付テノ異議ハ其偽造變造ヲ爲シタル者又ハ其情ヲ知りテ手形ヲ取得シタル者ニ對シテ之ヲ起スコトヲ得

第七百九條 爲替義務ハ其負擔ニ關シテハ手形ニ記載シタル地ノ法律ニ從ヒ若シ其地ヲ記載セサルトキハ債務者ノ住所ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定メ又其履行ニ關シテハ履行ヲ爲ス可キ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定ム

爲替上ノ權利ヲ行使シ及ヒ保全スル爲メニスル行爲ハ其行爲ノ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス但手形ニ其他ノ地ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十條 手形又ハ小切手ノ占有者ニシテ正當ノ方法ニ依リ且甚シキ怠慢ニ出テスシテ之ヲ取得シタル者ハ其手形又ハ小切手若クハ其代金ノ引渡ノ請求ニ應スル義務ナシ但其占有ノ原因消滅シタルトキハ此限ニアラス

第七百十一條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル手形及ヒ小切手ニ付テハ第四百三條ノ規定ヲ適用ス

第七百十二條 爲替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル爲替上ノ請求權ハ滿期日ヨリ三箇年ヲ以テ時効ニ罹リ又所持人若クハ裏書讓渡人ヨリ振出人若クハ前裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ハ請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三箇年ヲ以テ時効ニ罹ル

時効ハ訴ヲ判シ其他各箇ノ裁判上ノ手續ヲ爲スニ因リテ中斷セラレ又裁判所ノ判決ニ依リ又ハ書面ニ明示シテ債務ヲ承認シ新債務ト爲シタルニ因リテ消滅ス

第七百十三條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ時効ハ呈示ニ付キ規定セラレタル期間ノ滿了ヨリ始マル但其滿了前ニ呈示ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 手形ヨリ生スル請求權時効ニ因リ又ハ法律ニ規定シタル行爲ヲ怠リタルニ因リテ失ヒタル者ハ其失ヒタルニ拘ハラズ支拂人、振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等ノ者カ支拂ハ

サル爲替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ因リテ己レナ利シタル限度ニ於テ右請求權ヲ主張スルコトヲ得第七百十一條ノ場合ニ係ルモノト雖モ亦同シ

第七百十五條 總テ手形ニ署名ヲ爲シタル者ハ此ニ因リ連帶シテ義務ヲ負擔ス然レトモ此連帶義務ハ各義務者ニ於テ特立ノモノトス

爲替ノ訴ハ其總員ニ對シ又ハ其一人ニ對シテ之ヲ起スコトヲ得

第一節 爲替手形

第一款 振出

第七百十六條 爲替手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 爲替金額但文辭ヲ以テ記スコシ

第三 支拂人ノ氏名

第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及ヒ滿期日並ニ支拂地

第五 振出人ノ署名、捺印

第七百十七條 振出人ハ爲替手形ヲ自己ノ指圖ニテ振出シ又ハ自己ニ宛テ振出スコトヲ得

第七百十八條 爲替手形ノ金額二十五圓以上ナルトキハ無記名式ニテ振出スコトヲ得

第七百十九條 滿期日ハ定マリタル日又ハ日附ノ後定リタル期間又ハ一覽ノ時又ハ一覽後定マリタル期間ニ於テノミ之ヲ定ムルコトヲ得

第七百二十條 爲替手形ニ滿期日ヲ記載セサルトキハ其手形ハ一覽ノ時ニ滿期ト爲ル

第七百二十一條 支拂人ノ住地又ハ其他ノ地(他所拂爲替手形)ハ支拂地トシテ之ヲ記載スルコトヲ得他ノ地ヲ記載シタル場合ニ在テ爲替手形ニ支拂ノ爲メ他人(他所拂人)ヲ明記セサルトキハ支拂人ハ其記載シタル地ニ於テ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第二款 裏書

第七百二十二條 爲替手形ノ受取人及ヒ其後ノ各所持人ハ若シ其手形ニ反對ヲ明記セサルトキハ裏書ヲ以テ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得

第七百二十三條 裏書ニハ其年月日、場所、裏書讓渡人ノ署名、捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要ス然レトモ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テモ亦裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十四條 裏書ニハ其日ヨリ前ノ日附ヲ爲スコトヲ禁ス之ニ違フトキハ偽造ノ刑ニ處ス

第七百二十五條 無記名式ニテ振出シ又ハ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ交付ノミヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得

第七百二十六條 爲替手形ハ滿期後ト雖モ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得又代理若クハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十七條 支拂ノ爲メニスル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ事情ニ因リテ正當時期内ニ爲スコトヲ得サル爲替手形ノ裏書讓渡ハ滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ニ同シ

第七百二十八條 滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ハ其裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ノミヲ裏書讓渡人ニ轉付スルモノトス然レトモ裏書讓受人ハ滿期後ニ爲替手形ノ裏書讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シテ如何ナル方式ニモ羈束セラレズ且獨立シタル償還請求權ヲ取得ス

第七百二十九條 代理ノ爲メ又ハ擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ハ其目的ヲ爲替手形ニ記載セサルト

キハ第三者ニ對シテ眞ノ裏書讓渡ナリ

第七百三十條 代理ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書讓受人ハ裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ヲ行フ但特別ノ記載アルニ非サレハ眞ノ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第七百三十一條 擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書讓受人ハ裏書讓渡人ト同一ノ權利義務ヲ行フ但債權ノ辨濟ヲ受ケル場合ノ外眞ノ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第七百三十二條 裏書讓渡ハ各裏書讓渡人ノ順序カ裏書讓受人ニ至ルマテ間斷ナキトキニ限り裏書讓受人ノ爲メ效力アリ但代理又ハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ裏書讓渡人ニ於テ更ニ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百三十三條 裏書讓渡ノ法律上ノ效力ハ爲替手形ニ裏書讓渡ヲ禁スル旨ヲ記載シタルカ爲メ之ヲ失フコト無シ但之ヲ禁シタル者ニ對スル償還請求權ハ此カ爲メニ消滅ス

第三款 引受

第七百三十四條 爲替手形ノ所持人ハ其手形ニ別段ノ記載ナキトキハ滿期日前ニ引受ノ爲メ支拂人ニ之ヲ呈示スルコトヲ得若シ支拂人其引受ヲ爲ササルトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

振出人ハ所持人ニ於テ引受ノ爲メ其手形ノ呈示ヲ爲ス可ク若シ爲ササルトキハ償還請求權ヲ失フ可キ旨ヲ記スルコトヲ得此場合ニ於テ支拂人引受ヲ爲ササルトキハ其翌日拒證書ヲ作ルヘシ

第七百三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ別ニ短キ呈示期間ノ記載ナキトキハ日附後遅クトモ二箇年内ニ引受ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ之ヲ呈示セサルトキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

支拂人カ方式ニ依レル引受ヲ拒ミ若クハ引受ノ日附ヲ爲スコトヲ拒ムトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得此場合ニ於テハ拒證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス若シ拒證書ヲ作ラサルトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス但其翌日迄ニ拒證書ヲ作ラサルトキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ擔保ヲ求ムルコトヲ得ス

第七百三十六條 引受ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取りタルト否トナ間ハス爲替手形ノ所持人ニ對シテ滿期日ニ爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ支拂人ニ負ハシム又所持人ニ引受ノ旨ヲ記シタル爲替手形ヲ還付シタル後ハ強暴又ハ詐欺ノ場合ヲ除ク外之ヲ取消スコトヲ得ス

第七百三十七條 引受ハ支拂人カ爲替手形ニ引受ノ旨ヲ記シ署名、捺印ヲ爲シ又ハ署名、捺印ノミヲ爲スニ因リテ成ル此方式ニ依ラサル引受ノ效力ハ第八百五條ノ規定ニ從フ

第七百三十八條 即日ニ引受ヲ爲サス又ハ條件若クハ其他ノ制限ヲ以テ之ヲ爲シタルトキハ引受人ハ其引受ノ爲メ當然羈束セラルルモ所持人ハ又拒ミタリト看做スコトヲ得若シ爲替金額ノ一分ニ付テノミ引受ヲ爲シタルトキハ他ノ部分ニ付テハ其引受ヲ拒ミタリト看做ス

第七百三十九條 所持人ノ引受ノ拒證書ヲ作リタルトキハ其作成ヲ遅延ナク振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知ス可シ

右ノ通知ヲ爲シタル所持人ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シテ爲替金額及ヒ拒證書ノ費用並ニ戻爲替ノ費用ヲ滿期日ニ支拂フコトニ付テノ擔保ヲ求ムル權利ヲ有シ各裏書讓渡人ハ自ラ擔保ヲ爲シタルト否トナ間ハス前者ニ對シテ右同一ノ權利ヲ有ス但拒證書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ擔保ヲ供スル義務ナシ
當事者ノ一方カ爲シタル通知及ヒ其受ケタル擔保ハ其後者總員ノ爲メニモ效力アリ

第七百四十條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲ爲スニ換ヘテ前條ニ掲ケタル一切ノ金額ヲ即時ニ所持人ニ支拂ヒ又ハ即時ニ供託所ニ寄託スルコトヲ得

第七百四十一條 擔保又ハ寄託ハ後ニ至リ爲替手形ノ引受アリタルトキ又ハ爲替金額若クハ償還金額ノ支拂アリタルトキ又ハ所持人カ時効若クハ懈怠ニ因リテ爲替手形上ノ權利ヲ失ヒタルトキハ其生シタル費用ヲ引去リテ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第七百四十二條 第七百四十條ノ規定ニ從ヒテ爲替金額及ヒ費用ヲ所持人ニ支拂ヒタル者ハ其所持人ニ對シテ裏書讓渡ヲ求メ且爲替手形ト共ニ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第四款 榮譽引受

第七百四十三條 支拂人カ引受ヲ拒ミタル爲替手形ニ同地ニ於ケル豫備支拂人ヲ掲ケタルトキハ其爲替手形ヲ拒證書ト共ニ引受ノ爲メ遅延ナク豫備支拂人ニ呈示ス可シ

第七百四十四條 豫備支拂人ヲ掲ケサルトキト雖モ支拂人及ヒ第三者ハ拒マレタル爲替手形ヲ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メニ引受クルコトヲ得然レトモ所持人ハ此ノ如キ參加ヲ許諾スル義務ナシ

第七百四十五條 二人以上ノ參加人アルトキハ最モ多數ノ義務者ノ榮譽ノ爲メニ引受ヲ爲ス者ヲ以テ榮譽引受人トス若シ榮譽者ヲ記載セサルトキハ振出人ヲ榮譽者ト看做ス

第七百四十六條 豫備支拂人ノ引受其他所持人カ許諾シタル參加人ノ引受ハ榮譽者及ヒ其後者ニ擔保ヲ供スル義務ヲ免カレシム

第七百四十七條 榮譽引受ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキニ於テ參加人ニ滿期後爲替金額ヲ支拂

フ義務ヲ負ハシム

第七百四十八條 榮譽引受ハ參加人爲替手形ニ之ヲ記載シテ署名、捺印シ且拒證書若クハ其附箋ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七百四十九條 拒證書ハ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ參加人ニ交付シ參加人ハ遅クトモ拒證書作成ノ翌日受榮譽者ニ榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知シテ拒證書ヲ送付スルコトヲ要ス若シ此事ヲ怠ルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第七百五十條 受榮譽者及ヒ其前者ハ擔保ヲ求ムル權利ヲ有ス然レトモ所持人ハ第七百四十四條ニ依リテ榮譽引受ヲ許諾セサルトキニ非サレハ之ヲ有セス

第五款 保證

第七百五十一條 爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ニ自己ノ署名ヲ添フル第三者ハ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負フ

第七百五十二條 前條ノ義務ヲ負擔スルニハ別ニ書面上ノ陳述ヲ以テスルコトヲ得

第七百五十三條 爲替保證ノ義務ハ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得然レトモ其制限ハ契約ヲ爲シタル當事者間ニノミ效力アリ

第六款 支拂

第七百五十四條 爲替金額ハ爲替手形ニ記載シタル貨幣ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ若シ特ニ貨幣ノ種類ヲ表示セサルトキハ支拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂ヲ爲ス意思ナリト推定ス
第七百五十五條 支拂ハ第七百七十八條ノ場合ヲ除ク外ハ支拂人カ引受ヲ爲シタルト否トナ問ハス満期日ニ支拂人ノ方ニテ之ヲ受ケルモノトス

支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス然レトモ其地慣習ノ支拂日ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第七百五十六條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其後ノ業日ヲ以テ支拂日トス

第七百五十七條 一覽拂爲替手形ハ呈示ノ日ニ満期ト爲ル若シ日附後二箇年内ニ呈示ヲ爲ササルトキ又ハ二箇年内ノ呈示期間ヲ其手形ニ定メサルトキハ日附後二箇年ヲ以テ満期ト爲ル若シ正當ノ時期ニ呈示ヲ爲ササルトキハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第七百五十八條 債權者カ爲替金額ヲ満期日ニ受取ラサルトキハ支拂人ハ債權者ノ費用及危險ニテ其金額ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ得此場合ニ於テ支拂人ハ甚シキ怠慢ニ付テノミ責任ヲ負フ

第七百五十九條 債權者ハ満期日前ニ支拂ヲ受ケル義務ナシ若シ満期日前ニ支拂ヲ爲シタルトキハ債務者其危険ヲ負擔ス

第七百六十條 債務者ハ満期ノ時又ハ後ニ所持人ニ支拂ヲ爲スヲ以テ其ノ責ヲ免カル但其ノ際債務者ニ甚タシキ怠慢アリタルトキハ此ノ限ニアラス

第七百六十一條 支拂ハ受取證ヲ記シタル爲替手形ノ交付ト引換ニ非サレハ之ヲ受ルコトヲ得ス債權者ハ一分ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス但一分ノ支拂ノ場合ニ在テハ爲替手形ニ其支拂ヲ記入シ且其支拂ニ付テノ則段ノ受取證ヲ債務者ニ交付ス可シ

第七百六十二條 爲替手形ヲ數通ニシテ振出シタルトキハ債務者ハ其中ノ孰レニ依リテ支拂ヲ爲スモ此ニ因リテ其責ヲ免カル然レトモ裏書アル一通又ハ支拂人ノ引受ヲ記シタル一通ヲ所有者トシテ占有スル第三者ノ權利ヲ妨ケス

第七百六十條及ヒ第七百六十一條ノ規定ハ一爲替手形ノ數通ノ引渡及ヒ喪失ニモ之ヲ適用ス
第七百六十三條 引受人ハ一爲替手形ノ數通中ニテ其引受ヲ記セサルモノニ對シテハ擔保ヲ供セ

シメタル上ニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ引受ヲ記シタル爲替手形敷通アル場合ニ在テハ之ヲ合シテ引渡ササルトキモ亦同シ若シ擔保ノ提供ヲ爲スニ拘ハラズ引受人カ支拂ヲ拒ムトキハ所持人ハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百六十四條 満期ノ時又ハ後ニ於テ爲替手形上ノ正當ノ所持人ニ爲ス支拂ハ其所持人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ第七百十條及ヒ第七百一十一條ノ場合ニ限り裁判上ノ命令ヲ以テノミ之ヲ差押フルコトヲ得

第七百六十五條 支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故障又ハ債務者ノ知ラサル人ニ爲ス支拂ニ付テハ第四百條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第七百六十六條 第七百十條及ヒ第七百一十一條ノ場合ニ在テハ爲替手形ニ付キ自己ノ所有權ヲ疏明シ且裁判所ノ命令ヲ得タル者ハ判決ノ確定前ニ擔保ヲ供シテ爲替金額ノ支拂ヲ求メ又ハ擔保ヲ供セスシテ爲替金額ヲ供託所ニ寄託スルヲ求ムルコトヲ得此寄託ノ場合ニ在テモ第七百五十八條ノ規定ヲ適用ス

第七百六十七條 支拂人カ正當ノ理由ナクシテ満期日ニ爲替金額ノ支拂又ハ寄託ヲ拒ムトキハ所持人ハ其次ノ業日ニ拒證書ヲ作り且所持人カ償還請求ヲ爲サント欲スル者ニ拒證書ノ作成ヲ通知スルコトヲ要ス然レトモ所持人ハ爲替手形ニ明記アルニ因リテ拒證書作成ノ義務ヲ免カルルコトヲ得

第七款 榮譽支拂

第七百六十八條 拒マレタル爲替手形ハ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メ榮譽引受人、支拂人又ハ第三者之ヲ支拂フコトヲ得

第七百六十九條 豫備支拂人其他ノ參加人ノ引受ヲ記シタル爲替手形ハ拒證書作成ノ後直チニ榮譽引受人ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ

第七百七十條 榮譽支拂者クハ其拒絶又ハ其提供ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ支拂拒證書又ハ其附箋ニ記載ス可シ
其拒證書ハ爲替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ榮譽支拂人ニ交付ス

第七百七十一條 榮譽支拂人ハ引受人、振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ所持人ノ權利ヲ承繼ス但
其權利ヲ主張スルニハ所持人ト同一ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス

第七百七十二條 榮譽支拂ハ受榮譽者ノ後者總員ヲシテ責ヲ免カレシム
第七百七十三條 榮譽支拂ヲ提供スル者二人以上アルトキハ支拂人ヲ以テ榮譽支拂人トシ之ニ次
テハ最モ多數ノ義務者ヲシテ責ヲ免カレシムル者ヲ以テ榮譽支拂人トス

第七百七十四條 所持人ハ榮譽支拂ヲ受クルコトヲ拒ムニ因リテ受榮譽者及ヒ其後者ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第八款 償還請求

第七百七十五條 支拂人カ満期日ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササルトキハ所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ爲替金額及ヒ其利息並ニ不拂ニ因リテ生シタル一切ノ費用ニ付キ償還請求權ヲ有ス

第七百七十六條 所持人ハ爲替手形ヲ満期日ニ支拂ノ爲ニ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲ササルトキハ満期日ノ次ノ業日ニ支拂拒證書ヲ作ル可シ但七百六十一條第二項ニ掲ケタル一分ノ支拂ノ場合ニ於テモ亦同シ

第七百七十七條 支拂拒證書ハ既ニ引受拒證書ヲ作りタルトキニモ債務者カ死亡シ又ハ破産者ク

ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ其所在ノ知レタルトキニモ之ヲ作ル可シ
第七百七十八條 引受人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ滿期日ニ於ケル呈示及ヒ拒證書ノ作成
ヲ要セス然レトモ他所拂爲替手形ハ他所拂人若シ他所拂人ノ記載ナキトキハ支拂人ニ其爲替手
形ヲ支拂フ可キ地ニ於テ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲ササルトキハ同地ニ於テ拒證
替ヲ作ル可シ

第七百七十九條 引受人カ破産者クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其他資力ノ確ナラサルニ至リタル場
合ニ於テ爲替支拂ノ爲メ十分ナル擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ滿期日前ニ支拂拒證書ヲ作リ
テ償還請求ヲ爲スコトヲ得

第七百八十條 所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ノ各員又ハ總員ニ對シ償還請求ヲ爲スコトヲ得
又償還請求ヲ受ケタル裏書讓渡人ハ其前者ニ對シテ同一ノ權利ヲ有ス

第七百八十一條 償還請求ヲ爲ス者ハ第七百三十九條ノ規定ニ依リテ引受拒證書作成ノ通知ヲ爲
シタルニ拘ハラス尙ホ其償還請求ヲ爲サント欲スル前者ニ書面ヲ以テ其請求及ヒ支拂拒證書作
成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス其通知ハ所持人ニ在テハ拒證書ヲ作リタル日ノ翌日、裏書讓渡人ニ
在テハ通知書ヲ受取リタル日ノ翌日之ヲ爲ス可シ但裏書讓渡人ノ通知ハ其後者ノ爲メニモ效力
アリ

第七百八十二條 前者ニ對シテ償還請求ヲ爲シタルモ此カ爲メニ其後者ハ償還義務ヲ免カレヌ
第七百八十三條 拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權ハ消滅セス然
レトモ此場合ニ於テ其免除ヲ爲シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ爲シタル者ニ對シ贖本ヲ以テ
爲替手形ノ送付ヲ爲スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第七百八十四條 償還請求ノ訴ハ償還請求權ヲ得タル者ヨリ償還請求ヲ受ク可キ者ニ對シ時効時
間中何時ニテモ之ヲ起スコトヲ得

第七百八十五條 償還請求權ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタリトノ抗辯ノ爲メニ效力ヲ失フニト
無シ然レトモ爲替資金ヲ供スル義務アル者ニ對シテハ其者カ爲替資金ヲ供セザリシトノ抗辯ヲ
爲スコトヲ得

第七百八十六條 償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

第一 爲替金額及ヒ滿期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息

第二 拒證書ノ費用其他必要ナル立替金

第三 戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用

第七百八十七條 償還請求權ヲ得タル者ハ償還義務者ニ對シ償還金額ヲ限リトシテ其動産ノ假差
押ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得然レトモ償還請求ノ訴ヲ十四日內ニ起ササルトキハ其差押ハ無
效ト爲ル

所持人ハ引受人ニ對シテ各同一ノ權利ヲ有ス

第七百八十八條 償還義務者ハ爲替手形拒證書及ヒ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ受クル
ニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ

第七百八十九條 爲替義務者ハ償還金額ノ支拂ト引換ニテ受取證ヲ記シタル爲替手形及ヒ支拂拒
證書ノ交付ヲ所持人ニ求ムル權利アリ

第九款 拒證書作成

第七百九十條 拒證書ハ裁判所ノ役員又ハ公證人之ヲ作ルモノトス若シ其地ニ此等ノ人ナキト

キハ被拒者ニ於テ證人二人ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ但其證人ハ成年ノ男子タルコトヲ要ス
 第七百九十一條 拒證書ハ拒者ノ營業場若シ營業場ナキトキハ其住居ノ内若クハ傍ニ於テ之ヲ作
 ル可シ但拒者不在ナルトキ又ハ臨席ヲ肯セス若クハ來入ヲ拒ムトキト雖モ亦同シ
 若シ已ムヲ得サル場合アルトキハ裁判所又ハ公證人役場ニ於テ拒證書ヲ作ルコトヲ得
 第七百九十二條 拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサル場合ニ於テ支拂地ノ官署ニ間合ヲ爲スモ尙ホ
 知ルコトヲ得サルトキハ拒證書ハ其官署内ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス
 第七百九十三條 法律上定メタル場所ノ外ニ於テモ拒者ノ承諾アルトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得
 第七百九十四條 一般ノ休日ニハ拒證書ヲ作ルコトヲ得然レトモ通常ノ取引時間外ニ於テ之ヲ
 作ルハ妨ナシ
 第七百九十五條 拒證書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス
 第一 爲替手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマテ遺漏ナク記載ス可シ
 第二 拒者ノ臨席又ハ不在
 第三 引受、支拂又ハ擔保ノ要求及ヒ拒絶並ニ拒絶ノ理由
 第四 右要求及ヒ拒絶ノ日並ニ場所
 第五 榮譽引受又ハ榮譽支拂アルトキハ其旨
 第六 年月日、場所及ヒ臨席總員ノ署名、捺印
 第七 第七百九十三條ノ場合ニ於テハ拒者ノ承諾
 若シ拒者カ署名、捺印スルコトヲ欲セス又ハ署名、捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ證書ニ明
 記ス可シ

第七百九十六條 第七百九十一條乃至第七百九十四條ノ規定ハ引受又ハ支拂ノ爲メニスル呈示爲
 替手形敷通ノ要求其他本章ノ規定ニ從ヒ或人ノ方ニテ爲ス可キ行爲ニモ之ヲ適用ス
 第七百九十七條 第七百十條及ヒ第七百一十一條ノ場合ニ於テハ其情況ヲ拒證書ニ明示シ且成ル可
 ク詳細ニ爲替手形ノ旨趣ヲ記シテ爲替手形ノ全文ニ代フ
 第七百九十八條 裁判所ノ役員又ハ公證人ハ其作リタル拒證書ノ全文ヲ日日帳簿ニ記入シ且被拒
 者ノ求ニ依リテ敷通ニ之ヲ作ル義務アリ
 拒證書作成ノ費用ハ被拒者之ヲ立替フルコトヲ要ス

第十款 戻爲替手形

第七百九十九條 所持人ハ償還金額ニ付キ各償還義務者ニ對シテ戻爲替手形ヲ振出スコトヲ得
 第八百條 戻爲替手形ノ費用ノ額ハ仲買人手數料、仲立人手數料、郵便税、印紙税及ヒ支拂地
 ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ因リテ定マル
 右ノ場合ハ戻爲替手形ヲ遞次振出ス場合ト雖モ本爲替手形ノ支拂地ヨリ振出地ニ宛テタル一覽
 拂爲替手形ノ相場ヲ超ユルコトヲ得ス
 第八百一條 戻爲替手形ニハ拒マレタル爲替手形、拒證書及ヒ償還計算書ヲ添フ可シ
 第八百二條 戻爲替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其前者中ノ一人ニ宛テ更ニ戻爲替手形ヲ振出スコトヲ
 得
 第十一款 資金

第八百三條 振出人又ハ自己ノ計算ニテ爲替手形ヲ振出サシメタル者又ハ明示シテ爲替資金ヲ供
 スル義務ヲ負ヒタル裏書讓渡人ハ支拂ニ對シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負フ

第八百四條 現金支拂ノ外爲替資金義務者カ支拂人ニ對シテ有スル債權又ハ信用ハ之ヲ爲替資金ニ充ツルコトヲ得

第八百五條 方式ニ依ラサル引受ト雖モ其引受ニ依リテ引受人カ爲替資金義務者ヨリ爲替資金ヲ受取リタリトノ推定ヲ生ス但參加引受ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百六條 爲替資金義務者ト所持人トノ間ニ在テハ爲替手形ノ引受ニ依リテ爲替資金ヲ供シタリトノ推定ヲ生セス

第八百七條 爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル支拂人ハ爲替資金ノ請求權ヲ爲替ノ原則ニ從ヒテ主張スルコトヲ得

第八百八條 支拂人ニ代ハリテ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル者ハ支拂人又ハ償還義務者ニ對シテ所持人ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

第八百九條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ爲替資金ヲ供シタルモ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ニ付キ連帶ノ責任ヲ免カレルコトヲ得然レトモ其責任ハ別段ノ契約ヲ以テ其契約者間ニ於テノミ之ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八百十條 支拂人ハ爲替資金ヲ受取リタルトキハ勿論假令之ヲ受取ラサルモ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ對シ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ノ義務ヲ明示ニテ負擔シタルトキハ引受者クハ支拂ヲ爲ササルニ因リテ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ生セシメタル損害ニ付キ責任ヲ負フ但此損害ニ付テノ請求ハ豫メ之ヲ支拂人ニ通知スルコトヲ要ス

第二節 約束手形
第八百十一條 約束手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨

第四 満期日

第五 振出人ノ署名、捺印

第八百十二條 約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得ス

第八百十三條 約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲ケサルトキハ振出ノ場所ニ於テ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第八百十四條 約束手形ノ振出人ハ其振出ニ因リテ満期日ニ支拂ヲ爲ス義務ヲ負擔ス

振出人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ引受ヲモ支拂ノ爲メノ呈示ヲモ拒證書ノ作成ヲモ要スルコト無シ然レトモ一覽後定期拂ノ約束手形又ハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニ在テハ其振出人ニ關シテモ第七百三十五條及ヒ第七百七十八條ノ規定ヲ適用ス

第八百十五條 右ノ外爲替手形ニ關スル規定ハ性質上抵觸セサルモノニ限り約束手形ニモ之ヲ適用ス

第三節 小切手

第八百十六條 小切手ハ寄託其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シテ繼續スル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲ記名セラレタル人又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ呈示ヲ受ケ次第或ル金額ヲ支拂ハシムル證券タリ

第八百十七條 小切手ニハ年月日ヲ記シ振出人署名、捺印ス可シ又小切手ハ一覽拂トスルニ非サ

レハ之ヲ振出スコトヲ得ス其他銀行ト明示又ハ黙示ニテ約定シタル振出ノ方式ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八百十八條 小切手ハ裏書ヲ以テ轉付スルコトヲ得若シ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタルトキ又ハ無記名式ニテ振出シタルトキハ交付ニ因リ之ヲ轉付スルコトヲ得

第八百十九條 小切手ハ引受チモ拒證書ヲモ要スルコト無シ又小切手ハ日附後三箇年ヲ以テ時効ニ罹ル

小切手ハ同地内ニ於テハ日附後五日內又振出地ト支拂地ト同シカラサルトキハ十日內ニ其支拂ヲ請求ス可シ

第八百二十條 呈示ノ上ニテ支拂ヲ受ケサルトキハ同地内ニ於テハ日附後十日內又振出地ト支拂地ト同シカラサル場合ニ於テハ二十日內ニ所持人ハ裏書讓渡人若クハ振出人ニ對シ裏書讓渡人ハ其前者若クハ振出人ニ對シテ償還請求權ヲ有ス但右ノ期限ヲ過キタルモ裏書讓渡人カ請求ヲ受ケタル翌日ニ爲シタル償還請求ハ有效ナリ

振出人ニ對シテハ振出人カ信用ヲ有セス又ハ信用ヲ消盡シ又ハ依頼ヲ取消シタルトキハ右期間ノ滿了後ト雖モ償還請求權ヲ有ス

振出人ハ爭アル場合ニ於テハ其小切手帳及ヒ通帳ヲ裁判所ニ差出ス義務アリ

第八百二十一條 振出人又ハ所持人ハ小切手ニ横線ヲ附シ其横線内ニ特ニ銀行ノミニ頁フ可キ旨ヲ記載スルコトヲ得

第八百二十二條 小切手ハ支拂金ヲ受取ル時受取證ヲ記シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第八百二十三條 日附ヲ爲サス若クハ虚偽ノ日附ヲ爲シテ小切手ヲ振出シ裏書讓渡シ若クハ之ニ

受取證ヲ記スル者又ハ日附ナキ小切手ヲ受取リ支拂ヒ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ相當ノ信用ナクシテ小切手ヲ振出シ若クハ正當ノ理由ナクシテ依頼ヲ取消ス者ハ小切手金額ノ百分ノ十ノ過料ニ處ス若シ刑法上ノ刑ニ處ス可キ行爲アルトキハ併セテ其刑ニ處ス

第二編 海 商

第一章 船 舶

第八百二十四條 日本人民ノ所有ニ專屬シ又ハ日本ニ主タル營業所ヲ有シ且日本ノ裁判權ニ服従スル會社其他ノ法人ニシテ合名會社ニ在テハ總社員、合資會社ニ在テハ少ナクトモ社員ノ半數、株式會社ニ在テハ取締役ノ總員、其他ノ法人ニ在テハ代表者ノ總員カ日本人民ナルモノノ所有ニ專屬スル商船其他ノ海船ハ日本ノ船舶ニシテ日本ノ國旗ヲ掲グル權利ヲ有ス

第八百二十五條 總テ日本船舶ハ航海ノ用ニ供スル以前ニ法律、命令ニ從ヒ職權アル者ノ測度ヲ受ク可シ若シ其積量十五噸以上ナルトキハ管海官廳ヨリ船籍證書ヲ受ケタル後船籍港ヲ管轄スル裁判所ニ於テ船舶登記簿ニ登記ヲ受ク可シ

端舟其他欄檻ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ欄檻ヲ以テ運轉スル舟ニハ本編ノ規定ヲ適用セス

第八百二十六條 船舶登記簿ニハ左ノ諸件ヲ登記シ且年月日ヲ記ス可シ

第一 船名及ヒ船籍港

第二 船舶構造ノ時及ヒ地ノ知レサルトキハ其時及ヒ地又船舶カ日本ノ船籍ニ歸シタルトキハ其時及ヒ事情

第三 官ノ測度證書ニ基キタル船舶ノ種類、大小、積量及ヒ詳細ナル記載

第四 船長ノ氏名及ヒ國籍

第五 一人又ハ數人ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ詳細ナル記載又船舶ノ所有權ニ付キ所有者ノ股分ノ割合及ヒ所有權取得ノ合法ノ原因

第八百二十七條 登記ハ一人若クハ數人ノ所有者又ハ委任狀ヲ有スル代人ノ陳述書ニ依リテ之ヲ爲ス其陳述書ニハ必要ナル證明書ヲ添フルコトヲ要ス

登記ヲ爲シタルトキハ其登記ト同文ノ船舶登記證書ヲ作リテ之ヲ所有者ニ交付ス

第八百二十八條 船籍證書及ヒ船舶登記證書ノ交付前ニハ國籍ヲ掲クル權利ヲ行フコトヲ得ス

船舶カ沈没シ又ハ日本ノ船舶タル資格ヲ失ヒタルトキハ其船舶ノ登記ノ取消ヲ爲シ且船舶登記證書ヲ還納ス可シ

第八百二十九條 登記シタル事實ニ變更ノ生スルトキハ船舶登記簿及ヒ船舶登記證書ニ其變更ノ登記ヲ受ク可シ

登記シタル船名ハ管海官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第八百三十條 船籍港外ニ於テ日本人民、會社其他ノ法人カ船舶ヲ取得シタルトキハ其船籍港

ニ到着スルマテハ外國ニ在テハ其取得ノ地若クハ其近傍ニ駐在スル日本領事、内國ニ在テハ地方官廳ヨリ假證書ヲ受ケ之ヲ船籍證書及ヒ船舶登記證書ニ代フルコトヲ得此場合ニ於テハ領事又ハ地方官廳ハ其證書ノ謄本ヲ管海官廳及ヒ船籍港ヲ管轄スル裁判所ニ遲延ナク送付スルコトヲ要ス

前項ノ證書ノ效用ハ領事ヨリ交付シタルモノハ、一箇年地方官廳ヨリ交付シタルモノハ半箇年ヲ以テ限トス

第八百三十一條 船籍證書又ハ船舶登記證書ノ喪失シ毀損シ又ハ用ユ可カラサルモノト爲リタルトキハ之ニ換ヘテ新ナル船籍證書、船舶登記證書若クハ前條ノ假證書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第八百三十二條 船舶カ國旗ヲ掲クル權利ヲ有セスシテ之ヲ掲クルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

又事情ニ從ヒ殊ニ不正ノ船籍證書又ハ船舶登記證書ヲ用井タルトキハ其船舶ヲ沒收ス

日本ノ船舶カ外國ノ國旗ヲ掲ケテ外國ノ國籍ヲ冒シタルトキハ前項同一ノ罰ニ處ス但敵ヲ避クル場合ハ此限ニ在ラス

第二章 船舶所有者

第一節 船舶所有權ノ取得及ヒ移轉

第八百三十四條 商船其他ノ海船ハ之ヲ動産トス但本法ニ例外ヲ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

第八百三十五條 船舶構造ノ契約及ヒ賣買其他ノ權利行爲ニ因リテ船舶ノ全部若クハ股分ヲ取得

スル契約ハ特ニ作レル契約證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ取結フコトヲ得ス

相續、結婚其他此類ノ事由ニ因レル船舶所有權ノ移轉ハ公正ノ證書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

第八百三十六條 船舶ハ其所有者タラサル者ニ在テハ所有者ノ明示ノ委任ニ依ルニ非サレハ有效

ニ之ヲ賣却スルコトヲ得然レトモ船長ニ在テハ明示ノ委任ヲ受ケサルモ避ク可カラサル必要

アリテ官ノ證認ヲ經タル場合ニ於テハ特ニ競賣ヲ以テ有效ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第八百三十七條 船舶ノ取得時効ノ期間ハ二十箇年トス但船長ハ時効ニ因リテ船舶ヲ取得スルコ

トヲ得ス

第八百三十八條 船舶ノ所有權ハ別段ノ契約アルニ非サレハ航海ノ爲メニスル總テノ機裝物殊ニ
桅樁、帆具、綱具、機關、碇、船用器具、端舟、貯蓄品及ヒ糧食ノ所有權ヲ包含ス但船長又ハ海員
ノ一身ニ屬スル所有物ハ此限ニ在ラス

第八百三十九條 航海中ニ船舶ヲ讓渡シタルトキハ其航海ヨリ生スル利益及ヒ損失ハ別段ノ契約
アルニ非サレハ取得者ニ移ル

第八百四十條 任意ニ爲ス船舶ノ賣却ハ船舶債權者ノ債權ニ對シテ船舶ノ負擔スル責任又ハ其
賣買價額ノ負擔スル責任及ヒ讓渡人ノ一身上ノ義務ニ變更ヲ生スルコト無シ強制賣却又ハ必要
賣却ノ場合ニ在テハ船舶ノ負擔スル責任ハ當然賣買價額ニ移ル

第二節 船舶所有者ノ權利及ヒ義務

第八百四十一條 船舶ノ所有權カ二人以上ノ股分所有者ニ屬スルトキハ航海ニ關スル一切ノ業務
ニ付キ其代理トシテ船舶管理人ヲ置クコトヲ要ス

第八百四十二條 所有者ハ船長及ヒ海員ノ職務施行ニ關スル行爲ニ付テハ船舶及ヒ運送貨ヲ以テ
責任ヲ負フ若シ船長カ同時ニ所有者ナルトキハ船長ハ無限ノ責任ヲ負フ然レトモ股分所有者ナ
ルトキハ過失ノ爲メ自己ニ不分ノ責任ノ歸セサルトキニ限り其股分ノ割合ニ應シテ責任ヲ負ヒ
尙ホ不足アルトキハ其不足額ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ

第八百四十三條 所有者ハ船長ヲ任シ又隨意ニ之ヲ免スルコトヲ得又書面ノ契約アルニ非サレハ
船長ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セス

第八百四十四條 船長カ同時ニ股分所有者ナル場合ニ在テ其意ニ反シ罷免セラレタルトキハ自己

ニ屬スル股分ノ價額ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得但其價額ハ鑑定人ノ鑑定ニ從フ

第八百四十五條 二人以上ノ股分所有者ノ間ニ在テハ船舶ニ關スル總テノ事件ハ議決權ノ過半數
ヲ以テ決定ス其過半數ハ各所有者ノ股分額ニ從ヒテ之ヲ算ス

過半數ノ決議ヲ得ルニ至ラサルトキハ議決權ノ半數ノ決議ヲ以テ船舶ノ競賣ヲ求ムルコトヲ得
或ル股分所有者カ必要ナル新支出ニ同意セサルトキハ其所有者ハ自己ノ股分ヲ他ノ股分所有者
ニ委付シテ賦課金ノ義務ヲ免カルコトヲ得但股分額カ賦課金ヲ超ユルトキハ其超過額ノ支拂
ヲ受クルコトヲ得

第八百四十六條 各船舶所有者ハ總テノ費用及ヒ損失ヲ扣除シタル後ニ非サレハ航海ニ因リテ生
スル利益ヲ請求スル權利ナシ

第八百四十七條 股分所有者ハ他ノ股分所有者又ハ船舶管理人ノ承諾ヲ受ケスシテ何時ニテモ自
己ノ股分ヲ自由ニ讓渡スコトヲ得

第八百四十八條 船舶股分ノ所有權ノ移轉ニ因リテ船舶カ其國籍ヲ失フ可キトキハ他ノ股分所有
者ハ右ノ股分ヲ自己ノ計算ニ引受ケ又ハ其股分ヲ所有スル資格アル者ニ競賣センコトヲ求ムル
權利アリ但自己ノ計算ニ引受ケル場合ニ在テ己ムヲ得サルトキハ裁判上ノ手續ヲ以テ其股分ノ
價額ヲ定ム

會社社員ノ變更ニ因リ船舶カ其國籍ヲ失フ可キトキハ會社ハ其社員ノ持分ヲ之ヲ所有スル資格
アル者ニ競賣センコトヲ求ムル權利アリ

第三章 船舶債權者

第八百四十九條 船舶ハ第三者ノ占有ニ在ルトキト雖モ其附屬物及ヒ未收ノ運送貨ト共ニ左ニ掲

クル債權ノ爲メ以下ノ順序ニ從ヒテ責任ヲ負フ

- 第一 船舶ノ強制賣却及ヒ其賣却金ノ分配ニ係ル裁判上其他ノ費用、強制賣却ノ開始以來船舶及ヒ附屬物ノ監守並ニ保全ノ費用
- 第二 船舶航海ノ諸税即チ港税、噸税、燈臺税其他ノ税
- 第三 入港以來船舶及ヒ附屬物ノ保全ノ費用、水先案内料及ヒ挽船料
- 第四 最後ノ航海中ノ共同海損及ヒ救援、救撈其他救助ニ付テノ費用
- 第五 最後ノ雇入契約期間中其契約ヨリ生スル船長及ヒ海員ノ債權
- 第六 最後ノ航海中船舶ノ需用ノ爲メ船長ノ爲シタル借入ニ付テノ債權及ヒ同一ノ目的ノ爲メ船長ノ賣却シタル積荷、船長ニ渡シタル物若クハ給シタル勞役ニ付テノ求償權
- 第七 未タ航海ヲ爲ササル船舶ノ賣却、構造又ハ艤裝ヨリ生スル債權並ニ勞役賃及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル修繕、艤裝又ハ糧食準備ヨリ生スル債權但出港セサル前ニ限ル
- 第八 船舶ノ構造又ハ艤裝ノ爲メノ消費費ヨリ生スル債權及ヒ船舶力未タ引渡サレサル間ハ自己ノ計算ニテ構造セシムル者ノ爲シタル代價割拂ニ付テノ債權
- 第九 最後ノ航海又ハ最後ノ保險料支拂期間ニ係ル船舶及ヒ附屬物ノ保險料ニ付テノ債權
- 第十 船長又ハ海員ノ過失ニ因リテ積荷若クハ旅客ノ旅荷物ヲ引渡サス又ハ之ニ損害ヲ加ヘタルヨリ生スル債權
- 第十一 船舶ノ衝突其他船長又ハ海員ノ過失ノ場合ニ於ケル損害賠償ニ付テノ債權
- 第十二 船舶登記簿ニ登記シタル債權但其登記ノ日附ノ順序ニ從フ
- 第十三 右ノ外船舶ノ所有者又ハ賣却者ニ對スル總テノ債權

同一號内ニ於ケル二人以上ノ債權者ハ同一ノ割合ヲ以テ辨償ヲ受ク但第十二號ノ場合ハ此限ニ在ラス

- 第八百五十條 運送賃ノ負擔スル責任ハ最後ノ航海ノ運送賃ヲ以テ限トシ一航海ノ爲メ又ハ一航海中ニ生シタル債權ニ對シテハ其航海ノ運送賃ヲ以テ限トス
 - 第八百五十一條 登記セサル債權ニ付キ船舶又ハ運送賃ノ負擔スル責任ハ任意ノ讓渡ノ場合ニ在テハ船舶力讓渡人ノ債權者ノ異議ヲ受クルコト無ク取得者ノ名義及ヒ計算ニテ船籍港ヨリ新ニ航海ヲ爲シ且其發航以來少ナクトモ六十日ヲ經過シタル後消滅ス
 - 第八百五十二條 船舶ニ對スル債權ノ登記ハ第八百五十七條ノ場合ヲ除ク外ハ登記ヲ受ケタル船舶ニシテ特ニ作レル抵當證書ニ依ルニ非サレハ之ヲ許サス
- 右ノ登記ハ其日附ヨリ起算シテ三箇年間其效ヲ有ス若シ此期間滿了前ニ之ヲ更新セサルトキハ其效ヲ失フ

- 第八百五十三條 登記ハ船舶登記簿ニ之ヲ爲ス又其登記ニハ左ノ諸件ヲ包含スルコトヲ要ス
 - 第一 債權者及ヒ債務者ノ氏名、住所
 - 第二 債權ノ額及ヒ其合法ノ原因
 - 第三 抵當證書ノ年月日
 - 第四 登記ノ時日

第八百五十四條 登記ヲ爲シタルトキハ登記證書ヲ交付ス若シ其以前ニ登記シタル債權アルトキハ其債權ヲモ併記ス可シ此證書ハ裏書ヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得其裏書讓渡ハ船舶登記簿ニ登記ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ其效ヲ有セス

第八百五十五條 登記シタル債權ハ債權者ノ書面上ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リテ消滅ス此場
合ニ於テハ登記證書ヲ裁判所ニ還納シ裁判所ハ其證書ニ債權消滅ノ旨ヲ記ス可シ

第八百五十六條 船舶債權者ハ其債權ノ證據完全ナルトキニ限り裁判所ノ命令ニ依リテ船舶ノ競
賣ヲ爲スコトヲ得但法律上ノ優先權ハ此力爲メニ妨ケラレルコト無シ

船舶ノ股分ニ付テノミ債權ヲ登記シ又ハ股分所有者ニ對シテノミ之ヲ主張スルトキハ其債權ニ
關スル股分ノミノ競賣ヲ爲スコトヲ得但其股分ノ額カ船舶全部ノ額ノ半ヲ超ユルトキハ此限ニ
在ラス

第八百五十七條 船舶債權者ノ權利ハ構造中ノ船舶ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得
構造中ノ船舶ノ登記ハ其登記ヲ受クルニ至ルマテハ將來船籍ヲ定ム可キ地ノ裁判所ニ相當ノ明
告ヲ爲スヲ以テ之ニ代フ

第八百五十八條 船舶カ沈没シ又ハ航海ノ用ニ耐ヘサルニ至ルトキハ船舶債權者ノ權利ハ救助セ
ラレタル部分若クハ尙ホ存在スル部分又ハ其實得金及ヒ被保險額ニ移ル

船舶債權者ノ債權ハ其債權者ヨリ獨立シテ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得

第八百五十九條 船舶ハ發航ノ準備ヲ終リタル時ヨリシテ債務ノ爲メニ差押ヘラレルコト無ク又
其乗組員ハ引留メラレルコト無シ但其爲サントスル航海ノ爲メニ負ヒタル債務ニ付テハ此限ニ
在ラス

第四章 船長及ヒ海員

第一節 船長

第八百六十條 船長其他ノ船舶指揮者ハ其職務ノ執行ニ當リ些少ナル過失ニ付テモ責任ヲ負ヒ

殊ニ積荷ニ付キ及ヒ旅客ノ安全並ニ其積物ニ付キ責任ヲ負フ

第八百六十一條 船長ハ或人ノ指圖ヲ受ケテ爲シタル行爲ニ付テハ其人カ其情況ヲ知りタルトキ
ニ限り其人ニ對シテ責任ヲ免カル

船長カ其特別ナル職務上ノ義務ニ背反スルトキハ不可抗力又ハ意外ノ情況ニ因リテ惹起シタル
ニ非サル災害ニ付キ責任ヲ負フ

第八百六十二條 船長ハ航海ノ際船舶ノ航海ニ耐フルコト船舶ノ機裝、海員ノ具備、糧食ノ準備
並ニ積荷ノ配置ノ適當ナルコト必要ノ底荷ヲ具備スルコト過分ノ積荷ヲ爲ササルコト及ヒ過分
ノ旅客ヲ載セサルコトニ付キ注意ヲ爲ス可シ

第八百六十三條 船長ハ海員ヲ選擇シテ雇入レ乗組員ヲ編成シ船舶ヲ修繕シ機裝シ及ヒ運送契約
ヲ取結フ權利ヲ有ス然レトモ此等ノ事項ニ關シテハ船舶所有者又ハ其代人ノ指圖ニ從フコトヲ
要ス

第八百六十四條 船長ハ航海ノ際船籍證書、船舶登記證書、航海日誌、海員名簿、稅關ノ納稅受
取證書、運送契約並ニ積荷ニ關スル書類及ヒ旅客名簿ヲ船中ニ備フ可シ

第八百六十五條 航海日誌ハ船長ノ監督ヲ受ケテ一等役員之ヲ掌リ船舶、海員、旅客及ヒ積荷ニ
關スル總テノ情況並ニ事故殊ニ左ノ諸件ヲ日之ニ記載ス

第一 船舶ノ發航地、立寄地、通航地ノ名

第二 風候、天氣及ヒ潮流

第三 進航シタル線路及ヒ經過シタル距離

第四 測知シタル經度及ヒ緯度